

平成25年度
宮城県検証改善委員会報告書

教師も子供も「本気で取り組む」
みやぎ
授業づくりスタンダード



宮 城 県 教 育 委 員 会

はじめに

平成19年度以来6回目となった全国学力・学習状況調査が平成25年4月24日に実施されました。

調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況の把握・分析と教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する持続的な検証改善サイクルを確立すること、また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることにあります。

今年度の調査は、これまでの抽出及び希望利用方式に替わり3年ぶりに悉皆調査として実施されました。本県の小学生は、国語・算数のA問題、B問題のいずれの教科においても全国平均を下回り、中学生は国語において、A、B問題とも全国平均を上回ったものの、数学はA、B問題とも全国平均を下回るなど、課題が見られる結果となりました。

これまで過去5回の調査では全国平均とのかい離が縮まるなど改善傾向が見られ、現場の教職員をはじめ教育関係者の皆様が一丸となって取り組んできた成果が着実に現れてきていただけたに、今回の調査結果を厳粛に受け止めております。

県教育委員会では、この調査結果を踏まえ、教育関係者はもとより、精神科医、有識者、PTAなど幅広い関係者に御参加いただき「学力向上に関する緊急会議」を平成25年10月2日に開催し、「子供の声に耳を傾けること」「子供をほめること、認めること」等「学力向上に向けた5つの提言」として発信したところです。

本調査に関する業務は、今年度から開所した宮城県総合教育センターに移管するとともに、引き続き宮城県検証改善委員会を設置し、本県の児童生徒の学力向上に向けた結果分析と対応策等について報告書をまとめ、「みやぎ授業づくりスタンダード」として、「教師も子供も『本気で取り組む』」をキーワードに改めて「分かる・できる」授業づくりのための基本的なポイントを示しました。

本報告書が、各学校における学力向上の取組に積極的に活用され、本県の児童生徒が学習意欲や自信を持ち、安心して学校生活を送ることができるよう役立てて頂けることを期待しております。

平成26年1月

宮城県教育委員会

教育長 高橋 仁

はじめに

第1章 児童生徒の学力向上に向けて

1 授業づくりスタンダード 1

本 本時で何を学ばせるのかを考えましょう！
気 気付きを生かして自分の考えを書かせましょう！
で 出てきた考えを比較・検討させ、深めさせましょう！
と 説くことでなく、振り返らせることで自ら学びを実感させましょう！
り 理想の授業，指導力の向上を目指して研究授業の充実を図りましょう！
く 繰り返し，継続して授業を参観し合い，授業改善に取り組みましょう！
む 夢中にさせる授業を創造するために，指導方法を工夫しましょう！

2 教員の教科指導力の向上 11

平成25年度の調査結果から成果の上がっている内容と課題と考えられる内容

- (1) 小学校 国語科 _____ 11
- 成果と課題，指導改善のポイント例
 - 授業アイデア例
- (2) 中学校 国語科 _____ 15
- 成果と課題，指導改善のポイント例
 - 授業アイデア例
- (3) 小学校 算数科 _____ 19
- 成果と課題，指導改善のポイント例
 - 授業アイデア例
- (4) 中学校 数学科 _____ 23
- 成果と課題，指導改善のポイント例
 - 授業アイデア例

3 児童生徒の学習習慣の形成 27

4 教育環境基盤の充実 28

第2章 全国学力・学習状況調査結果

1	全国学力・学習状況調査の概要	29
2	各教科の調査の結果	31
3	類似問題の経年比較（H22小とH25中の類似問題の比較）	47
4	児童生徒質問紙調査結果	52
5	学校質問紙調査結果	54
6	平均正答率の高い県との比較	56
7	平成22年度の調査結果との比較	60
	宮城県検証改善委員会について	61
	資料 『学力向上に関する緊急会議』からの提言	62



第1章 児童生徒の学力向上に向けて

教師も子供も「本気で取り組む」

みやぎ 授業づくりスタンダード



- 本** 本時で何を学ばせるのかを考えましょう！
- 気** 気付きを生かして自分の考えを書かせましょう！
- で** 出てきた考えを比較・検討させ、深めさせましょう！
- と** 説くことでなく、振り返らせることで自ら学びを実感させましょう！
- り** 理想の授業、指導力の向上を目指して研究授業の充実を図りましょう！
- く** 繰り返し、継続して授業を参観し合い、授業改善に取り組みましょう！
- む** 夢中にさせる授業を創造するために、指導方法を工夫しましょう！

「分かる・できる」授業づくりのための基本的なポイントを「みやぎ授業づくりスタンダード」としてまとめました。

どの学校でも、どの教室でも、どの教員も共通の視点を持ちながら、日々の授業改善に向かっていたきたいと思えます。

本：本時で何を学ばせるのかを考えましょう！

段階	学習課題の把握	1 本時のねらいを明確にする
		<p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領を踏まえていますか。 ・本時の学習活動を通して身に付けさせたい力は何ですか。 ・目の前の児童生徒の実態を踏まえたものになっていますか。 ・単元全体を見通して、本時の位置付けを捉えていますか。 <p>○ ねらいを達成させるために何を指導するのか（教えること、考えさせること）、どのような力を身に付けさせたいのかなどを明確にすることで、指導の方向性が決まってきます。</p> <p>○ 教材研究の段階で、単元の系統性を踏まえ、児童生徒にとって何が既習か、どこが未習かなどを的確に捉えることが重要です。</p> <p>○ ねらいを達成した児童生徒の具体の姿を明確にしておきましょう。</p>
入	見通す	2 ねらい達成のために適切な学習課題を設定する
		<p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が主体的に追究したくなる課題になっていますか。 ・本時のねらいが達成できる課題になっていますか。 ・既習事項とのずれを生じる問題（教材）を提示し、児童生徒から問いを引き出していますか。（算数・数学など） <p>○ 児童生徒一人一人が、やってみたい考えてみたいという興味・関心を高めるものを提示し、自分のこととして捉えられるよう問題意識を喚起することが大切です。</p> <p>○ 問題（課題）提示により、児童生徒の問いを引き出し、つぶやきを拾い上げ、それらを生かした学習課題の設定につなげるよう十分な計画を立てましょう。</p> <p>○ 「なぜだろう？」「あれっどうして？」という疑問や知的好奇心を引き出すことが、主体的に「考えたい」「解決したい」「友達の考えを聞いてみたい」という意欲につながります。</p> <p>○ 本時でどのような力を付けさせたいのかを教材研究によって明らかにしておくことが大切です。問題場面を解決するだけが学習のねらいになるわけではありません。</p>
展	自力解決 集団解決〔比較・検討〕	3 学習課題と学習のまとめが対応することを意識して設定する
		<p>○ どのようなまとめとなるかを教師が明確にしておくとともに、児童生徒には「学習課題に立ち返らせる」ことで、学習活動の目的を意識させましょう。</p>
終	まとめ・振り返り	



気：気付きを生かして自分の考えを書かせましょう！

段階	学習課題の把握	1 自分なりの解決方法で課題に取り組ませる	
		見通す	自力解決
展	開		
		終	末
<p>○ 『学びが見えるノートにしよう！』</p> <p>学年の発達段階や教科の特性に応じてノートの書き方も異なりますが，学校，教科で共通理解をして指導することが大切です。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 板書を視写する（構造的な板書が求められる）。 ② 自分の考えを書く。 ③ 友達の考えや授業のポイントなどを書く。 ④ 学び合い（考えの交流）の後，考えを見直したり，書き加えたりする。 ⑤ 本時の学習を振り返る。 <p>①②で終わらずに，③④⑤を意識して自分の考えの変容など学びを振り返られるノートに！</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ノートはできれば授業ごとに回収して，評価することで児童生徒の意欲，思考力，表現力を高めます。 ● 児童生徒の発達段階等を考慮して，場面絵を描いたり，イラストで描くことなど多様な表現方法を認め，あせらず徐々に段階を踏んで考えさせていくことが重要です。 			



学習問題	友達の考え
学習課題	※気付き・新たに考えたことなど
自分の考え	○まとめ
	○振り返り


ノート例

で：出てきた考えを比較・検討させ、深めさせましょう！

段階	学習課題の把握	1 ねらいに応じた話合いの方法，形態を工夫する	
		見通す	<p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要感のある話合いになっていますか。 考えの発表で終わっていませんか。 児童生徒に話し合う目的や方法を示していますか。 (児童生徒は話合いの目的や方法を理解していますか。) <p>○ 形だけのペア学習，グループ学習，全体での話合いを行うことではありません。本時のねらいを達成したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けさせたりするために言語活動の充実が必要なのです。</p> <p>○ ペア学習やグループ学習を行う目的や方法を児童生徒に示し，継続して指導を行うことで，目的意識や話合いの方法が身に付きます。</p> <p>○ 話し合う目的は何か，そのためにどのような話合いの形態がふさわしいのかをよく考えてペア学習やグループ学習を取り入れましょう。</p>
展開	自力解決	2 児童生徒間の関わりを意図的に設定する	
	集団解決 比較・検討	<p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> いつも決まった児童生徒だけの発表になっていませんか。 能動的に「聞くこと」「聴き合うこと」を意識させていますか。 児童生徒の思いや考えを見取り，褒めたり認めたりするとともに意図的に類型化して取り上げていますか。 共通点や相違点を整理して，それぞれの考えを関連付けていますか。 教師が全て説明していませんか。 児童生徒に説明や関連付けをさせていますか。 <p>○ 児童生徒の考えを見取り，どの考えをどの順番で取り上げ，関連付けるかを考えておくことが大切です。</p> <p>○ 関わらせる目的を明確にし，話し合う必然性を理解させることが大切です。「多様な考えを引き出したい」「友達の考えを理解させたい」「どの考えがよりよい考えか検討させたい」などを明確にするとともに，対立や矛盾などを示すことで，児童生徒の思考を揺さぶり，話合いをする必然性をつくっていきます。</p> <p>○ ペア学習，グループ学習では，何を発表させ（説明させ），何を書かせるか（相違点や相手の考えのなるほどと思ったところなど）など目的や意味を理解させていくことが大切です。</p> <p>○ それぞれの考えを関連付け，共通点や相違点に気付かせたり，考えを比較・検討させたりすることが教師の大切な役割です。考えや気づき，学ぶ姿などに向上的な評価言を添え，自己肯定感を高めさせましょう。</p> <p>○ なるほどと思った友達の考え方や新たに気付いたことなどをノートに書き加えることで，学び合うことの意義，考えの深まりを実感させたいものです。</p>	
終末	まとめ・振り返り		



と：説くことでなく，振り返らせることで自ら学びを実感させましょう！

段階	導入	学習課題の把握 見通す	<h2>1 本時の学習をまとめる</h2> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に対応したまとめになっていますか。 ・形式的に板書を視写するだけになっていませんか。 ・学習したことが共有できていますか。 ・1時間の学習が一目で分かる板書になっていますか。 <div style="text-align: right;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 答えを出した方法を吟味し，よりよい方法を学び，いつでも使える一般的な方法に高めたり，問題を解くポイントをまとめたりすることが大切です。 ○ 本時の学習を通して「何が分かったのか」「どのような力が身に付いたのか」が分かるように，本時のねらいや学習課題と整合性があるかを意識してまとめましょう。 ○ 板書が構造的で見やすく，分かりやすいものであるか，板書計画を吟味しておきましょう。学習課題とねらいに整合性があるかを可視化して判断することができます。 </div>	
			展開	集団解決（比較・検討）
終末	まとめ・振り返り	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>家庭学習につなげる工夫も考えましょう。</p> </div>		

①：理想の授業，指導力の向上を目指して研究授業の充実を図りましょう！

◎ 教師の授業力を伸ばす・・・「授業づくり～模擬授業のすすめ～」

模擬授業とは ⇒ 教師が指導者役と児童生徒役に分かれ，授業場面を実際にやってみること



実際に模擬授業を行ってみると，自分の書いた指導案の展開では授業がうまく流れないことに気付いたり，発問が分かりにくかったり，児童生徒役の先生の反応にうろたえたりと，いろいろな改善点が見えてくるものです。

この模擬授業は，授業のある場面だけを想定して行うことも可能ですので，単位時間（45分間や50分間）をかけなくても実践できます。教師役だけではなく，児童生徒役になることも，児童生徒理解の一助にもなりますし，何よりも，学校や学年の研究への取組に一体感が生まれます。

模擬授業のよさについて ⇒ 本時のねらいや提案事項を事前に共有化すること



模擬授業は，実際の授業場面を想定して行うので，授業の流れ，発問のよしあし，指示，板書の仕方やタイミング，教師の動き，児童の反応などを具体的に検討できます。普段の授業で迷っていることや疑問に感じていることを提示しながら，その状況を共有し，改善点を見付け出すことができます。

また，授業者の細かい指導技術を学んだり，より効果的な指導技術を見付け出すこともできます。さらに，教師が児童生徒役になってみることによって，児童生徒の反応を多方面から予測することを学べ，授業を考える上でのヒントをいくつも得られます。

1時間の授業を全て行う必要はありません。研修内容によって，10分間でも20分間でもかまいません。導入の部分だけを取り上げて見ることもできますし，展開の一場面を取り上げてみることも可能です。

模擬授業の方法 ⇒ 趣旨説明は端的に，途中解説を入れずに，本番のように行うこと

全体で

研究授業の事前検討会に模擬授業を取り入れている学校もあります。参加者全員で学習過程のポイントとなる部分や，授業者が悩んでいる部分を模擬授業を通して検討することで，より授業改善につながります。

また，打合せの前や職員会議のはじめに，輪番制で10分間の模擬授業を行う方法もあります。気付いたことを付箋紙やメモなどに書き，視点別のシート等に貼って授業者に渡したり，回覧したりする方法です。このように短時間で継続的に行う方法も可能です。



教科ごとで

中学校の教科部会で，研修の一環として，模擬授業を取り入れていく方法です。同一教科担当者が，共通の課題を意識しながら模擬授業を行うことで，教科ならではの研修ポイントを絞って行うことができます。

学年部ごとで

学年部会を活用して模擬授業を行う方法です。同学年担当の教員であることから，児童生徒の実態を理解し合うことが容易で，授業の指導技術だけでなく，広く児童生徒の指導を考えることが可能です。

🔥: 繰り返し、継続して授業を参観し合い、授業改善に取り組みましょう！



自分の授業を公開して多くの先生方に参観してもらったり，他の先生の授業を参観したりすることで，授業を互いに見合う機会が増えてきます。模擬授業や研究授業等では，ねらいに応じて，適切な観点を設定したいものです。校内研究の視点や手立てを活用している学校も多いかと思われます。

模擬授業実施の観点例

模擬授業を効果的に行うためには，模擬授業での指導の観点を明確にすることが大切です。観点例を以下に挙げてみます。

(1) 授業の進め方について

- ・ 導入部には，児童生徒を引きつける工夫が見られるか。
- ・ ねらいが明確であり，ねらいに沿った学習課題が提示されているか。
- ・ 展開部には，教える場面や考えさせる場面，児童生徒の活動場面が適切に設定されているか。
- ・ 児童生徒の思考や活動に無理がないように，授業が易から難へと展開するように工夫されているか。
- ・ 教師は何を学ばせたか，児童生徒は何を学んだかが明確になっているか。

(2) 教師の発問や指示について

- ・ 学習課題（めあて）を達成できるような発問になっているか。
- ・ 教師の意図に沿って児童生徒が活動できるような指示になっているか。
- ・ 発問や指示は，ねらいが明確で分かりやすいものか。また，児童生徒の意欲を引き出し，活発に活動させることができるように工夫されているか。
- ・ 児童生徒の発達段階に即した言葉遣いであるか。

(3) 板書について

- ・ 1時間の授業の流れ，学習の足跡が見える板書になっているか。
- ・ 文字の大きさや分量，チョークの色使い，提示物は適切であるか。
- ・ 1時間の授業の「学習課題（めあて）」や「まとめ」は分かりやすくまとまっているか。

(4) 児童生徒への配慮や支援について

- ・ 児童生徒一人一人の発達段階や理解の程度に配慮しながら，意図的な指名ができてきているか。
- ・ 児童生徒の実態に応じた手立てや支援は適切であるか。
- ・ 児童生徒を認め，褒めたり励ましたりすることで，自己肯定感をもたせているか。
- ・ 机間指導のねらいやタイミングは適切であるか。
- ・ 児童生徒が学びを実感できる振り返りがなされているか。

(5) 資料や教材について

- ・ 準備された資料や教具は，ねらいを達成する上で適切であるか。

「教師にも大切な振り返り」 日々の授業を振り返り、次の実践につなげましょう。

○ 授業評価の意義

授業評価は、学習指導要領や教育目標を踏まえ、授業のねらいや児童生徒の実態に照らし合わせながら、多面的・多角的に振り返る営みです。授業評価を基に授業改善を図っていくことは、教師一人一人の力量を確かなものにし、授業の質を高めることにつながります。それは、児童生徒一人一人の学力向上にもつながるものです。

○ 今日的な授業評価

授業評価は、「校内研究の目標や仮説に沿っての評価」「単元や学期を通しての総括的な評価」になりがちです。日々の授業については、教師自身の判断で意図的に評価する以外は、学校全体で日常的にあまり行われてこなかったのではないのでしょうか。形成的評価が授業の過程で実施され、授業計画の修正や児童生徒の回復指導などに生かされますが、授業のポイントが明確でなかったり、児童生徒へ適切にフィードバックされていなかったりしている面があります。また、評価方法や観点なども学校として共通に認識されていなかったかもしれません。

学校全体で日々の授業を改善するためには、個々の教師が日々の自分自身の授業を継続的に振り返ることはもちろん、学年部や教科部、全校で互いの授業を気軽に見せ合い（「開き」）、意見を交換し合いながら授業の課題を共有していくことが大切です。

さらに、これからは児童生徒や保護者、地域の方々など様々な評価にも耐えうる授業づくりが一層求められています。時代のニーズに対応できるような授業評価を求め、授業力の向上に努めていく必要があります。

○ 授業評価シートの作成と活用に向けて

学校全体で授業の質を上げていくための授業評価の方法には、教科や児童生徒の発達段階に応じた様々な方法があると思います。まずは評価者が評価項目を共有し、同一の視点から授業を検討する必要があると感じます。課題の共有化や授業改善の糸口の発見が可能になると考えられるからです。

そのためにも、校内で統一した授業評価シートを作成し、**授業者自身が授業を振り返ったり、全校で授業の成果と課題を明らかにしたりして授業改善につなげる**ことがより大切になってきます。評価結果を集約し、これを基に授業検討会を行うことでより活発な話し合いができるかもしれません。

評価シートの観点や項目については、各学校の教育目標や校内研究の目標、授業評価の実態などを踏まえて作成することが大切であると考えます。

本気でとrikumu

〈授業評価シート（例）〉

◎ できる 続ける つながる 3分間の振り返り

※ 評価後、授業づくりスタンダードを活用し、授業改善につなげましょう。

No. _____		月 日 ()	時
		授業教科 ()	
A : おおいにあてはまる B : あてはまる C : ややあてはまる D : あてはまらない			
観点の項目 (参考ページ)	設	問	評 価
授 業 展 開 や 指 導 技 術	ねらいの明確化 (P 1)	・ 授業のねらいを明確にし、学習課題（めあて）を板書し、子供に把握させている。	
	思考場面 (P 2)	・ 子供が考える場面、書く時間を十分確保している。	
	発表や学び合いの工夫 (P 3)	・ 子供が発表できる機会を作っている。 ・ 話し合うねらいを明確にして、適切な形態（ペアやグループ、全体等）で話し合う場を設定している。	
	発問・指示 (P 6)	・ 子供にとって明確で分かりやすい発問や指示をしている（繰り返さない）。 ・ 教師が説明し過ぎず、子供から考えを引き出している。	
	対応・支援 (P 3) (P 2) (P 6)	・ 意欲の低い子供、発言が少ない子供にも意図的・計画的な指名をし、適切に声掛けしている。 ・ 子供の声に耳を傾け、考えや学ぶ姿を見取り、褒めたり、励ましたりしながら、子供の学習意欲や自己肯定感を高めている。	
	板書 (P 6)	・ 授業の内容が構造化され、重要箇所は色チョークを使い、1時間の学びが分かるよう工夫されている。	
子 供 の 様 子	評価（振り返り） (P 4)	・ 授業の最後に、本時の授業を振り返り、学びの実感をもたせている（適用問題、小テスト、学習感想、自己評価や相互評価等）。	
	子供の様子で気付いたこと		

※ 授業内容に応じて、項目を増やしたり、絞ったりすることも必要と考えられます。授業評価シートを活用して日々の授業を振り返り、授業改善につなげましょう。

む：夢中にさせる授業を創造するために、指導方法を工夫しましょう！



教師が本気になって「分かる授業・できる授業」づくりに取り組むことは、着実な授業改善、授業力向上につながっていきます。また、「分かる授業・できる授業」が児童生徒の学習意欲を高め、学ぶ楽しさ、できる喜びを実感させることで、学力の向上が図られていくものと考えます。

児童生徒にどのような力を身に付けさせたいのか明確にして、授業アイデア例を有効に活用したり、授業に工夫を加えたりするなどできることから始めましょう。

- ※ 授業アイデア例・・・① 国立教育政策研究所教育課程研究センター
- ② 本報告書 等

～ 当たり前に行っていることも意図的に！ 基礎的な力、
 「書く力」「考える力」等を伸ばす授業のワンポイント工夫例 ～
 習熟の工夫、既習事項や新聞等の活用、課題提示の工夫で子供を鍛える

- (1) 「効率的な漢字練習法で定着率の向上」
- (2) 「習熟を通した定着率の向上」
- (3) 「社説を使った、読む力と書く力の向上」
- (4) 「課題提示の工夫で学習意欲・思考力の向上」



(1) 「効率的な漢字練習法」

- ① ノートに折り目をつけて四列にする。
- ② 練習したい漢字の読み方をノートの一列目に書く。
- ③ 少し時間をおいてから、その漢字が書けるかどうか
 答えを二列目に書いてみる。【1回目】
- ④ 自分で赤鉛筆を使って丸付けをする。
- ⑤ 丸が付いたものは覚えた漢字なので1回目で合格。
 間違えたり書けなかったりした漢字だけ、読み方を、三列目にもう一度書く。
- ⑥ 間違えたり書けなかったりした漢字だけを、四列目に書いてみる。【2回目】
- ⑦ 自分で赤鉛筆を使って丸付けをする。【後は全部書けるまで繰り返し】

◎ノート

一列目
二列目
三列目
四列目

- ・ この「自己テスト法」は、書ける（覚えた）漢字は1回だけ、書けない（覚えていない）漢字は、書けるまで（覚えるまで）何回も練習することになります。
- ・ 例えば、同じ漢字を10回ずつ書いて覚える作業だと、書けるようになっている漢字も10回ずつ書くことになりしますので、その分だけ時間が余計にかかります。大切なのは、その漢字を書けるようになったか（覚えたか）どうかですので、このやり方だと、時間を節約しながら、効率的に練習ができます。
- ・ 読み方と漢字と一緒に覚えることになるので、特別な「読み練習」をしなくても、「読む力」も付きます。
- ・ さらに、記憶の「IN PUT」と「OUT PUT」を交互に繰り返すので、漢字だけに限らず、他教科（社会や理科）への波及効果も十分に期待できます。
 特に、英単語を覚えるときにも有効な方法です。
- ・ ノートは高学年や中学生であれば、六列に分けてもよいと思われます。

(2) 「習熟を通じた定着」

- ① 授業の終末や習熟の時間に適用問題，習熟問題に取り組んで，定着を図ります。
 - ・ 特に，TT指導や少人数指導の場合，終末や習熟の場面で児童生徒一人一人の取組を見取り，丸付け，助言を意図的に行うとより効果的です。
 - ・ 例えば算数で，補充問題，発展問題を事前に何題も準備し（数枚のプリント），その児童生徒の学習段階に応じて，取り組ませます。みやぎ単元問題ライブラリー等を活用し，予め学年分，単元分を印刷するなどして，いつでも使えるようにしておきます。ファイリングして，できるようになったところ，間違った問題などを自覚させることもできます。
- ② 学習場面で，前時までの既習事項を活用する場面を設定したり，日常場面で意図的に活用させたりしていくこともできます。
 - ・ 例えば，グラフや表などの資料の読み方（データの取り出し）を学んだら，説明する内容の根拠として最も適切な資料を選ぶ学習をします。
 - ・ 複数の資料から必要な情報を取り出すこと，情報が根拠として適切かどうかを判断することを通して，資料の読み方の定着を図ることができます。

(3) 「社説を使った，読む力，書く力の向上」

- ① この学習は，10分間で新聞の社説（だいたい1600～2000字程度）を読んで，要旨を100字ちょうどにまとめる，というものです。
- ② 400字詰原稿用紙を使うと，4日分になります。高学年や中学生の夏休みの課題として10日分や20日分をまとめて出して，毎日行うと効果的です。
 - ・ 期待できる学習の効果としては，論説文を読む力が付くと同時に書く力を付けることができます。また語彙を増やすことができます。
 - ・ 10分間で社説を読んで100字ぴったりに書くためには，慣れるまでが大変ですから，児童生徒の実態に合わせて制限時間を変えることもできます。

(4) 「提示の工夫で学習意欲・思考力の向上」

- ① 問題（課題）提示の仕方を工夫することで，児童生徒の思考が促されます。
 - ・ 例えば，連続する2つの整数の2乗の差を提示します。

A「連続する2つの整数の2乗の差は，その2つの整数の和になります。このことが成り立つことを証明しなさい。」	$4^2 - 3^2 = 7$
B「この計算からどんなことが考えられるでしょうか。」	$9^2 - 8^2 = 17$
AでもBでも証明を行うことには変わりありませんが，Aは「成り立つ」ことが与えられているのであまり必要感を意識せずに証明に取り組みます。一方，Bは，共通点に気付き，予想（仮説）を立てる際に思考が促されます。そこから（自分の予想が成り立つことを証明するという）目的意識をもって主体的に取り組むと考えられます。	$10^2 - 9^2 = 19$
	$25^2 - 24^2 = 49$
	※ $(-7)^2 - (-8)^2 = -15$
	※ $(-14)^2 - (-15)^2 = -29$
 - ・ 同じ問題場面でも，課題提示の仕方や発問の工夫によって，学習意欲や思考力を高めることにつながります。少しずつ工夫をしていきましょう。

第1章 児童生徒の学力向上に向けて



教員の教科指導力の向上 児童生徒の学習習慣の形成 教育環境基盤の充実



2 教員の教科指導力の向上

平成25年度の調査結果から成果の上がっている内容と課題と考えられる内容

(1) 小学校 国語

① 成果と課題、指導改善のポイント例

<話すこと・聞くこと>

成果

- スピーチの表現を工夫する。[A7]

課題

- △ 話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言をする。[B12・3]

指導改善のポイント例

- * 「聞くこと」の指導は、相手の立場や状況を十分に感じ取ろうとする共感的な態度で聞くよう指導しましょう。
 - 1・2年・・・興味をもって大事なことを落とさないように聞き取ること
 - ◇事柄の順序を聞き取ることや集中して聞き取れることを指導しましょう。
 - 3・4年・・・話の組み立て方を意識させ、話の要点を聞き取ること
 - ◇自分の考えと比較しながら聞くよう指導しましょう。
 - 5・6年・・・話し手に対して、助言したり質問したりすること
 - ◇自分の考えを明確にしなが言葉遣いに注意させるとともに、相手にとって役立つ助言や質問となるように指導しましょう。

<書くこと>

成果

- 目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書く。[A4ア]

課題

- △ 目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用したり複数の内容を関連付けたりしながら、自分の考えを書く。[B22・3]
- △ 資料を読み取り、全体から分かることを書く。[A4ウ]

指導改善のポイント例

- * 「書くこと」は「考えること」と捉え、自分の思いや考えを伝える楽しさを実感させるよう指導しましょう。
 - 1・2年・・・前後の語句や文のつながりを大切にさせ、一文の意味が明確になるように語と語、文と文との続き方を考えさせること
 - ◇「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」とも関連付けて指導しましょう。
 - 3・4年・・・書こうとすることの中心を明確にさせ、目的や必要に応じて、理由や事例を挙げて記述させること
 - ◇「なぜか」と「その理由は」や「例えば」「例を挙げると」などの表現について指導しましょう。
 - 5・6年・・・資料から得た事実と自分の感想や意見とを区別して書かせること
 - ◇優れた表現を参考にさせながら指導しましょう。

<読むこと>

成果

- 広告を読み、編集の特徴を捉える。[A5イ]

課題

- △ 俳句の情景を捉える。[A6アイ]
- △ 推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由、それぞれの本や文章の読み方の違いを捉える。[B3一・二]

指導改善のポイント例

- * 「読むこと」の指導は、場面ごと、段落ごとに平板に読み取らせる指導を改善しましょう。また、シリーズ作品、好きな作品を見つけて読むこと、目的に応じて本や文章を比べて読むことが可能となるよう、学習環境を整えましょう。
- * 一人一人の解釈を交流させ、自分の解釈を広げたり深めたりするよう指導しましょう。
 - 1・2年・・・登場人物の行動を中心に、その様子を豊かに想像しながら読むこと
◇大事な言葉や文を手掛かりとして指導しましょう。
 - 3・4年・・・叙述を基に想像して読み、現実や経験と照らし合わせて物語の世界を豊かにかつ具体的に感じ取らせ、児童が感じた感想や感動を大切にすること
◇地の文や行動、会話などから関連的に読み取るよう指導しましょう。
(次頁「授業アイデア例」参照)
 - 5・6年・・・登場人物の心情について、直接的に描写されている場合だけでなく、暗示的に表現されている場合にも注意し、想像を豊かにしながら読むこと
◇象徴性や暗示性の高い優れた叙述に、児童が自分で気付いていくように工夫することが大切です。

<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

成果

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む。[A1一]
- ことわざの意味を理解する。[A2一・二]

課題

- △ 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。[A1二]
- △ 文の定義を理解し、文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く。[A3一・二(1)]

指導改善のポイント例

- * 学習した漢字を繰り返し書いて練習することだけでなく、様々な場面で実際に使用させ、確実に習得できるよう指導しましょう。その際、漢字のもつ意味を考えながら使うことや、同音異義や同訓異義の漢字に注意して使うことも取り入れましょう。
- * 文及び文章の構成については、学年の段階に応じた指導を見直しましょう。
 - 1・2年・・・文中における主語と述語との関係に注意すること
◇主語と述語が照応することで意味が明確になることを指導しましょう。
 - 3・4年・・・指示語や接続語の文と文とのつながりに果たす役割を理解すること
◇文相互の関係や段落相互の関係を端的に示す手掛かりとなることを指導しましょう。
 - 5・6年・・・文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること
◇2つの文を1文にまとめて書いたり、2つの内容が含まれた1文を2文に分けて書いたり、言語を操作するよう指導しましょう。

②授業アイデア例

1 課題が見られた問題の概要と結果・・・A6 俳句の情景を捉える
(正答率：宮城県 45.2% 全国 47.5%)

2 単元名 読書新聞で紹介しよう 「走れ」(東京書籍 4年上)

3 目標

- ・好きなところや心がひかれるところに着目して感想を述べようとする。【関心・意欲・態度】
- ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化などについて、叙述を基に想像して読むことができる。【読むこと】
- ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。【伝 国】

4 授業改善の視点

- (1) 豊かに想像を膨らませ、物語の世界へ引き込むための音読の工夫
- (2) 自分の考えをもたせるための書く活動の工夫
- (3) 考えを広げたり深めたりさせるための聞く活動の工夫 ①・②

5 指導計画と指導過程 (第5時間目：場面 P46L4～P50L3)

第1次 (1・2時)	第2次 (3・4・⑤・6・7時)	第3次 (8・9・10時)
単元を貫く言語活動・・・「お気に入りの物語を読み、読書新聞にして紹介しよう」		
○学習の見通しをもつ。 ○並行読書への意欲をもつ。	○教材文を読むことを通して、登場人物の性格や気持ちの変化などについて読み取る力を身に付ける。	○第1・2次の学習を生かし、自分が選んだ本から読み取ったことを「読書新聞」に表す。
類似テーマ作品等の並行読書		

段階	T：主な指示・発問 S：予想される児童の反応	(1)(2)(3)：授業改善の視点 *：指導上の留意点
導入	わりばしの袋を見た、のぶよの様子や気持ちを読み取ろう。	*導入は短くテンポよく。 *課題は簡潔に提示し、全員に理解させる。
展開	T：様子や気持ちを想像しながら読みましよう。聞きましょう。 T：先生が読みます。(P46L4～P50L3) T：〇〇さん、読みましよう。 T：感情を込めて読みましたね。 T：全員で読みましよう。 T：のぶよの動作が思い浮かびますね。 T：「P49L4、お母ちゃんのごちごちした文字で、・・・のぶよは、わりばしを拾うと、ぎゅつとにぎって、けんじを追いかけた。」のところを読みましよう。 T：のぶよは、このとき、どんなことを考えていたのでしょうか。ノートに3行から5行程度で書きましよう。 (ノートに考えを書く) S：けんじに見せよう。お母ちゃんは、約束を破りたくて破ったわけじゃない。 S：忙しい仕事の合間に、お母ちゃんは、これを書いてくれたんだ。 S：けんじ、誤解だよ。お母ちゃんは、けんじを応援したかったんだよ。	(1)音読の工夫 授業場面を確認するだけでなく、課題追究のために音読させる。範読、指名読、斉読を効果的に取り入れる。また、場面ひとまとまりを意識させ読む速さに気を付けて音読させる。発問に係る叙述部分に焦点化を図っていく。 上手な音読を具体的に褒めることにより、自信をもたせたり、聞く側の児童に音読の仕方に気付かせたりするなどの効果も期待できる。 *根拠となる優れた描写に着目させる。 *一度で発問を投げかけ、言い直ししない。 (2)書く活動の工夫 机間指導を行い、考えている姿を認めながら、児童のノートに、赤ペンで丸を付ける等、評価していく。書いている児童には、さらに詳しく書くように声掛けする。書けない児童には、書いている児童の言葉をヒントとして与える。 *全体交流で意図的指名を行うために、座席表を活用し、児童の考えを把握する。

<p>T : ペア学習をします。なるほどと思った友達の考えをノートに書きましょう。</p> <p>S : 大変だ。けんじに知らせなきゃ、割り箸の袋を見せなきゃ。お母ちゃんは、仕事をしながら私たちのことを応援してくれていたんだ。</p> <p>S : お母ちゃんだって、きっと辛いんだ。けんじの短距離走を見たかったんだ。</p> <p>T : 全員の考えを聞きましょう。</p> <p>T : 「大変だ!」という言葉を使って、のぶよの気持ちを読み取った〇〇さん、発表しましょう。</p> <p>S : 大変だ。けんじ、どこに行ったの? この割り箸の袋を見てよ。</p> <p>T : いい言葉を使いましたね。次に、お母ちゃんの思いについて書いている〇〇さん、発表しましょう。</p> <p>S : お母ちゃんは、仕事をしながら、私たちを応援していたんだ。</p> <p>T : 様子が分かりますね。さらに、お母ちゃんの気持ちを具体的に書いている〇〇さん、発表しましょう。</p> <p>S : お母ちゃんだって、辛いんだ。けんじの短距離走を見たかったのに、仕事が入ってしまったから。</p> <p>T : 「お母ちゃんだって辛い。」という言葉に、思いやりが感じられますね。</p> <p>T : 他に、発表したい人は、いませんか。</p>	<p>(3) 聞く活動の工夫①</p> <p>なるほどと感じた友達の考えを、自分のノートに短い言葉でメモするように指示する。友達の考えを聞き、新しい考えを思いついたら、加筆させる。</p> <p>認め合うことで、よい人間関係を築く効果も期待できる。</p> <p>* 全体交流で意図的指名をするために、どの考えをどの順序で取り上げるか、について座席表を活用して考えておく。</p> <p>(3) 聞く活動の工夫②</p> <p>意図的指名を行い、考えの広がりや深まりを実感させる。「多数派の考え」から「少数派の考え」、「抽象的な考え」から「具体的な考え」へと指名する。発表させる前に、前振りをして聞き手の児童に聞く構えをもたせる。</p> <p>児童一人一人の考え、ささやかな表現の違いを、大切に扱うことで、言葉の感性を磨く効果も期待できる。</p> <p>* 児童の言葉で類型化を図りながら板書していくが、主体的なノート作りを促すために、板書する言葉は基本的な言葉にとどめる。</p> <p>* 意図的指名を基に発表を組み立てるが、児童の主体性を尊重するために、恣意的発表もさせていく。</p>
<p>(略)</p> <p>終末</p> <p>「ぎゅっとにぎって、追いかけた」という文章から、わりばしの袋を見た、のぶよの様子や気持ちを、こんなに想像豊かに読み取ることができました。</p> <p>T : 最後に、読み取ったことを確かめながら、全員で音読しましょう。</p> <p>S : (P46L4~P50L3 全員で音読)</p>	<p>* 課題を全員で解決できたことを押さえる。</p> <p>* 優れた描写「ぎゅっとにぎって、追いかけた」に着目したことにより、想像豊かに読み取ることができたことを、音読を通して、全員に自覚させる。</p> <p>* 家庭学習や次時の予告をする。</p>

家庭学習の質を高める3つのヒント

- ① 国語の授業で学んだ感動を、あたためさせましょう。
例) 「心に残ったお気に入りの文章をノートに視写しましょう。選んだ理由も書きましょう。」
- ② 今日の学びを生活に生かす楽しさを、味わわせましょう。(次の学習につなげましょう)
例) 「今日勉強したように、家で読んでいる本(並行読書している本)から、登場人物の気持ちの変化が分かる言葉や文を書き抜き、どんな気持ちが分かるか読み取ったことを書いてみましょう。」
- ③ 毎日の本読み(音読)のめあてを単元のねらいと合致させ、本読み(音読)の質を高めましょう。
例) 本読み(音読)のめあて△「大きな声で読む」→○「けんじやのぶよの気持ちを想像しながら読む」

(2) 中学校 国語

① 成果と課題，指導改善のポイント例

<話すこと・聞くこと>

成果

- 話合いの方向を捉えて司会の役割を理解する。[A 1ー]
- 話すための材料を多様な方法で集める。[A 6ー]
- 論理的な構成や展開を考えて話す。[A 6二]

課題

- △ 個々の発言の内容を整理しながら話合いの方向を捉えて話す。[A 1二]

指導改善のポイント例

- * 観点を明らかにして相手の考えを聞き取る学習活動を設定しましょう。
- * 話合いの過程を動画で記録し，振り返る場を設定しましょう。
- * 話合いにおける司会の役割として以下のようなものを参考に指導しましょう。
 - ・話合いの目的を明確にすること
 - ・参加者それぞれに発言の機会を与えること
 - ・必要に応じて発言の内容を確認したり不足している情報を聞き出したりすること
 - ・話し手や聞き手の様子を見て，次にどのように話合いを進めるか判断すること
 - ・話合いの内容を整理したり結論を確認したりすること など

<書くこと>

成果

- 書いた文章を読み返し，目的に応じた表現に直す。[A 3ー]
- 文章の内容について，根拠を明確にして自分の考えを書く。[B 2三]

課題

- △ 文の接続に注意し，伝えたい事柄を明確にして書く。[A 3二]

指導改善のポイント例

- * 記述や推敲の段階において，文と文との接続関係に着目し，必要に応じて複数の文を一文に書き換えたり，意味が伝わりにくい重文や複文についても簡潔に一文に分けて書いたりできるように指導しましょう。このことは，各教科等の学習においても意図的に指導していきましょう。
- * 伝えたい事柄が明確になるように情報を適切に取り上げて書く学習活動を設定しましょう。

<読むこと>

成果

- 描写の効果を考え、内容を理解する。[A 2 二]
- 文章の表現の特徴を捉える。[A 4 一]
- 文脈の中における語句の意味を理解する。[A 5 一]
- 段落相互の関係を理解し、文章の展開を捉える。[B 1 一]

課題

- △ 図と文章との関係を捉える。[B 1 二] (次頁「授業アイデア例」参照)

指導改善のポイント例

- * 図表などを用いた説明的文章を読む際には、文章の内容を適切に捉え、図表が文章のどの部分と関連しているのかを確認した上で、図表が用いられている意図を考えるように指導しましょう。
- * 図表やグラフなどを含めてレイアウトされた文章や資料を取り上げ、数値や重要な語句などを目的に応じて的確に読み取ることができるように指導しましょう。
- * 文章中の言葉を使って図表が果たしている役割を説明したり、文章の中に図表がある場合とない場合とを比較したりする学習活動を設定しましょう。
- * 図表を用いた説明的な文章を書く学習の際に、互いの図表の使い方を批評し合うような学習活動を設定しましょう。

<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

成果

- 文脈に即して漢字を正しく読む。[A 8 二]
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。[A 8 三]

課題

- △ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む。[A 8 七 2]

指導改善のポイント例

- * 文語のきまりについては、文脈の言葉の意味を考えながら、音読したり朗読したりすることを通して理解するよう指導しましょう。
- * 小学校段階から易しい古典の文章について、音読や暗唱を通して指導を行うこととしている。このような学習を踏まえ、中学校では文語のきまりや訓読の仕方について、生徒の興味・関心を大切にしながら教材に即して指導しましょう。

②授業アイデア例

- 1 課題が見られた問題の概要と結果…B¹ 2 図と文章の関係を捉える。
(正答率：宮城県 62.9% 全国 62.7%)
- 2 単元名 「文章と図表との関係を読み解こう」～『国語に関する世論調査』を読む～
- 3 目標
 - ・文章と図表とを関連付けて、説明の文章を読もうとする。【関心・意欲・態度】
 - ・文章と図表との対応関係を整理し、文章の要旨を捉えることができる。【読むこと】
 - ・図表が果たしている役割を捉え、その効果について自分の考えをもつことができる。【読むこと】
 - ・多様な語句について理解を深め、話や文章の語彙について関心をもつことができる。【伝 国】
- 4 授業改善の視点
 - (1) 主体的に学習に取り組ませるための工夫 ①・②・③
 - (2) 目的意識，相手意識，場面意識等の言語意識の設定
 - (3) 考えの交流を促す学習形態の目的の明確化
- 5 指導過程(第3時間目)

(1)主体的に学習に取り組ませるための工夫①：「単元を貫く課題解決的な言語活動」を踏まえた授業構想例

単元を貫く課題解決的な言語活動を具体的に示し，課題解決に向けた見通し(学習計画と学習意欲)をもたせることで，生徒が自分自身で思考・判断しながら表現していく主体的な学習が期待できる。(下表参照)

言語活動	イ	文章と図表などとの関連を考えながら説明や記録の文章を読むこと。	時	
指導事項	重点	学 習 活 動	主な評価規準	
ア	「国語に関する世論調査」から発信するために読む	「国語に関する世論調査(文化庁)を読み，自分が友達に発信したい項目を選ぶ。一般向けに書かれた文章なので難易語句は辞書で調べて理解する。	1	
イ		発信したい項目の文章や図表を読み，どういふ事実があつてどのようなまとめがしてあるのか読み分けし，目的に応じて要約したり要旨をまとめたりする。	2	
エ		◎ 発信したい項目の図表が文章のまとめとどう関連し，その役割やどのような効果をもたらしているか気付いたこと考えたことをまとめる。	文章と図表を展開する上で図表が果たしている役割を捉え，その効果について自分の考えをもっている。	3
オ		興味・関心をもった項目を中心に，自分のものの見方・考え方で変わったことやぜひ知らせたいことなど，友達に発信する。		4
カ		発信した項目と関連する本や資料を探して読み，さらに国語に関する話題について深める。		5
関連する〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕		多様な語句について理解を深めるとともに，話や文章の語彙について関心をもっている。		
国語への関心・意欲・態度		調査内容に関心をもち，図表と関連付けて理解しようとしている。		

段階	T：主な発問・指示 S：予想される生徒の反応	(1)(2)(3)：授業 *：指導上の留意点	改善の視点
導 入	T：学習課題の提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">あなたが発信したい項目の図表の役割やその効果について考えよう。</div> S：学習課題を確認し，見通しをもつ。	* これまでの学習(1)①を想起させ，本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">(2) 目的意識…自分が選んだ項目の発信 相手意識…同級生 場面意識…クラス全員の前で</div>	
	T：前時に選んだ自分が興味・関心のある項目を中心に図表の役割やその効果を考えながら読んでいきます。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">(1) 主体的に取り組ませる学習活動の工夫② 学習課題や発問において，主語を「筆</div>	

	<p>T : 「考えながら」とは、図表が文章のどの部分と関連しているのかを確認した上で、その図表の意図を読み取っていくことです。</p> <p>T : 黙読しながらじっくり考えましょう。</p> <p>T : 黙読をやめましょう。</p>	<p>者は～」から「あなたは～」とすることで、自分自身の読みを強く意識できると同時に、互いの読みを交流する必然性が生まれてくる。</p>
展 開	<p>①から③の視点で、文章と図表との関連を考えながらノートにまとめましょう。</p> <p>[① 文章からも図表からも分かること] S : 主に図表を用いることの効果を考える。</p> <p>[② 文章からしか分からないこと] S : 主に文章が図表を補足・説明している点について考える。</p> <p>[③ 図表からしか分からないこと] S : 主に図表が文章を補足・説明している点について考える。</p> <p>T : では、②と③を分かりやすく書いていた〇〇さん、発表しましょう。</p> <p>図表が果たす役割や図表を用いることでどのような効果があるのか。〇分までノートに5～7行程度で書きましょう。</p> <p>S : ①から③でまとめたものを考える材料とし、図表の役割や図表を用いたことによる効果について記述する。</p>	<p>* 発問の意図を明確につかませ、能動的に聞き取らせるために、言い直ししない。</p> <p>* ノートへの記入の様子・内容を評価に生かしていく。</p> <p>* 机間指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指示がどれだけ伝わり、正しく活動が行われているか、つまづいている生徒がいないかをチェックする。 ・ 全体交流で意図的指名を行うため、個々の考えを把握し指名の順序を考える。 ・ 意欲付け、ヒントを与える(アナウンス効果)。 <p>* 次の活動につながる考えを2～3名程度に簡潔に発表させる。</p> <p>* 実態やねらいに合わせて書く分量、時間等の目安を与え、適度な緊張感をもたせて、個の考えをじっくりと書かせる。</p> <p>* 時間内で記述させる学習訓練も大切にしたい。</p>
	<p>(略)</p> <p>T : ペア学習をします。今日は窓側の人から発表します。</p> <p>S : 文章が図表の数値の特徴的な部分を取り上げて、その解説になっているよ。</p> <p>S : なるほど。図表があることで、過去との比較や実態が一目で分かりやすいね。</p> <p>S : 図表を用いることで、文章の内容をより分かりやすくする効果もあるね。</p> <p>T : ペアで話し合ったことを全体に発表します。図表の効果をすどい視点で話し合っていた〇〇さんペアどうぞ。</p>	<p>(3) 考えの交流を促す学習形態の目的の明確化</p> <p>交流させるための学習形態として、ペアやグループ学習、学級全体という単位が考えられる。何について交流するのか、交流することで何をを目指すのか、話し合う目的や方向性を押さえた上で位置付けたい。新たに知ったことや気付いたことは、赤ペンでメモをする習慣化も大切。学びの実感が得られる効果がある。</p> <p>発表の際、ペアの相手を認め合う内容を含ませることで、自分の考えも全体に生かされているという自信や今後の活動への意欲をもたせる効果も期待できる。</p>
終 末	<p>(略)</p> <p>T : 今日の授業で学んだこと、今後に生かしたいことも含めて、ノートに5～7行で書きましょう。</p>	<p>(1) 主体的に取り組ませる学習活動の工夫③</p> <p>「振り返り」の中に本時の学びを今後どのような場面で生かしていくかという視点も取り入れることで、主体的に活用していこうとする意識が図られる。</p>

評価について～確認テスト、定期テスト作成の工夫～

学習した内容を踏まえて別の箇所について考えさせたり、授業時とは違う教材を取り上げて出題したりすることで身に付けた力が発揮できるかどうかを的確に評価できる出題にすることが望まれる。作成に当たり以下の点に留意したい。

- ・ 出題のねらいを明らかにすること(どの領域の、どの指導事項に基づく問いか)
 - ・ 授業時に学習したことを確認する問いか、その力を他の場面で活用することを求める問いか明らかにすること
 - ・ 記号選択や語句の抜き出しなど正解が一つに決まっている問題だけではなく、複数の事項を組み合わせて答えたり、自分の考えを記述させたりする問いを工夫すること
 - ・ 放送による聞き取り問題、新聞や辞典を題材にした問題など、日常生活や社会生活に関連する内容を取り上げること
- 「全国学力・学習状況調査」では、全ての問題において指導事項及び評価の観点との対応が示されており、ねらいを明確にした問題づくりの参考になる。(参考文献: 富山哲也編著『中学校国語科 授業&評価 GUIDE BOOK』明治図書)

(3) 小学校 算数

①成果と課題、指導改善のポイント例

<数と計算>

成果

- 小数の加法の計算をすることができる。[A 1 (2)]
- 同分母の分数の加法「(帯分数)+(帯分数)」の計算をすることができる。[A 1 (6)]

課題

- △ 示された位までの概数にする際、一つ下の位の数を四捨五入して処理する方法について理解している。[A 2]
- △ 三つの買い方の中から最も安くなる買い方を選択し、その選択が正しい理由を記述できる。
[B 1 (2)]

指導改善のポイント例

- * 四捨五入して指定された概数になる数の範囲を考えさせる際に、数直線に表す学習を大切にしましょう。また、概数にするとき、「十の位を四捨五入して概数に表す」「百の位までの概数で表す」「四捨五入して、上から1桁の概数で表す」といった表現をできるだけ活用し、言葉の意味を理解させましょう。
- * 説明する対象を明らかにしていない説明や根拠となる事実が不足している説明を取り上げ、説明として何が不足しているのかについて話し合う活動を取り入れましょう。また、必要な条件を明確にして記述できるように指導しましょう。

<量と測定>

成果

- 曲線部分の長さを測定する際に用いる適切な計器を理解している。[A 5 (1)]

課題

- △ 単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解している。[A 4]
- △ 1 a (1アール) の面積と等しい正方形の一辺の長さを理解している。[A 5 (2)]
- △ 示された分け方で二つの三角形の面積が等しくなることを、言葉と数を用いて記述できる。
[B 3 (2)]

指導改善のポイント例

- * 混み具合を調べる場合には、単位面積当たりの人数で比べる場合と、単位人数当たりの面積で比べる場合があるので、どちらを単位量として設定しているのかについて判断できるように指導しましょう。また、単位量が面積か人数かによって数値が大きい方が混んでいる場合と、数値が小さい方が混んでいる場合があるので、数値の意味を理解して判断できるように指導しましょう。
(次頁「授業アイデア例」参照)
- * 一辺が1mの正方形の面積が1㎡であることや、一辺が10mの正方形の面積が1aであることを理解させるために、作業的、体験的な算数的活動を通して広さを実感を伴って捉えられるように指導しましょう。
- * 図形の面積が等しいかどうかを、底辺と高さに着目したり面積を求める式を比べたりするなどして判断し、そのわけを説明する活動を取り入れましょう。

<図形>

成果

- 円柱について、見取り図の高さと展開図の側面の辺の長さとは対応していることを理解している。[A 7 (1)]
- 示された情報から二つの要素の意味を解釈し、ものの位置を特定することができる。[B 4 (2)]

課題

- △ 三角形ABCと合同な三角形をかくために必要な条件を理解している。[A 6]
- △ 円柱について、底面の円周の長さとは展開図の側面の辺の長さとは対応していることを理解している。[A 7 (2)]
- △ 長方形と台形の分割の仕方を比べて、台形の場合は4等分にならないわけを選択することができる。[B 3 (3)]

指導改善のポイント例

- * 合同な三角形をかいたり、作ったりする算数的活動を充実し、条件を見いだすことができるように指導しましょう。また、合同な三角形をかくことができない場合を取り上げ、条件の理解を深めるように指導しましょう。
- * 見取り図と展開図とを関連付けて情報を読み取り、求め方を記述し、説明する活動を取り入れるなど、筋道を立てて考えることができるように指導しましょう。
- * ある場面で成り立ったことが他の場面でも成り立つかどうかを調べる活動の充実を図りましょう。その際、「成り立つ・成り立たない」という結論だけでなく、その理由を説明できるように指導しましょう。

<数量関係>

成果

- 棒グラフの目盛りの数値に着目して、最大値を読み取ることができる。[A 9]

課題

- △ 表から数値を適切に取り出して、二つの数量の関係が比例の関係ではないことを記述できる。[B 2 (3)]
- △ 示された式に数値を当てはめて計算し、計算の結果の大小を基に判断することができる。[B 4 (3)]
- △ 割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を記述できる。[B 5 (2)]

指導改善のポイント例

- * 二つの数量の関係から、見いだした規則がいつでも成り立っているかについて表の数値を示して説明する活動を充実させましょう。
- * 四則の混合した式を計算する際には、その式が何を表しているのかを、具体的な場面と関連付けて捉えさせるようにしましょう。また、式の順序を間違えて計算している例や、式の表現が誤っている例を提示して、どのように修正すればよいかを考える場を設けるなどして、計算の順序についての決まりを確実に理解させましょう。
- * 判断の理由や事実が成り立つ理由を説明する際には、根拠となる事柄をもれなく示して、説明することが大切です。理由の説明の根拠として何が必要になるのかを確認する活動を取り入れましょう。

②授業アイデア例

1 課題が見られた問題の概要と結果

平成25年度小学校調査A④「単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味理解」

(正答率：宮城県 48.0% 全国 50.0%)

2 小単元名 「単位量あたりの大きさ」(第5学年)

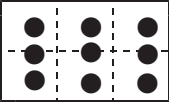
3 本時のねらいと評価規準

本時のねらい	評価規準	
	数学的な考え方	数学的な技能
異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方を理解できるようにする。	混み具合について単位量当たりの大きさを考えることができる。	単位量当たりの考えを用いて、混み具合を比較することができる。

4 授業改善の視点

- (1) 主体的に学習に取り組ませるための工夫
- (2) 学習への見通しをもたせるための工夫
- (3) 思考を深めたり、広げたりするための工夫

5 指導過程

段階	T：主な発問・指示 S：予想される児童の反応	(1)(2)(3)：授業改善の視点 *：指導上の留意点																	
学習課題の把握	<p>T { 前時は面積が同じAとB, 数が同じBとCのうさぎ小屋でそれぞれどちらが混んでいるかを考えました。今日はAとCのうさぎ小屋ではどちらが混んでいるかを考えます。</p> <p>T { 昨日の学習との違いは何ですか。</p> <p>S：昨日は面積が同じか、数が同じ場合の混み具合を調べました。今日は、面積も数も違ううさぎ小屋でどちらが混んでいるかを調べます。</p> <p>T：学習課題の提示</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">うさぎ小屋の面積もうさぎの数も違う場合、どちらが混んでいるか考えよう。</p>	<p>(1)(2)(3)：授業改善の視点 *：指導上の留意点</p> <p>* 前時の学習で提示した表を再度提示する。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th></th> <th>面積(m²)</th> <th>うさぎの数(ひき)</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>6</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>6</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>5</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>9</td> <td>15</td> </tr> </table> <p>(1)主体的に学習に取り組ませるための工夫 学習課題は児童の疑問や気付きを集約して設定することで、学習への主体性を促すことにつながる。</p>		面積(m ²)	うさぎの数(ひき)	A	6	9	B	6	8	C	5	8	D	9	15		
	面積(m ²)	うさぎの数(ひき)																	
A	6	9																	
B	6	8																	
C	5	8																	
D	9	15																	
見通す	<p>T { AとCのうさぎ小屋の混み具合を図で確認します。どちらが混んでいますか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>A</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>C</p>  </div> </div> <p>S：Cのうさぎ小屋のほうが見えて混んでいるように見えます。</p> <p>T { みんなの予想は正しいかな。この問題を解いた3人の式は次のようになりました。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; width: 100%;"> <tr> <td>ひろき：A・・・6×5=30</td> <td>9×5=45</td> </tr> <tr> <td>C・・・5×6=30</td> <td>8×6=48</td> </tr> <tr> <td>みほ：A・・・9÷6=1.33・・・</td> <td>C・・・8÷5=1.6</td> </tr> <tr> <td>しんじ：A・・・6÷9=0.66・・・</td> <td>C・・・5÷8=0.625</td> </tr> </table> <p>T { 3人はどんな考え方をしたのか、図、数直線、表などを作って説明できるようにしましょう。また、説明文もノートに書きましょう。</p>	ひろき：A・・・6×5=30	9×5=45	C・・・5×6=30	8×6=48	みほ：A・・・9÷6=1.33・・・	C・・・8÷5=1.6	しんじ：A・・・6÷9=0.66・・・	C・・・5÷8=0.625	<p>* 混み具合を表す図を提示し、直観的にCの方が混んでいることを捉えられるようにする。</p> <p>* 3人の考えを式で提示する。 ひろき：面積30m²のときのうさぎの数 みほ：面積1m²当たりのうさぎの数 しんじ：うさぎ1匹当たりの面積</p> <p>* 提示した3人以外の考え方もあるが、本時のねらいである単位量当たりの大きさに着目することのよさを実感させるため、3つの考えに焦点を絞った。</p> <p>(2)学習への見通しをもたせるための工夫 課題解決の見通しをもたせるために、問題場面を図で確認したり、既習事項を想起させたりすることは、自力解決への意欲付けにつながる。</p>									
ひろき：A・・・6×5=30	9×5=45																		
C・・・5×6=30	8×6=48																		
みほ：A・・・9÷6=1.33・・・	C・・・8÷5=1.6																		
しんじ：A・・・6÷9=0.66・・・	C・・・5÷8=0.625																		
自力解決	<p>S：ひろきさんは、小屋の広さを30m²にそろえて比べた。Aは30m²当たり45匹、Cは48匹いることになるので、Cの方が混んでいると考えた。</p> <p>【図を活用した考え方】</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>A</td> <td>9匹</td> <td>9匹</td> <td>9匹</td> <td>9匹</td> <td>9匹</td> <td>・・・</td> <td>45匹</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>8匹</td> <td>8匹</td> <td>8匹</td> <td>8匹</td> <td>8匹</td> <td>8匹</td> <td>・・・</td> <td>48匹</td> </tr> </table>	A	9匹	9匹	9匹	9匹	9匹	・・・	45匹	C	8匹	8匹	8匹	8匹	8匹	8匹	・・・	48匹	<p>* 課題に向き合う時間を十分確保する。</p> <p>* 「うさぎ小屋の面積とうさぎの数を同じだけ倍にしても混み具合が変わらない」、「うさぎ小屋の面積が同じならば、うさぎの</p>
A	9匹	9匹	9匹	9匹	9匹	・・・	45匹												
C	8匹	8匹	8匹	8匹	8匹	8匹	・・・	48匹											

自力解決

【表を活用した考え方】

A	面積	6	30
	うさぎ	9	45

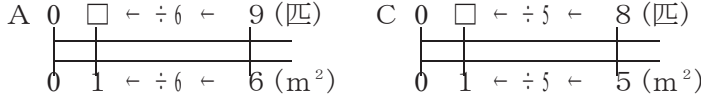
5倍

C	面積	5	30
	うさぎ	8	48

6倍

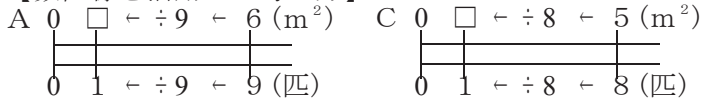
S : みほさんは、うさぎの数を面積で割ったので、 1m^2 当たりのうさぎの数で比べている。1匹分の面積が大きいCの方が混んでいると考えた。

【数直線を活用した考え方】



S : しんじさんは、面積をうさぎの数で割ったので、うさぎ1匹あたりに与えられる面積を求めている。1匹あたりに与えられる面積が小さいCが混んでいると考えた。

【数直線を活用した考え方】



数が多い方が混んでいる」、「うさぎの数と同じならば、うさぎ小屋の面積が小さい方が混んでいる」といったことを説明できるように、図、表、数直線、説明文をノートに記述させる。

* みほ、しんじの考え方の説明文は、以下の3点に基づいて作成するよう指導する。

- ①もとにする量は何か。
- ②その計算で何を求めたのか。
- ③数値結果から、どちらが混んでいると判断するか。それはなぜか。

(3) 思考を深めたり、広げたりするための工夫

説明の順序や根拠、方法などの視点に基づき、どのようにすると分かりやすい説明になるかを検討させることは、思考力を育成することにつながる。

集団解決

T : 3人はどのように考えたのか説明しましょう。

S : (自力解決場面で考えたことを発表する)

T : みほさんとしんじさんはどちらも割り算をしていますが、考え方のちがいは何ですか。

S : 割る数と割られる数が逆になっています。

S : みほさんは、面積を基にする量として計算しています。しんじさんは、うさぎの数を基にする量として計算しています。

S : みほさんは 1m^2 当たりのうさぎの数で比べていて、しんじさんはうさぎ1匹当たりの面積で比べています。

T : みほさんとしんじさんの考えを図に表すと、次のようになります。これらの図を見て、どちらが混んでいるかを、「もとにした量」と「計算してだした答えの大小」との関係から説明しましょう。

S : みほさんの考えだと、A、Cそれぞれ 1m^2 当たりのうさぎの数は図のように表されるので、計算してだした答えが大きいCの方が混んでいるといえます。

S : しんじさんの考えだと、うさぎ1匹当たりの面積は図のように表されるので、計算してだした答えが小さいCの方が混んでいるといえます。

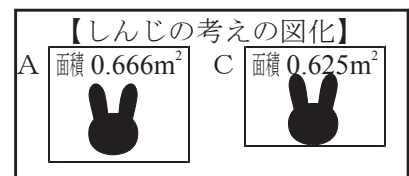
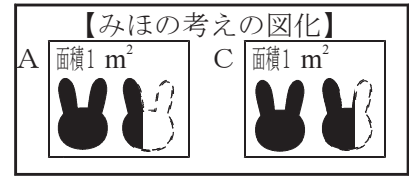
T : 予想通り、Cが混んでいることを確認できましたね。では、3つ以上のうさぎ小屋の混み具合を同時に比べるとき、ひろきさんの考えで簡単にできるかな。みほさんやしんじさんの考え方ではどうかな。

S : ひろきさんの考えだと、3つの数の最小公倍数を見付けることは難しい。

S : みほさんとしんじさんはどちらも単位量当たりの大きさを比べていて、計算で簡単に求められる。

(3) 思考を深めたり、広げたりするための工夫

児童が説明するときに活用した図、表、数直線、説明文を関連付けることは、より洗練された表現に高まったり、別の表現のよさに気付くきっかけとなる。



* ひろきの考えは、よい考え方であることを認めた上で、どのような場面でも使えるかという観点から思考を揺さぶる。

* 3人の考えを比較検討させることで、単位量当たりの大きさを比べることのよさを実感させる。

まとめ・振り返り

T : 混み具合を比べるとときどんな方法があるか、分かったことをノートにまとめましょう。

S : 1m^2 当たりのうさぎの数を調べたり、1匹当たりの面積を調べたりして比べる方法があることが分かりました。

T : まとめをノートに書いたら、みほさんとしんじさんそれぞれの考え方で適用問題(CとDのうさぎ小屋では、どちらがこんでいますか)を解きましょう。

S : (単位量当たりの大きさを比べる方法で適用問題に取り組む)

T : 今日の学習で、新しく気付いたことや考えたこと、友達の考えで参考になったことを、ノートに書きましょう。

S : (学習を振り返る)

(3) 思考を深めたり、広げたりするための工夫

児童の表現を丁寧に引き上げ、本時のねらいに迫る考え方にまとめることは、児童の思考の整理につながる。

* 適用問題に取り組ませ、学習したことが身に付いたかどうかを確認させる。

* 振り返りの視点を示し、学んだことを整理させる。

(4) 中学校 数学

①成果と課題，指導改善のポイント例

<数と式>

成果

- 分数の乗法の計算をすることができる。[A 1 (1)]
- 整式の加法と減法の計算をすることができる。[A 2 (1)]
- 具体的な事象における数量の関係を捉え，連立二元一次方程式をつくることができる。

[A 3 (3)]

課題

- △ 事柄が成り立つ理由を，示された方針に基づいて説明することができる。[B 2 (1)]
- △ 発展的に考え，予想した事柄を説明することができる。[B 2 (2)]
- △ 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。[B 6 (1)]
- △ 事象と式の対応を的確に捉え，事象が成り立つ理由を説明することができる。[B 6 (3)]

指導改善のポイント例

- * 数の性質が成り立つ理由を説明するための見通しをもたせるために，具体的な数で確かめさせるなどの活動を取り入れましょう。また，事柄が成り立つ理由を，文字式や言葉を用いて根拠を明らかにしながら説明する場面を設定しましょう。(次頁「授業アイデア例」参照)
- * 数の性質を考察する場面では，帰納したり類推したりして予想し，その予想を的確に表現する活動を取り入れましょう。また，問題解決後に条件を変える視点を示すことで，発展的に考えたり，新たな事柄を見いだしたりする活動へとつなげましょう。
(次頁「授業アイデア例」参照)
- * 問題場面について考察の対象を明確に捉えるために，実際の操作や図をかいて線で囲んだりする活動を取り入れましょう。
- * 事象を多面的に見ることができるようするために，問題解決の視点を明らかにして事象を考察し，式を見いだす活動や，その式を基に事象を振り返る活動を取り入れましょう。

<図形>

成果

- 与えられた図形の拡大図をかくことができる。[A 4 (1)]
- 見取図，投影図から空間図形を読み取ることができる。[A 5 (2)]

課題

- △ 空間における2直線の位置関係を理解している。[A 5 (1)]
- △ 平行四辺形になるための条件を理解している。[A 7 (3)]

指導改善のポイント例

- * 空間における2直線の位置関係を実感を伴って理解させるために，見取図を見て考えるだけでなく，実際に立体を組み立てる作業等を通して，身近な立体に触れ，様々な視点から観察する活動を取り入れましょう。
- * いくつかの条件を与えた上で平行四辺形を作図する場面を設定し，それらの方法で作図できる理由を平行四辺形になるための条件を用いて説明する活動を取り入れましょう。

<関数>

成果

- 一次関数の式について、 x の値に対応する y の値を求めることができる。[A 1 1 (1)]
- 与えられた表から情報を適切に選択し、処理することができる。[B 3 (1)]

課題

- △ 関数の意味を理解している。[A 9]
- △ 比例の表とグラフの関係を理解している。[A 1 0 (3)]
- △ 一次関数の表の特徴を基に変化の割合を求めることができる。[A 1 1 (2)]
- △ 言葉で表された式の数学的な意味を考え、事象を式の意味に即して解釈することができる。[B 1 (2)]

指導改善のポイント例

- * 事象の中の2つの数量 x 、 y について、 y が x の関数であるかどうかを見いだすために、具体的な数を x に当てはめて、 y が一意に決まるかどうかを確かめる活動を取り入れましょう。また、事象の中に数量の関係を見だし、それを関数として捉え直す場面を設定しましょう。
- * y が x に比例する関係において、表とグラフを相互に関連付けて理解させるために、表において x が1増加するときの y の増減を調べて比例定数を読み取り、その符号によってグラフの傾き方を確認する場面を設定しましょう。
- * 表における x 、 y の変化の様子を調べ、どの場合でも一次関数の変化の割合は一定であり、それが x の係数と一致していることを確かめる活動を取り入れましょう。
- * 言葉で表された式の2つの変数の一方を固定することによって、その式を一次関数とみなし、変化の割合が一定であることなどの一次関数の特徴を基に、事象を捉え直して考察したり、新たな事実を見いだしたりする活動を取り入れましょう。

<資料の活用>

成果

- 平均値の意味を理解している。[A 1 4 (1)]

課題

- △ ヒストグラムから相対度数を求めることができる。[A 1 4 (2)]
- △ 簡単な場合の確率の求め方を理解している。[A 1 5 (2)]
- △ 資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明することができる。[B 5 (2)]

指導改善のポイント例

- * 総度数が異なる場面を取り上げ、階級の度数をそのまま比較することが適切でないことを実感できるようにすることで、相対度数の必要性和意味について理解できるように指導しましょう。
- * 樹形図や二次元の表などを利用して整理し、起こり得る全ての場合の数とその事柄が起こり得る場合の数を正しく数え上げる活動を取り入れましょう。
- * 不確定な事象について、目的に応じた資料の整理の仕方を考えたり、資料の傾向を読み取って、分かった事柄を説明したりする活動を取り入れましょう。

②授業アイデア例

- 1 課題が見られた問題の概要と結果・・・B2 (1) 事柄が成り立つ理由の説明
(正答率：宮城県 33.9% 全国 37.3%)
- 2 小単元名 「文字式の利用～式による説明～」(第2学年)
- 3 本時のねらいと評価規準

本時のねらい	評価規準	
	数学的な見方や考え方	数学的な技能
連続する3つの奇数の和が3の倍数になることを説明できるようにする。	文字を用いて表現したり，目的に応じて変形したり，その意味を読み取ったりして，命題が成り立つことを説明することができる。	数量を表す式を，目的に応じて変形することができる。

4 授業改善の視点

- (1) 学習課題提示の工夫
- (2) 思考力・表現力の素地を育む工夫
- (3) 学習の成果と課題を実感させるための工夫

5 指導過程

段階	T：主な発問・指示 S：予想される生徒の反応	(1)(2)(3)：授業改善の視点 *：指導上の留意点
学習課題の把握	<p>T：問題場面の提示</p> <p>連続する3つの奇数の和はどんな数になるでしょうか。</p> $1 + 3 + 5 =$ $7 + 9 + 11 =$ $13 + 15 + 17 =$ <p>S：9，27，45だから9の倍数。 S：いつでも9の倍数かな。</p> <p>T：他の例も考えてみよう。</p> <p>S：3 + 5 + 7 = 15，5 + 7 + 9 = 21 S：9の倍数ではない，3の倍数だ。</p> <p>T：9の倍数であるとはいえないことを，例をあげて説明しよう。</p> <p>S：連続する3つの奇数が3，5，7のとき和は15になるので，9の倍数であるとはいえない。</p> <p>T：学習課題の提示</p> <p>連続する3つの奇数の和は，3の倍数になることを，文字を用いて説明しよう。</p> <p>S：どうしたらよいだろうか。</p>	<p>(1) 学習課題提示の工夫</p> <p>計算させそこに潜む規則性を予想させたり，不思議さや驚き，発見がある課題を提示したりすることは，生徒の解決してみたいという意欲の高まりにつながる。また，身近な問題場面を取り上げ考えさせることも有効である。</p> <p>事柄が成り立たないことを説明する場合も，結論とその根拠を明確にするよう問い掛け確認することが，論理的な思考を育むことにつながる。</p> <p>解決すべき課題が生徒自身のものになっていることが，課題解決の原動力になる。</p> <p>* 学習課題を視写させ，確実につかませる。</p>
見通す	<p>T：どのようにしたら説明できるだろうか。</p> <p>S：nを整数とすると，3つの連続する奇数は，$2n + 1$，$2n + 3$，$2n + 5$。 S：3の倍数ということは，$3 \times$ (整数) の形で表せばよいということだ。</p>	<p>* 課題解決への見通しを考えさせることで，論理的な思考力を育むとともに，全体で確認することで，自力解決を促す。</p> <p>* 説明を全員が理解しやすくするために，3つの連続する奇数を，整数nを使って，$2n + 1$，$2n + 3$，$2n + 5$とそろえる。</p>

自力解決	<p>T {一人でじっくり考えよう。</p> <p>S : $2n+1, 2n+3, 2n+5$ をたすと</p> <p>S : どうすればいいんだろう・・・</p> <p>T {ペアになり、考えを発表しよう。</p> <p>S : n を整数とすると・・・</p>	
集団解決	<p>T {どのように考えましたか。</p> <p>S :</p> <p>n を整数とすると、3つの連続する奇数は、$2n+1, 2n+3, 2n+5$ と表せる。</p> <p>その和は</p> $(2n+1) + (2n+3) + (2n+5)$ $= 6n+9$ $= 3(2n+3)$ <p>$2n+3$ は整数なので、$3(2n+3)$ は3の倍数である。</p> <p>よって、3つの連続する奇数の和は、3の倍数であるといえる。</p> <p>T {どのような手順で説明しましたか。</p> <p>S : 3つの連続する奇数の和を式に表しました。</p> <p>S : 表した式を変形して、その式が3の倍数であること、$3 \times (\text{整数})$ と表せることを示しました。</p> <p>T {そうだね。では、その手順を意識しながら、ペアになりもう一度説明してみよう。</p> <p>S :</p>	<p>(2) 思考力・表現力の素地を育む工夫</p> <p>自力解決の時間を確保し、課題とじっくり向き合わせ、自分の考えをノートに書かせることは、生徒の課題解決の力を高めるとともに、学習の理解度を把握させることにもつながる。</p> <p>書かせる時には、よりよい表現の仕方を身に付けさせるために、文字を使って説明するときのポイント (①何をどの文字でおいたのか、②立てた式がどんな数量を表しているのか、③何を示したら説明したといえるのか) などを提示することも有効である。</p> <p>*主体的に聞かせるために、参考になったところや疑問点は青ペンでメモしていくよう促す。</p> <p>*学習内容の確実な定着を図るために、ペア学習を取り入れ、説明で大切なことなどを、焦点化し繰り返し確認したり、説明し合ったりさせる。</p>
まとめ・振り返り	<p>T {この説明で大切にしなければならないのは何でしょう。</p> <p>S : 問題の条件に合うように文字に表すことです。</p> <p>S : 結論をしっかりと示すことです。</p> <p>S : $3 \times (\text{整数})$ の形で表すことができれば、説明できるという見通しをもつことです。</p> <p>T {適用問題 (連続する3つの奇数の和が3の倍数であることを、真ん中の奇数を $2n+1$ として説明しなさい。) に取り組みましょう。</p> <p>S :</p> <p>T {今日の学習を通して、学んだこと、新たな気づきや発見をノートに書きましょう。</p> <p>S : $3(2n+3)$ は、真ん中の数の3倍になっているとも言える。</p> <p>S : 5つの連続する奇数の和は、5の倍数になる。</p>	<p>(3) 学習の成果と課題を実感させるための工夫</p> <p>適用問題は、生徒・教師の両者にとっての学びの成果の確認の場となる。一人一人の状態をしっかり把握し、今後の指導に役立てる。</p> <p>また、視点を与えて振り返らせることは、生徒にとって本時の学びを意識化したり、発展的なことを考えたりすることにつながる。</p> <p>*一人一人の新たな気づきや発見は、次時の時間で取り上げ解決することを伝える</p> <p>*一人一人のノートを点検し、次時の意欲付け等につなげる。</p>

3 児童生徒の学習習慣の形成

■平成25年度 全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙調査結果

○ 小・中学校ともに、全国と比較して、自主的にいろいろ工夫しながら家庭学習に取り組んでいる。

上段：宮城県 下段：全国

校 種 質問項目 / 回答類型	小学校				中学校			
	1	2	3	4	1	2	3	4
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	26.8	34.5	27.6	11.0	15.9	32.6	34.5	16.9
	25.6	33.3	29.5	11.6	14.8	29.7	37.1	18.4
家で、学校の宿題をしていますか	86.5	10.1	2.6	0.7	61.8	26.3	8.5	3.3
	86.5	9.9	2.8	0.7	62.4	24.4	9.3	3.8
家で、学校の授業の予習をしていますか	19.8	27.8	34.5	17.9	17.5	30.8	32.7	18.9
	16.1	25.2	36.9	21.7	11.1	22.4	36.4	29.9
家で、学校の授業の復習をしていますか	29.1	32.8	25.7	12.3	25.3	35.5	26.5	12.5
	21.0	30.4	31.6	16.9	17.2	31.4	31.7	19.6
家で、苦手な教科の勉強をしていますか	24.0	32.5	29.6	13.9	21.8	34.3	29.5	14.1
	21.4	29.7	31.7	17.2	15.8	30.4	33.9	19.7
家で、テストで間違えた問題について勉強していますか	24.9	32.7	28.5	13.8	14.0	30.7	35.6	19.0
	21.0	30.1	31.2	17.4	11.9	27.6	36.8	23.1

1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない

■家庭学習の指導

家庭学習は、「学んだことを定着させる」という重要な役割がある。児童生徒が自主的・主体的に家庭学習に取り組む態度は、教師の適切な指導によって育成されるため、以下を大切にしたい。

「家庭学習」のあり方について全職員で共通理解を図る。

- (1) 学校としての家庭学習の方針や目的
- (2) 児童生徒の家庭学習の実態と目標
- (3) 課題の内容と量
 - 授業とかかわる課題で、児童生徒が自分の力で取り組める内容
 - 課題が明確で取り組むねらいが把握できる（予習、復習、自主課題等）
 - 児童生徒が意欲的に取り組める分量
(小学校では担任が把握し、適切な一定量実施。 中学校では、教科担任間の連絡・調整を図る。)
- (4) 家庭学習の意欲の維持のさせ方
 - 家庭学習の課題についての適切な評価と指導（やらせっぱなしにしない）
 - 努力を認める声掛けや励まし
- (5) 児童生徒への家庭学習の指導

家庭へ協力を依頼する。

- (1) 家庭学習の具体的内容、方法について「家庭学習の手引き」等で具体的に示す。
- (2) 学校が家庭学習について説明したり保護者から家庭学習に関する相談を受けたりする場を設定する。
- (3) 発達の段階に応じて、「家庭学習カード」等で保護者にも家庭学習の点検と励ましをお願いする。
- (4) テレビやビデオ・DVDの視聴時間が全国値より高いことことを踏まえ、学習を支える望ましい生活習慣の育成を図る。

4 教育環境基盤の充実

■平成25年度 全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査結果

- 小・中学校ともに、全国と比較して、1つの学級を2つ以上の学習集団に分けた習熟度別の少人数指導を行っている学校が多い。また、教材については、小・中学校ともに、各学習集団の習熟度に合わせた既存の教材を組み合わせた学校や、全ての学習集団で同一のものを用いている学校が多い。

上段：宮城県 下段：全国

校 種 質問項目 / 回答類型	小学校					中学校				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
前年度に、算数(数学)の授業において、習熟度別の少人数指導を行うに当たって、学習集団をどう編制しましたか	41.9	8.9	47.0			42.4	3.0	53.0		
	36.5	13.7	47.9			32.5	5.9	60.7		

- 1 1つの学級を2つ以上の学習集団に分けた 2 複数の学級から学級とは別の2つ以上の学習集団に分けた
3 習熟度別での少人数による指導を行っていない

前年度に、算数(数学)の授業において、習熟度別の少人数指導を行うにあたって、どのような教材を用いましたか	15.3	30.5	5.2	2.0	45.3	14.6	18.2	12.6	1.5	52.0
	12.5	32.3	7.7	1.9	44.9	10.9	16.8	10.8	1.9	58.8

- 1 全ての学習集団で同一の教材 2 各学習集団の習熟度に合わせて既存の教材を組み合わせたもの
3 各学習集団の習熟度に合わせて独自に作成した教材 4 個々の児童の個人差に合わせて作成した教材
5 習熟度別での少人数による指導を行っていない

■少人数指導の工夫

「少人数指導」「チーム・ティーチング」「小学校における教科担任制」など指導体制を工夫し、個に応じた指導の充実を図ることが求められている。本県においては、平成13年度から少人数指導加配を行っているが「少人数指導を行えば必ず学力向上に結び付く」ということではない。少人数で編制した全ての学習集団が教科の目標を達成できるように指導を工夫・改善しなければならない。少人数指導に当たっては以下の点に留意したい。

指導体制

- (1) 少人数指導の目的についての共通理解を図り、全教職員で取り組む。
目的と方針、実施期間、実施学年、実施教科、実施方法(学習集団の編制、指導内容、指導方法、評価等)、推進組織、児童生徒と保護者への説明等について共通理解を図り、「少人数指導実施計画」を作成する。
- (2) 担当教員間の情報交換等を大切にして取り組む。特に、評価規準について共通理解を図る。
- (3) 互いに尊重し合う雰囲気にあふれる学年・学級経営を大切にして取り組む。
- (4) 少人数指導に使う教室の環境を整備するとともに、教育機器や学習教材等の確保を図る。

指導方法と指導形態

- (1) 少人数指導のよさと課題を把握し、よさを生かした指導を行う。
第一のよさは児童生徒の実態や学習状況に応じたきめ細やかな指導ができることである。児童生徒の反応やつまずきなどを予測し、それに合わせた指導・助言や手立てを準備しておく。
- (2) 児童生徒や学校の実態、学習指導のねらい、教科の特性等に応じて、指導形態と指導方法を検討する。
 - 学習集団の質の検討 <等質分割にするか、習熟度別の分割にするか>
 - 分割する母集団と集団の数の検討
<一つの学級を分割するか、複数学級を分割するか。いくつの集団に分割するか>
 - 少人数指導を取り入れる場面の検討
<年間を通して取り入れるか、単元全体の中の一部の時間に取り入れるか、単位時間の一部の時間(前半部や後半部)に取り入れるか>
 - 組み合わせの検討<上記の内容をどのように組み合わせて行うのが有効か>



第2章

全国学力・学習状況調査結果



I 全国学力・学習状況調査の概要

1 目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 実施日 平成25年4月24日（水）

3 対象 小学校第6学年，中学校第3学年の全児童生徒

4 内容

- (1) 教科に関する調査 小学校6年生：国語，算数，中学校3年生：国語，数学
- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査 児童生徒に対する調査，学校に対する調査

5 参加状況（仙台市を含む）

公立小学校406校 参加児童数20,623名，公立中学校198校 参加生徒数18,636名

6 調査結果の概況

(1) 平成19年度から平成25年度までの教科に関する調査結果一覧

- 平成22年度，24年度の値は，上段は抽出校の平均正答率，下段は抽出校の平均正答率をもとに，悉皆調査を実施した場合の県の平均正答率を想定した値の範囲（95%信頼区間 文部科学省の説明による）。

			「知識」に関するA問題			「活用」に関するB問題				
			問題数	全国 平均正答率	宮城県 平均正答率	全国平均 との比較	問題数	全国 平均正答率	宮城県 平均正答率	全国平均 との比較
小 学 校	国 語	H25	18	62.7	60.8	-1.9	10	49.4	47.6	-1.8
		H24	17	81.6	81.7	+0.1	11	55.6	55.9	+0.3
				81.4-81.7	81.2-82.3			55.4-55.8	55.1-56.8	
		H22	15	83.3	83.4	+0.1	10	77.8	77.7	-0.1
		H21	18	83.2-83.5	82.7-84.0			77.7-78.0	76.9-78.5	
				69.9	67.4	-2.5	10	50.5	49.8	-0.7
	H20	18	65.4	64.2	-1.2	12	50.5	49.2	-1.3	
	H19	18	81.7	80.6	-1.1	10	62.0	61.0	-1.0	
	算 数	H25	19	77.2	76.3	-0.9	13	58.4	56.5	-1.9
		H24	19	73.3	72.7	-0.6	13	58.9	58.1	-0.8
				73.1-73.5	71.9-73.5			58.7-59.1	57.2-59.1	
		H22	19	74.2	73.8	-0.4	12	49.3	47.8	-1.5
				74.0-74.4	72.9-74.7			49.1-49.5	46.8-48.7	
		H21	18	78.7	77.5	-1.2	14	54.8	54.0	-0.8
H20	19	72.2	71.3	-0.9	13	51.6	50.4	-1.2		
H19	19	82.1	81.1	-1.0	14	63.6	61.4	-2.2		
中 学 校	国 語	H25	32	76.4	77.6	+1.2	9	67.4	68.6	+1.2
		H24	32	75.1	76.2	+1.1	9	63.3	65.5	+2.2
				75.0-75.2	75.6-76.8			63.2-63.4	64.9-66.2	
		H22	35	75.1	76.2	+1.1	10	65.3	66.7	+1.4
		H21	33	75.0-75.2	75.6-76.7			65.1-65.5	66.0-67.4	
				77.0	78.1	+1.1	11	74.5	76.4	+1.9
	H20	34	73.6	73.8	+0.2	10	60.8	61.8	+1.0	
	H19	37	81.6	80.8	-0.8	10	72.0	71.0	-1.0	
	数 学	H25	36	63.7	62.2	-1.5	16	41.5	39.7	-1.8
		H24	36	62.1	60.8	-1.3	15	49.3	50.5	+1.2
				62.0-62.3	59.9-61.8			49.2-49.5	49.4-51.6	
		H22	36	64.6	64.4	-0.2	14	43.3	44.0	+0.7
				64.4-64.8	63.4-65.4			43.1-43.5	42.9-45.1	
		H21	33	62.7	62.1	-0.6	15	56.9	57.7	+0.8
H20	36	63.1	61.4	-1.7	15	49.2	49.1	-0.1		
H19	36	71.9	70.3	-1.6	17	60.6	59.4	-1.2		

(2) 教科に関する調査の結果

- 小学校の平均正答率については、国語・算数の「知識」に関するA問題、「活用」に関するB問題のいずれの教科においても全国平均を下回った。さらに昨年度と比較すると、全国平均との差が広がっていることから、課題が見られる。
- 中学校の平均正答率については、国語の「知識」に関するA問題、「活用」に関するB問題とも全国平均を上回った。数学は、A問題、B問題とも全国平均を下回っており、課題が見られる。

(3) 児童生徒質問紙調査の結果

- 小・中学生ともに、はやね・はやおき・あさごはんや規則正しく生活することなど、基本的な生活習慣に関する質問に対しては、全国と比べて肯定的な回答をしている項目が多い。
- 長時間テレビやビデオ・DVDを見る割合は、小・中学生ともに昨年度より減少したが、小学生は全国値よりも高い。また、長時間テレビゲームをする割合は、小・中学生ともに昨年度よりも増加し、小学生においては全国値よりも高い。
- 家庭で授業の予習、復習をしている割合は、小・中学生ともに昨年度よりも増加し、全国値を上回っているが、平日に2時間以上勉強している中学生の割合は、全国値を下回っている。
- 小学生においては、国語、算数の授業の内容がよく分かるとしている割合は、昨年度よりも減少し、全国値よりも低い。また、中学生においては、国語は昨年度よりも減少しているが全国値よりも高い。数学は昨年度よりも増加しており、全国値と同値になった。

(4) 学校質問紙調査の結果

- 「全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行った」と回答した学校の割合は、小・中学校ともに昨年度よりも増加しており、全国値よりも高い。
- 国語の指導において、書く習慣を付ける指導に取り組んでいる学校の割合は、小学校では昨年度より減少しており、全国値と比較しても低い。中学校では昨年度より増加しており、全国値と比較しても高い。また、読む習慣を付ける指導に取り組んでいる学校の割合は、小・中学校ともに昨年度より減少しており、中学校は全国値よりも低い。
- 算数・数学の指導において、補充的な指導に取り組んでいる学校の割合は、小学校では昨年度より減少しており、中学校では増加しているが、小・中学校ともに全国値よりも高い。また、発展的な指導に取り組んでいる学校の割合は、小・中学校ともに昨年度より減少しており、中学校は全国値よりも低い。
- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導に取り組んでいる学校の割合は、小・中学校ともに昨年度よりも増加しており、全国値よりも高い。

7 今後の対応

全国学力・学習状況調査の結果においては、平成24年度までは改善の方向で進んできたが、平成25年度は全国平均を下回る結果となった。このことについては、震災による影響も推測されるが、今後、文部科学省から提供されるデータを活用してさらに詳細な分析をする必要がある。

大震災の影響で厳しい学習環境にある中でも、確かな学力の定着は、全ての子供たちにとって必要なことであり、今回の結果を踏まえ、市町村教育委員会と連携しながら学力向上に向けた具体的な取組を進めていかなければならない。特に、児童生徒の学習習慣の形成、児童生徒の学習状況の把握、教員の教科指導力の向上の3点を重点として、学力向上のための緊急会議を開催し、認識を共有して施策の充実を図っていく。

II 各教科の調査の結果

1 小学校国語A問題

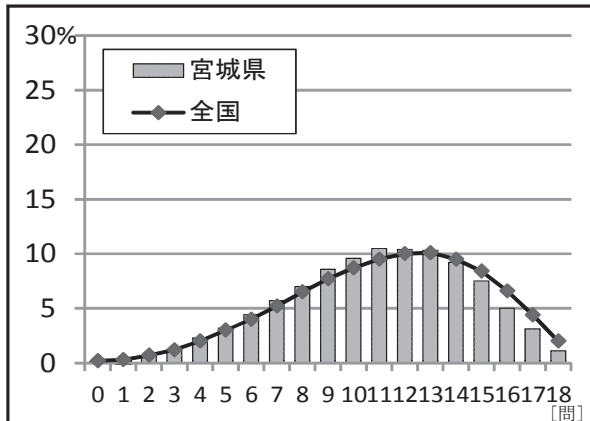
(1) 結果の概要

- 平均正答率は60.8%であり、全国平均を1.9ポイント下回っている。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことや接続語の役割を押さえながら、文を分析的に捉えることに課題がある。

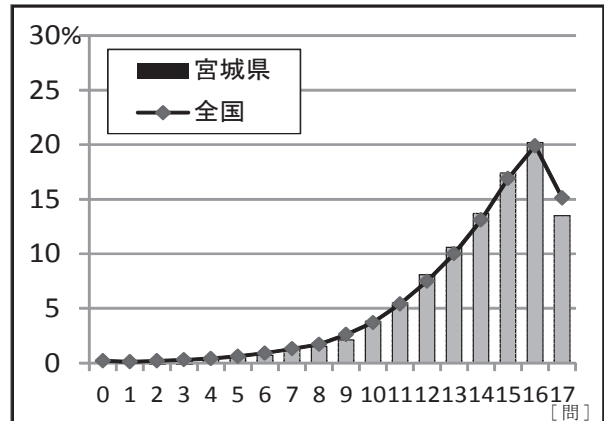
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比較して、15問～18問(80%～100%程度)正答した児童の割合が低く、8問～11問(40%～60%程度)正答した児童の割合が高い状況が見られる。

【平成25年度正答数度数分布グラフ】



【平成24年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で、平均正答率が、全国平均を上回る結果となり改善が図られている。「書くこと」の領域は依然として課題が見られる。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域の平均正答率は、60.8%で全国平均を1.8ポイント下回った。

領域	話すこと・聞くこと					書くこと					読むこと					伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項					合計									
	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19
県平均正答率(%)	45.4	79.8	82.7	65.2	76.4	54.5	50.1	55.0	66.0	84.9	50.7	83.3	60.7	82.5	73.6	67.2	44.1	67.0	60.8	86.8	86.0	60.9	64.0	86.0	60.8	81.7	83.4	67.4	64.2	80.6
全国平均正答率(%)	43.2	79.4	83.2	68.0	76.1	56.6	53.0	57.5	67.7	85.4	53.3	85.3	60.1	82.1	74.1	68.7	44.5	67.3	62.6	86.3	85.8	64.2	65.2	86.8	62.7	81.6	83.3	69.9	65.4	81.7
全国との比較	2.2	0.4	-0.5	-2.8	0.3	-2.1	-2.9	-2.5	-1.7	-0.5	-2.6	-2.0	0.6	0.4	-0.5	-1.5	-0.4	-0.3	-1.8	0.5	0.2	-3.3	-1.2	-0.8	-1.9	0.1	0.1	-2.5	-1.2	-1.1

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

<p>話すこと・聞くこと</p> <p>◇ 選手宣誓文の表現の工夫とその効果を説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率は45.4%で、全国平均を2.2ポイント上回っている。[7]</p>
<p>書くこと</p> <p>◆ 文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って1文を2文に分けて書く問題の正答率は19.0%で、全国平均を4.4ポイント下回っている。[3二(1)]</p> <p>◆ 「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、年代ごとの割合から分かることを書く問題の正答率は67.9%で、全国平均を3.4ポイント下回っている。[4イ]</p>
<p>読むこと</p> <p>◇ マナーに関する広告を読み、編集の仕方の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する問題の正答率は74.2%で、全国平均を2.5ポイント上回っている。[5イ]</p>
<p>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p> <p>◇ 学年別漢字配当表に示されている漢字「採集」を正しく読む問題の正答率は78.6%で、全国平均を13.7ポイント上回っている。[1一(3)]</p> <p>◇ ことわざ(石の上にも三年)の意味として適切なものを選択する問題の正答率は77.1%で、全国平均を6.0ポイント上回っている。[2一]</p> <p>◆ 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題「やく」「ていしゃ」「もうける」は、正答率が全てにおいて全国平均を8ポイント以上下回っている。[1二(1)～1二(3)]</p> <p>◆ 文の定義を理解し、文のはじめの5文字を丸で囲む問題の正答率は28.7%で、全国平均を7.8ポイント下回っている。[3一]</p> <p>◆ ことわざ(急がば回れ)の意味として適切なものを選択する問題の正答率は81.1%で、全国平均を5.0ポイント下回っている。[2二]</p>

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			宮城県 (公立)		全国 (公立)		正 答 率 の か い 離	無 解 答 率 の か い 離
		話 す こ と ・ 聞 く こ と	書 く こ と	読 む こ と	伝 統 的 な 言 語 文 化 と 国 語 の 特 質 に 関 す る 事 項	選 択 式	短 答 式	記 述 式	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)		
1- (1)	漢字を読む (乗り物の差を買う)				56 (1)ウ (ア)		○		98.9	0.5	98.9	0.5	0.0	0.0
1- (2)	漢字を読む (子孫のためにゴミをへらす)				56 (1)ウ (ア)		○		77.0	2.4	79.2	2.2	-2.2	0.2
1- (3)	漢字を読む (めずらしい植物を採集する)				56 (1)ウ (ア)		○		78.6	1.4	64.9	3.1	13.7	-1.7
1二 (1)	漢字を書く (魚をやく)				56 (1)ウ (ア)		○		64.2	7.7	72.4	5.6	-8.2	2.1
1二 (2)	漢字を書く (バスがていしゃした)				56 (1)ウ (ア)		○		34.1	14.4	46.9	11.0	-12.8	3.4
1二 (3)	漢字を書く (委員会をもうける)				56 (1)ウ (ア)		○		43.7	38.3	53.5	27.4	-9.8	10.9
2-	ことわざの意味として適切なものを選択する (石の上にも三年)				34 (1)ア (イ)		○		77.1	0.8	71.1	1.2	6.0	-0.4
2二	ことわざの意味として適切なものを選択する (急がば回れ)				34 (1)ア (イ)		○		81.1	1.3	86.1	1.2	-5.0	0.1
3-	文のはじめの5文字を丸で囲む				12 (1)イ (カ)		○		28.7	22.3	36.5	20.2	-7.8	2.1
3二 (1)	接続語を使って1文を2文に分けて書く		56 ウ		34 (1)イ (ク)		○		19.0	14.5	23.4	10.3	-4.4	4.2
3二 (2)	「だから」と同じような働きをする接続語と して適切なものを選択する				34 (1)イ (ク)		○		82.5	3.6	83.3	3.5	-0.8	0.1
4ア	「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、 年代ごとの割合から分かることを書く		56 エ				○		71.1	14.1	72.4	11.9	-1.3	2.2
4イ			56 エ				○		67.9	20.9	71.3	18.1	-3.4	2.8
4ウ	「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、 全体から分かることを書く		56 エ				○		42.4	22.3	44.9	20.3	-2.5	2.0
5ア	マナーに関する広告を読み、編集の仕方の特 徴をまとめたものとして適切なものを選択す る			56 ウ	56 (1)イ (キ)		○		62.7	7.6	61.1	9.2	1.6	-1.6
5イ				56 ウ	56 (1)イ (キ)		○		74.2	8.5	71.7	10.3	2.5	-1.8
6アイ	焚火とその周りの景色との関係を表したもの として適切なものを選択する			56 エ	34 (1)ア (ア)		○		45.2	12.1	47.5	14.4	-2.3	-2.3
7	選手宣誓文の表現の工夫とその効果を説明し たものとして適切なものを選択する	56 イ			56 (1)イ (ケ)		○		45.4	20.0	43.2	21.9	2.2	-1.9

2 小学校国語B問題

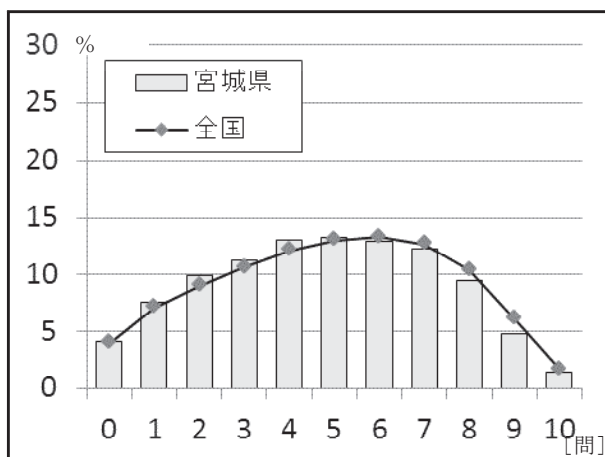
(1) 結果の概要

- 平均正答率は47.6%で、全国平均を1.8ポイント下回っている。
- 「書くこと」の領域において、目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書くことや助言についての説明を書くことに課題が見られる。
- 無解答率20%以上だった設問は、全10問中3問あり、全国と同様の傾向が見られる。児童質問紙より、問題B-2-三における無回答の理由は「難しく解答できなかった」が80.7%であり、その中の41.1%が「何を書いたらよいか分からない」と回答している。

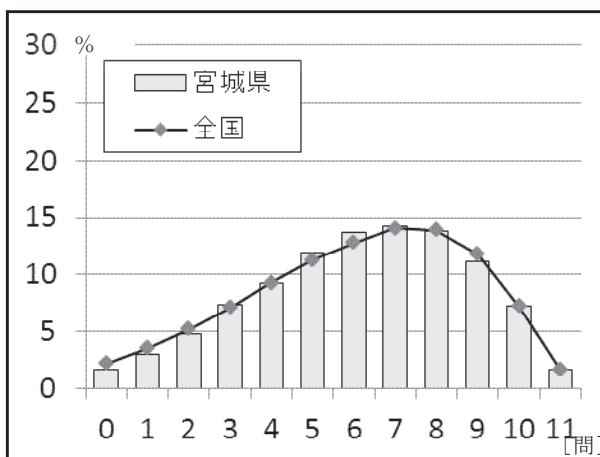
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比較して、6問(60%)以上正答している児童の割合が低い状況が見られ、全体的な底上げが課題である。
- 全ての設問において、正答率が全国平均よりも下回っている。

【平成25年度正答数度数分布グラフ】



【平成24年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 全ての領域の平均正答率が、全国平均を下回っている。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域の平均正答率は全国平均を下回ったが、全国平均とのかい離が0.1ポイントと小さくなっている。

[%]

領域	話すこと・聞くこと						書くこと						読むこと					伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項					合計						
	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20
県平均正答率(%)	63.1	62.6	75.0	61.1	72.7	67.6	41.7	47.0	92.2	12.7	48.0	60.5	46.1	55.6	73.1	55.6	46.6	56.5	63.7	54.7	72.3	58.5	79.4	47.6	55.9	77.7	49.8	49.2	61.0
全国平均正答率(%)	64.8	63.0	75.4	61.3	73.0	70.9	43.8	46.8	91.6	14.5	49.1	61.7	47.9	55.7	73.4	56.5	48.3	57.7	63.8	55.2	73.0	59.7	77.0	49.4	55.6	77.8	50.5	50.5	62.0
全国との比較	-1.7	-0.4	-0.4	-0.2	-0.3	-3.3	-2.1	0.2	0.6	-1.8	-1.1	-1.2	-1.8	-0.1	-0.3	-0.9	-1.7	-1.2	-0.1	-0.5	-0.7	-1.2	2.4	-1.8	0.3	-0.1	-0.7	-1.3	-1.0

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

話すこと・聞くこと

- ◆ 話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言をする問題の正答率は64.4%であり、全国平均を2.8ポイント下回っている。[1三]

書くこと

- ◆ 目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書く問題の正答率は21.6%であり、全国平均を4.6ポイント下回っている。[2二]

読むこと

- ◆ 2人の推薦文を比べて読み、推薦している理由を書く問題の正答率は43.1%であり、全国平均を2.2ポイント下回っている。[3-イ]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			宮城県 (公立)		全国 (公立)		正答率の かい離	無解答率の かい離
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な 言語文化と 国語の特質 に関する事項	選択 式	短答 式	記述 式	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)		
1ー	助言の際に6年生がとった対応の説明として適切なものを選択する	56 イ				○			77.3	1.2	78.8	1.2	-1.5	0.0
1二	6年生の助言の仕方の説明として適切なものをそれぞれ選択する	56 イエ				○			47.5	1.2	48.5	1.2	-1.0	0.0
1三	川本さんの助言についての説明を書く	56 イエ	56 ウ				○		64.4	10.9	67.2	9.7	-2.8	1.2
2ー	「打ち上げ花火の歴史」という見出しに合わせて必要な内容を書き加える		56 ウオカ		34 (1)イ (ク)		○		63.7	4.9	63.8	4.4	-0.1	0.5
2二	【ずかんの一部】の中から花火師の苦勞が具体的に書かれている内容を引用して書く		56 エオカ				○		21.6	16.1	26.2	13.3	-4.6	2.8
2三	複数の内容を関係付けた上で、自分の考えを具体的に書く		56 エオカ				○		16.9	22.5	17.8	20.4	-0.9	2.1
3ーア	【本間さんが書いたすいせん文】において推薦している対象を書く			56 エカ			○		48.4	15.8	49.7	15.7	-1.3	0.1
3ーイ	【花田さんが書いたすいせん文】において推薦している理由を書く			56 エカ			○		43.1	30.3	45.3	28.8	-2.2	1.5
3ーウ	【本間さんが書いたすいせん文】において推薦している理由を書く			56 エカ			○		42.7	32.2	44.6	30.6	-1.9	1.6
3二	2人の推薦文を比べて読み、それぞれの読み方として適切なものを選択する			56 イカ			○		50.4	9.7	51.9	10.6	-1.5	-0.9

児童質問紙

質 問 事 項	宮城県	全国	かい離	
国語B-2-三の問題(あとの条件に合わせて書く100字の作文)の解答を書きましたか。	77.3	78.3	-1.0	
国語B-2-三の問題について解答しなかった理由は何ですか。 (解答しなかった児童のみ)	1 難しくて解答できなかった。	80.7	79.0	1.7
	2 文章で書くので解答しようと思わなかった。	6.7	7.1	-0.7
	3 時間が足りなくなった。	11.4	12.5	-1.1
国語B-2-三の問題に解答しようとしたとき、あなたはどのように考えましたか。(難しくて解答できなかった児童のみ)	1 問題文の意味が分からなかった	31.8	31.0	0.8
	2 何を書いたらよいか分からなかった	41.1	42.3	-1.2
	3 考えがまとまらなかった。	19.1	18.4	0.7
	4 自信がなかった。	3.4	2.9	0.5

3 小学校算数 A 問題

(1) 結果の概要

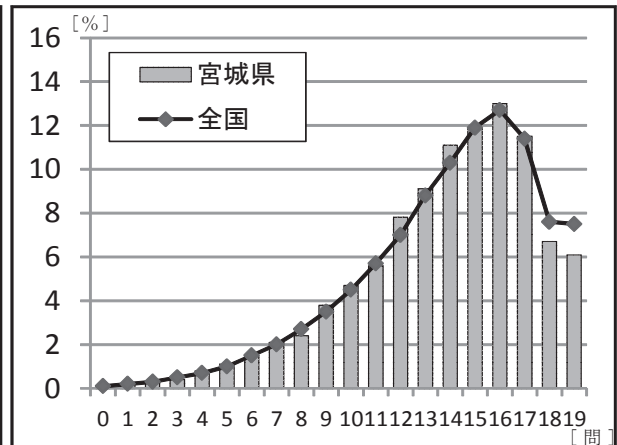
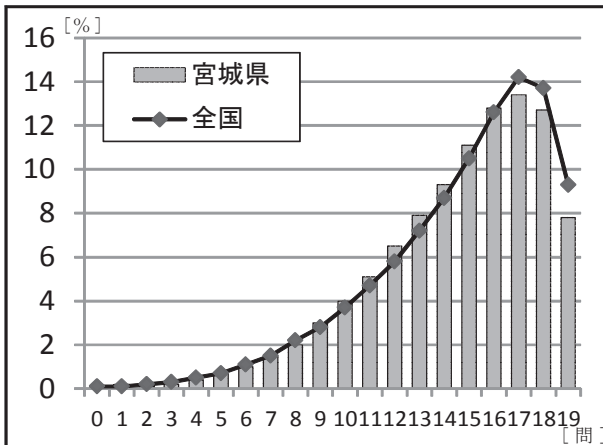
- 平均正答率は76.3%であり、全国平均を0.9ポイント下回っている。また、全国平均とのかい離は平成24年度より0.3ポイント大きくなっており、課題が見られる。
- 複数の情報から必要な情報を取り出して面積を求める問題、直接測定できない部分の長さを求める問題、割合の問題で、これまで同様に課題が見られ、全国平均を下回る結果となっている。

(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 17問(90%程度)以上正答した児童の割合が全国と比べて低い状況が見られ、10問～16問(50%～85%程度)正答した児童の割合は、全国と比べて高くなっている。

【平成25年度正答数度数分布グラフ】

【平成24年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「数と計算」「数量関係」の領域で、平均正答率が全国平均を下回っているものの、全国平均とのかい離は、平成24年度よりもそれぞれ0.2ポイント、1.8ポイント小さくなっている。
- 「量と測定」「図形」の領域で、平均正答率が全国平均を下回っており、全国平均とのかい離も、平成24年度より大きくなり、課題が見られる。

領域	数と計算															量と測定					図形					数量関係					合計				
	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19					
県平均正答率(%)	80.0	74.6	75.0	81.2	76.2	79.6	66.7	71.0	72.0	67.4	56.1	85.1	70.9	73.0	83.7	81.1	71.6	86.3	82.7	71.9	63.4	63.0	69.8	74.0	76.3	72.7	73.8	77.5	71.3	81.1					
全国平均正答率(%)	80.2	75.0	74.1	82.8	76.8	81.5	68.3	71.7	74.1	78.5	56.2	86.1	72.5	72.6	83.1	81.3	72.7	86.1	83.4	74.4	65.7	64.2	72.4	75.4	77.2	73.3	74.2	78.7	72.2	82.1					
全国との比較	-0.2	-0.4	0.9	-1.6	-0.6	-1.9	-1.6	-0.7	-2.1	-1.1	-0.1	-1.0	-1.6	0.4	0.6	-0.2	-1.1	0.2	-0.7	-2.5	-2.3	-1.2	-2.6	-1.4	-0.9	-0.6	-0.4	-1.2	-0.9	-1.0					

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【数と計算】

- ◇ 小数の加法の計算問題の正答率は78.1%であり、全国平均を6.8ポイント上回っている。[1(2)]
- ◆ 示された位までの概数にする際、一つ下の位の数に四捨五入して処理する方法についての理解の問題の正答率は54.5%であり、全国平均を5.7ポイント下回っている。[2]

【量と測定】

- ◆ 単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味についての理解の問題の正答率は48.0%であり、全国平均を2.0ポイント下回っている。[4]
- ◆ 1a (1アール)の面積と等しい正方形の辺の長さについての理解の問題の正答率は49.9%であり、全国平均を2.4ポイント下回っている。[5(2)]
- ◆ 上底3cm, 下底8cm, 高さ4cm, 斜辺5cmの台形の面積を求める式と答えを書く問題の正答率は71.2%であり、全国平均を2.1ポイント下回っている。[5(3)]

【図形】

- ◆ 三角形ABCと合同な三角形をかくために必要な条件についての理解の問題の正答率は58.1%であり、全国平均を2.6ポイント下回っている。[6]
- ◆ 円柱について、底面の円周の長さと展開図の側面の辺の長さとが対応していることについての理解の問題の正答率は63.7%であり、全国平均を2.6ポイント下回っている。[7(2)]

【数量関係】

- ◆ 割合が50%のとき、基準量と比較量の大きさの関係についての理解の問題の正答率は74.3%であり、全国平均を2.4ポイント下回っている。[8(1)]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			宮城県 (公立)		全国 (公立)		正 答 率 の か い 離	無 解 答 率 の か い 離	
		数 と 計 算	量 と 測 定	図 形	数 量 関 係	選 択 式	短 答 式	記 述 式	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)			
1 (1)	$243 - 65$ を計算する	3A (2)イ						○		88.8	0.2	88.2	0.2	0.6	0.0
1 (2)	$0.75 + 0.9$ を計算する	4A (5)イ						○		78.1	0.3	71.3	0.3	6.8	0.0
1 (3)	9.3×0.8 を計算する	5A (3)イ						○		82.1	0.3	83.7	0.4	-1.6	-0.1
1 (4)	$6 \div 5$ を計算する	4A (5)ウ						○		88.7	1.3	88.3	1.4	0.4	-0.1
1 (5)	$16 - (6 + 3)$ を計算する				4D (2)ア			○		94.4	0.8	94.4	0.8	0.0	0.0
1 (6)	2 と $5 \div 7 + 1$ と $1 \div 7$ を計算する	4A (6)イ						○		90.9	1.9	88.9	2.1	2.0	-0.2
1 (7)	$2 \div 9 \times 4$ を計算する	5A (4)カ						○		87.3	2.2	89.5	1.7	-2.2	0.5
2	一万の位までの概数にしたときに、 20000 になる数を選ぶ	4A (2)イ						○		54.5	2.1	60.2	1.9	-5.7	0.2
3	除数と商と余りから被除数を求める式を選ぶ	4A (3)ウ						○		69.4	1.9	71.6	1.8	-2.2	0.1
4	AとBの2つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ		5B (4)ア					○		48.0	0.8	50.0	0.8	-2.0	0.0
5 (1)	木のまわりの長さを測定する際に用いる計器を適切に選ぶ		3B (2)					○		97.6	0.4	97.4	0.4	0.2	0.0
5 (2)	$1a$ (1 アール) と等しい面積になる正方形の一辺の長さを選ぶ		4B (1) アイ					○		49.9	1.1	52.3	1.1	-2.4	0.0
5 (3)	上底 3cm 、下底 8cm 、高さ 4cm 、斜辺 5cm の台形の面積を求める式と答えを書く		5B (1)ア					○		71.2	2.1	73.3	2.1	-2.1	0.0
6	三角形ABCと合同な三角形をかくことができる条件を選ぶ			5C (1)イ				○		58.1	0.9	60.7	1.0	-2.6	-0.1
7 (1)	展開図に示された側面の長方形の縦の辺の長さを書く			5C (2)ア				○		90.8	2.0	90.6	2.1	0.2	-0.1
7 (2)	展開図に示された側面の長方形の横の辺の長さ求める式と答えを書く			5C (1)エ 5C (2)ア				○		63.7	6.2	66.3	5.7	-2.6	0.5
8 (1)	200cm の 50% に当たる長さを選ぶ			5D (3)				○		74.3	1.9	76.7	2.2	-2.4	-0.3
8 (2)	500g の 120% に当たる重さについて、適切なものを選ぶ			5D (3)				○		76.4	2.3	76.9	2.8	-0.5	-0.5
9	最小目盛りが 2 に当たる棒グラフから、借りた本の冊数が一番多い曜日とその曜日に借りた冊数を書く			3D (3)ア				○		85.7	2.1	85.7	2.8	0.0	-0.7

4 小学校算数B問題

(1) 結果の概要

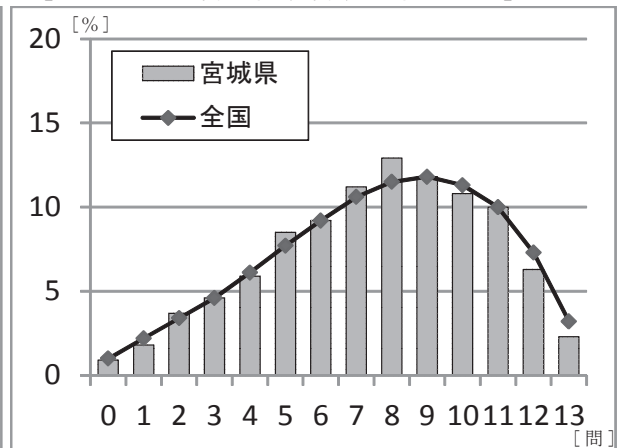
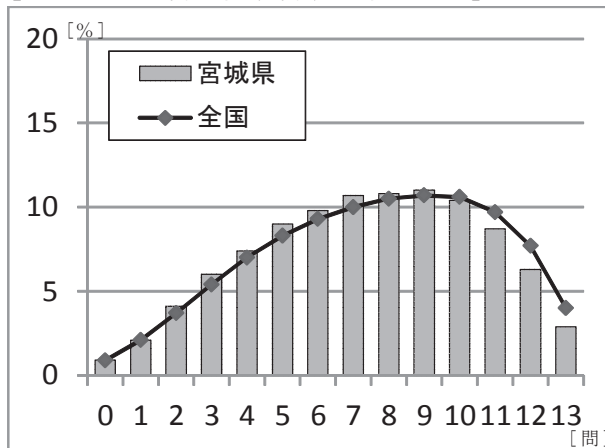
- 平均正答率は56.5%であり、全国平均を1.9ポイント下回っている。全国平均とのかい離は昨年度より1.1ポイント大きくなっており、課題が見られる。
- 平均正答率で全国平均を上回った問題はなかった。特に、記述式の問題は全国平均とのかい離が大きい傾向にあり、無解答率10%以上の設問は5問中3問であった。児童質問紙より、問題B-4-(1)における無解答の理由は「難しくて解答できなかった」が76.3%であり、その中の40.2%が「問題文の意味が分からなかった」と回答しており、問題文自体を理解する力に課題がある。
- 言葉の式に数値を当てはめて、計算の順序についてのきまりを基に計算することに課題がある。

(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比べ、11問（85%程度）以上正答した児童の割合は低い状況が見られる。

【平成25年度正答数度数分布グラフ】

【平成24年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 全ての領域で全国平均を下回っており、平成24年度より全国平均とのかい離も大きくなっている。特に、「量と測定」「数量関係」の領域においては、全国平均とのかい離が、2.0ポイントあり、課題が見られる。

領域	数と計算					量と測定					図形					数量関係					合計									
	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19
県平均正答率(%)	46.7	52.5	54.8	55.0	64.3	55.0	54.0	60.2	30.6	58.7	51.9	55.7	78.2	63.2	40.3	54.6	59.9	71.0	52.9	48.1	52.8	57.1	43.8	63.6	56.5	58.1	47.8	54.0	50.4	61.4
全国平均正答率(%)	48.3	54.0	55.8	55.8	65.2	58.9	56.0	60.8	33.3	59.9	53.3	58.0	79.3	63.3	42.0	56.4	61.2	72.5	54.9	49.5	54.3	56.8	44.9	65.5	58.4	58.9	49.3	54.8	51.6	63.6
全国との比較	-1.6	-1.5	-1.0	-0.8	-0.9	-3.9	-2.0	-0.6	-2.7	-1.2	-1.4	-2.3	-1.1	-0.1	-1.7	-1.8	-1.3	-1.5	-2.0	-1.4	-1.5	-0.3	-1.1	-1.9	-1.9	-0.8	-1.5	-0.8	-1.2	-2.2

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

<p>【数と計算】</p> <p>◆ 三つの買い方の中から最も安くなる買い方を選択し、その選択が正しい理由を記述する問題の正答率は48.6%で、全国平均を2.2ポイント下回っている。[1(2)]</p> <p>【量と測定】</p> <p>◆ 示された分け方で二つの三角形の面積が等しくなることを記述する問題の正答率は38.7%で、全国平均を4.0ポイント下回っている。[3(2)]</p> <p>【図形】</p> <p>◆ 長方形と台形の分割の仕方を比べて、台形の場合は4等分にならないわけを選択する問題(量と測定の領域を兼ねた問題)の正答率は53.4%で、全国平均を2.9ポイント下回っている。[3(3)]</p> <p>【数量関係】</p> <p>◆ 示された式に数値を当てはめて計算し、計算の結果の大小を基に判断することができるかどうかをみる問題の正答率は45.7%で、全国平均を4.9ポイント下回っている。[4(3)]</p> <p>◆ 表から数値を適切に取り出して、二つの数量の関係が比例の関係ではないことを記述する問題(量と測定の領域を兼ねた問題)の正答率は32.3%で、全国平均を2.9ポイント下回っている。[2(3)]</p>

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			宮城県 (公立)		全国 (公立)		正 答 率 の か い 離	無 解 答 率 の か い 離
		数 と 計 算	量 と 測 定	図 形	数 量 関 係	選 択 式	短 答 式	記 述 式	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)		
1 (1)	残りの乗り物券の枚数と乗る予定の乗り物を基に、二人がまだ乗る予定になく一緒に乗ることができる乗り物を書く	1A (2)イ			4D (4)ア		○		49.6	3.5	51.0	3.1	-1.4	0.4
1 (2)	三つの乗り物券の買い方を比較して、どの買い方が一番安いかを選択し、そのわけを書く	3A (2)イ 3A (3)イ						○	48.6	1.0	50.8	0.9	-2.2	0.1
2 (1)	示された式の値が何を表しているのかを書く		5B (3)ア		4D (2)ア		○		50.0	4.0	51.7	3.4	-1.7	0.6
2 (2)	正しく測定できなかった結果を除いて平均を求めるときの正しい式を選ぶ		5B (3)ア		4D (2)ア		○		74.4	1.2	75.6	1.3	-1.2	-0.1
2 (3)	示された実験の結果から、ふりこの長さとして10往復する時間が比例の関係になっていないことを表の数値を基に書く		2B (1)ア 3B (3)ア		5D (1)ア			○	32.3	22.5	35.2	19.0	-2.9	3.5
3 (1)	三人の児童の説明に対応する、長方形を4等分した図をそれぞれ選ぶ		4B (1)イ 5B (1)ア	2C (1)イ 5C (1)イ			○		87.1	0.7	87.3	0.8	-0.2	-0.1
3 (2)	示された分け方が元の長方形を4等分していることの説明として、二つの三角形の面積が等しいことを書く		5B (1)ア					○	38.7	17.8	42.7	15.6	-4.0	2.2
3 (3)	4等分になるための条件の中で、台形では当てはまらないわけを選ぶ		5B (1)ア	4C (1)イ			○		53.4	3.7	56.3	3.6	-2.9	0.1
4 (1)	ワールドカップ後の1試合当たりの観客数がワールドカップ前の1試合当たりの観客数の約何倍になるのかを求める方法と答えを書く	4A (2)ア 4A (3)イ	5B (4)ア					○	41.8	12.0	43.1	11.4	-1.3	0.6
4 (2)	5列10番の座席の位置を基に、2列4番の座席の位置を表す			4C (3)			○		94.2	2.4	94.2	2.6	0.0	-0.2
4 (3)	示された式を基に北チームの勝ち点の合計を求める式を書き、勝ち点の合計と順位を書く				4D (2)アイ		○		45.7	7.7	50.6	7.4	-4.9	0.3
5 (1)	棒グラフと折れ線グラフの両方が示されたグラフの説明に対して、その説明がグラフのどの期間を示しているのか、正しいものを選ぶ				3D (3)ア 4D (4)イ		○		75.8	4.4	76.1	5.1	-0.3	-0.7
5 (2)	帯グラフに示された割合と基準量の変化を読み取り、インターネットの貸出冊数の増減を判断し、そのわけを書く				5D (3) 5D (4)			○	42.2	7.6	44.4	7.8	-2.2	-0.2

児童質問紙

質 問 事 項	宮城県	全国	かい離	
算数B-4-(1)の問題の解答を書きましたか。	84.7	85.5	-0.8	
算数B-4-(1)の問題について解答しなかった理由は何ですか。 (解答しなかった児童のみ)	1 難しくて解答できなかった。	76.3	73.1	3.2
	2 書く分量が多く解答しようと思わなかった。	11.6	10.7	0.9
	3 時間が足りなくなった。	10.8	14.1	-3.3
算数B-4-(1)の問題に解答しようとしたとき、あなたはどのように考えましたか。(難しくて解答できなかった児童のみ)	1 問題文の意味が分からなかった	40.2	38.9	1.3
	2 求める方法が分からなかった	31.2	32.9	-1.7
	3 考えがまとまらなかった。	17.8	16.2	1.6
	4 自信がなかった。	4.3	5.1	-0.8

5 中学校国語A問題

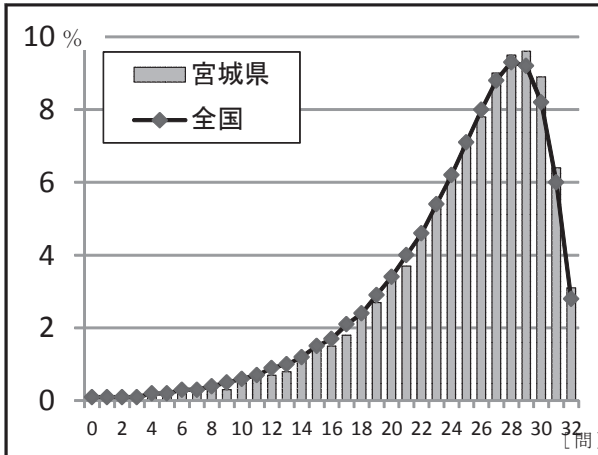
(1) 結果の概要

- 平均正答率は77.6%であり、全国平均を1.2ポイント上回る結果となっている。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての領域において全国平均を上回り、基礎的・基本的な内容に関する知識・技能について、改善が図られている。

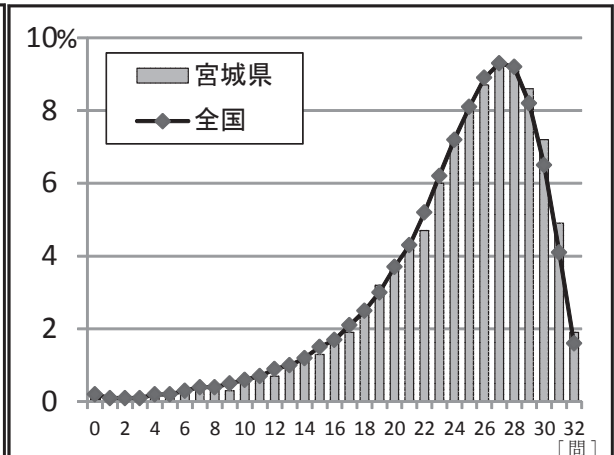
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 27問(80%程度)以上正答した生徒の割合が全国と比べて高く、正答数が21問(65%程度)以下の生徒の割合は全国より低くなっており、全体的に底上げが図られている。

【平成25年度正答数度数分布グラフ】



【平成24年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての領域において全国平均を上回っている。特に、「書くこと」と「読むこと」の領域ではそれぞれ全国平均を1.6ポイント上回っている。

領域	話すこと・聞くこと						書くこと					読むこと					伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項					合計								
	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19
県平均正答率(%)	78.6	89.4	75.6	87.0	80.3	90.3	66.1	89.0	71.6	65.8	55.8	74.1	81.6	66.7	77.9	76.7	71.2	79.9	78.6	74.7	76.8	77.4	75.4	78.2	77.6	76.2	76.2	78.1	73.8	80.8
全国平均正答率(%)	77.6	87.7	74.2	86.8	80.1	90.1	64.5	88.1	71.1	64.6	55.2	73.4	80.0	65.4	76.6	75.7	71.0	80.6	77.5	73.7	75.8	76.0	75.2	80.3	76.4	75.1	75.1	77.0	73.6	81.6
全国との比較	1.0	1.7	1.4	0.2	0.2	0.2	1.6	0.9	0.5	1.2	0.6	0.7	1.6	1.3	1.3	1.0	0.2	-0.7	1.1	1.0	1.0	1.4	0.2	-2.1	1.2	1.1	1.1	1.1	0.2	-0.8

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

話すこと・聞くこと	◇ 話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する問題の平均正答率は91.9%であり、全国平均を1.4ポイント上回っている。[1一]
書くこと	◇ 見出しを変更した理由として適切なものを選択する問題の平均正答率は60.7%であり、全国平均を2.6ポイント上回っている。[3一]
読むこと	◇ 筆者が述べたものとして適切なものを選択する問題の平均正答率は78.7%であり、全国平均を2.7ポイント上回っている。[3一]
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	◇ 文脈に即した適切な語句(友達に将来の「抱負」を話す)を選択する問題の平均正答率は70.4%で、全国平均を7.7ポイント上回っている。[8三イ] ◇ 比喩を用いた表現として「かすみ」や「雲」のように見えたものを詩中から抜き出す問題の平均正答率は56.0%で、全国平均を3.6ポイント上回っている。[8七1] ◆ 歴史的仮名遣い(にほふ)を現代仮名遣いに直す問題の平均正答率は77.7%で、全国平均を5.7ポイント下回っている。[8七2]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			宮城県(公立)		全国(公立)		正答率の かい離	無解答率の かい離
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)		
1一	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものと適切なものを選択する	1オ				○			91.9	0.1	90.5	0.2	1.4	-0.1
1二	話し合いの方向を捉えた司会の発言として適切なものを選択する	1オ				○			55.4	0.1	54.7	0.2	0.7	-0.1
2一	「おかしいようでもあり、又それがおもしろくもおもえる」と筆者が述べたものとして適切なものを選択する			1ウ		○			78.7	0.1	76.0	0.3	2.7	-0.2
2二	「あの枯れ枝の梢を……うれしげであることだろう。」と筆者が感じた理由を説明したものとして適切なものを選択する			2イ		○			88.2	0.3	86.7	0.5	1.5	-0.2
3一	見出しを変更した理由として適切なものを選択する		2エ			○			60.7	0.6	58.1	0.8	2.6	-0.2
3二	出された意見を整理して、決定の理由を適切に書く		2ウ				○		50.9	5.9	48.8	6.0	2.1	-0.1
4一	「内容」の欄に共通する表現の仕方の説明として適切なものを選択する			1エ		○			86.9	0.1	84.8	0.3	2.1	-0.2
4二	前日までに申込みをしなくても中学生が参加できる講座番号を選択する			1カ		○			71.7	0.1	70.1	0.4	1.6	-0.3
5一	米の断面図に入る言葉として適切なものを選択する			1ア		○			88.0	0.2	86.8	0.4	1.2	-0.2
5二	「小妻はそういうわけにはいきません」と述べている理由として適切なものを選択する			1イ		○			76.2	0.3	75.6	0.4	0.6	-0.1
6一	取材の仕方の説明として適切なものを選択する	2ア				○			85.8	0.5	84.6	0.7	1.2	-0.2
6二	カードを使って話す際に使用する言葉の組合せとして適切なものを選択する	2イ				○			81.4	0.6	80.7	0.9	0.7	-0.3
7一	比較の対象が明確に分かるように書く		2エ				○		75.7	3.9	73.6	4.4	2.1	-0.5
7二	内容に応じて第二段落を二つに分ける		1イ			○			77.2	0.9	77.5	1.1	-0.3	-0.2
8一1	漢字を書く(大きなキボウをもつ)				2(1)ウ(1)		○		87.6	3.0	87.5	3.0	0.1	0.0
8一2	漢字を書く(おやつを主トウに分け合う)				2(1)ウ(1)		○		60.7	10.9	59.3	11.9	1.4	-1.0
8一3	漢字を書く(着物に合わせてオビを選ぶ)				2(1)ウ(1)		○		67.1	13.7	66.7	15.2	0.4	-1.5
8二1	漢字を読む(異論を唱える)				2(1)ウ(7)		○		93.8	2.3	93.2	2.7	0.6	-0.4
8二2	漢字を読む(社会を風刺する)				2(1)ウ(7)		○		71.1	4.4	70.6	4.9	0.5	-0.5
8二3	漢字を読む(山々が連なる)				2(1)ウ(7)		○		92.9	1.9	89.4	2.7	3.5	-0.8
8三ア	適切な語句を選択する(今年の夏の暑さには <u>開口</u> した)				2(1)イ(1)	○			49.4	1.6	46.6	1.7	2.8	-0.1
8三イ	適切な語句を選択する(友達に将来の <u>抱負</u> を話す)				1(1)イ(1)	○			70.4	0.5	62.7	0.8	7.7	-0.3
8三ウ	適切な語句を選択する(あこがれの仕事に <u>就く</u>)				2(1)イ(1)	○			97.3	0.4	96.3	0.7	1.0	-0.3
8三エ	適切な語句を選択する(直前になって、二の足を <u>踏む</u>)				1(1)イ(1)	○			85.3	0.6	84.8	0.9	0.5	-0.3
8三オ	適切な語句を選択する(に <u>わか</u> に強い雨が降り出し、人々はあわてた)				1(1)イ(1)	○			82.7	0.6	81.3	0.9	1.4	-0.3
8三カ	適切な語句を選択する(彼には、いくら言っても「 <u>馬の耳</u> に念仏」で効果がない)				1(1)イ(1)	○			90.7	0.8	90.2	1.1	0.5	-0.3
8四	行書を楷書で書く				1(2)イ		○		96.9	1.2	96.4	1.4	0.5	-0.2
8五1	「母がイギリスに帰りました。」という言い方が正しい理由として適切なものを選択する				2(1)イ(7)	○			70.0	0.8	69.8	1.0	0.2	-0.2
8五2	適切な敬語を選択する				2(1)イ(7)	○			92.8	0.7	91.3	1.0	1.5	-0.3
8六	「すさまじい」と修飾・被修飾の関係にあるものを選択する				2(1)イ(1)	○			72.5	1.1	73.4	1.5	-0.9	-0.4
8七1	「かすみ」や「雲」のように見えたものを本文中から抜き出す				1(1)イ(1)		○		56.0	3.4	52.4	3.7	3.6	-0.3
8七2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(にほふ)				1(1)ア(7)		○		77.7	6.9	83.4	5.5	-5.7	1.4

6 中学校国語B問題

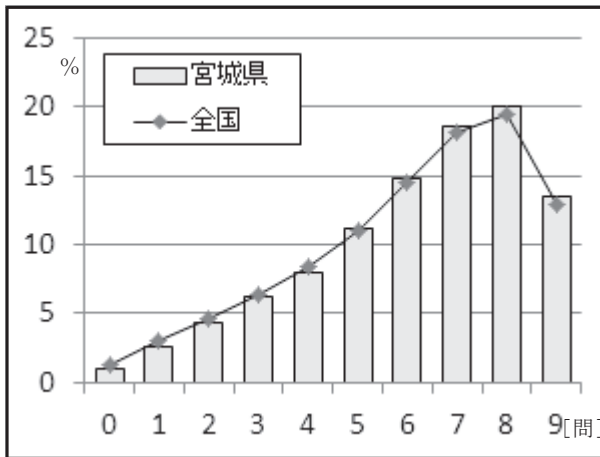
(1) 結果の概要

- 平均正答率が68.6%であり、全国平均を1.2ポイント上回っている。
- 「書くこと」「読むこと」の領域の問題の平均正答率が、全国平均を上回っている。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関連する問題の平均正答率が、全国平均をやや下回っている。
- 全ての設問において、無解答率が全国平均を下回っている。生徒質問紙より、問題B－3－三における無回答の理由は「難しくて解答できなかった」が50.3%であり、その中の37.7%が「漢字の特徴は分かったが、注意点やコツについての考えがまとまらなかった。」と回答している。

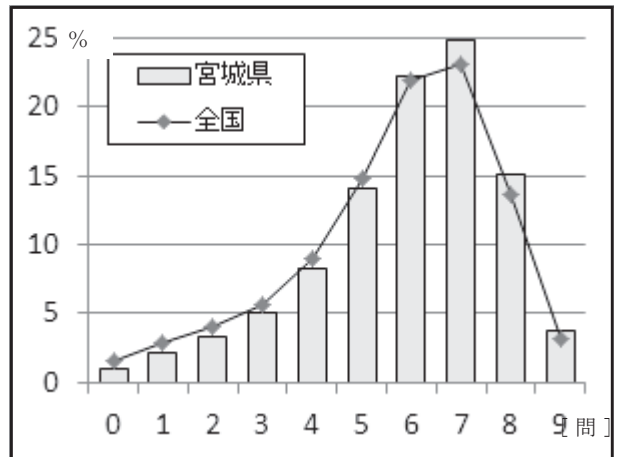
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 5問(60%程度)以上正答した生徒の割合が全国と比べて高く、特に8問(90%程度)以上正答した生徒の割合が高くなっている状況が見られる。

【平成25年度正答数度数分布グラフ】



【平成24年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「読むこと」の領域の問題全てにおいて全国平均を上回っている。
- 「書くこと」の領域の問題の平均正答率は全国平均を1.2ポイント上回っているが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域と関連させた問題においては、全国平均を0.4ポイント下回っている。

[%]

領域	話すこと・聞くこと					書くこと					読むこと					伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項					合計								
	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19					
県平均正答率(%)		61.9	47.5			81.8	63.9	59.1	62.8	75.0	48.1	63.4	69.2	64.0	68.8	76.4	61.8	69.8	64.2			63.1	67.4	68.6	65.5	66.7	76.4	61.8	71.0
全国平均正答率(%)		59.9	45.6			81.3	62.7	57.4	60.2	72.5	46.7	64.4	67.8	61.5	67.5	74.5	60.8	70.6	64.6			60.5	68.5	67.4	63.3	65.3	74.5	60.8	72.0
全国との比較		2.0	1.9			0.5	1.2	1.7	2.6	2.5	1.4	-1.0	1.4	2.5	1.3	1.9	1.0	-0.8	-0.4			2.6	-1.1	1.2	2.2	1.4	1.9	1.0	-1.0

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

話すこと・聞くこと (設問なし)

書くこと

- ◇ 「かるた」について分かったことを基に、さらに調べたいことと調べる方法を具体的に書く問題の平均正答率が59.4%であり、全国平均を1.5ポイント上回っている。[1三]
- ◇ 文章を読んで感じたことや考えたことを具体的に書く問題の平均正答率が68.2%であり、全国平均を2.5ポイント上回っている。[2三]

読むこと

- ◇ 段落相互の関係について説明したものとして適切なものを選択する問題の平均正答率は73.8%であり、全国平均を2.1ポイント上回っている。[1一]
- ◇ 新聞記事の書き方の特徴を説明したものとして適切なものを選択する問題の平均正答率は63.0%であり、全国平均を2.0ポイント上回っている。[3一]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			宮城県(公立)		全国(公立)		正答率の かい離	無解答率の かい離
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な 言語文化と 国語の特質 に関する事項	選択式	短答式	記述式	正答率 (%)	無解答率 (%)	正答率 (%)	無解答率 (%)		
1一	段落相互の関係について説明したものと して適切なものを選択する			1 エ		○		73.8	0.3	71.7	0.4	2.1	-0.1	
1二	図が示す内容を説明したものと して適切なものを選択する			2 イ		○		62.9	0.2	62.7	0.4	0.2	-0.2	
1三	「かるた」について分かったことを基に、 さらに調べたいことと調べる方法を具体的に 書く		1 ア	1 カ			○	59.4	2.3	57.9	2.8	1.5	-0.5	
2一	エヌ氏の生活について説明した言葉を 本文中から抜き出す			1 ウ		○		77.8	2.2	77.5	2.6	0.3	-0.4	
2二	表現の効果を説明したものと して適切なものを選択する			1 エ		○		76.7	0.3	75.6	0.5	1.1	-0.2	
2三	文章を読んで感じたことや考えたことを 具体的に書く		1 ウ	1 オ			○	68.2	9.9	65.7	11.3	2.5	-1.4	
3一	新聞記事の書き方の特徴を説明した ものとして適切なものを選択する			1 エ		○		63.0	0.6	61.0	0.9	2.0	-0.3	
3二	資料がどのような疑問を解決するための 参考になるのかを説明したものと して適切なものを選択する			1 カ		○		71.5	0.9	70.2	1.2	1.3	-0.3	
3三	間違えやすい漢字を学習する際の注意 点やコツを、漢字の特徴を取り上げて 説明する		2 ウ		2(1) ウ(イ)		○	64.2	5.2	64.6	5.4	-0.4	-0.2	

生徒質問紙

質 問 事 項		宮城県	全国	かい離
国語B-3-三の問題の解答を書きましたか。		87.9	87.0	0.9
国語B-3-三の問題について解答しなかつた理由は何ですか。 (解答しなかつた児童のみ)	1 難しくて解答できなかつた。	50.3	52.7	-2.4
	2 文章で書く問題で解答しようと思わ なかつた。	22.0	27.1	-5.1
	3 時間が足りなくなつた。	26.1	18.5	7.6
国語B-3-三の問題に解答しようとしたとき、あなたはどのよ うに考えましたか。(難しくて解答できなかつた児童のみ)	1 問題文の意味が分からなかつた	27.4	33.3	-5.5
	2 二つの漢字の共通点や相違点が分 からなかつた。	25.7	23.1	2.6
	3 漢字の特徴は分かつたが、注意 点やコツについての考えがまとま らなかつた。	37.7	34.1	3.6
	4 考えはまとまつたが、解答に自信 がなかつた。	7.3	6.4	0.9

7 中学校数学A問題

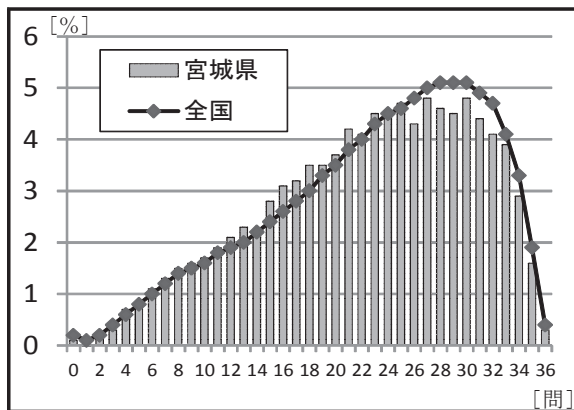
(1) 結果の概要

- 平均正答率は62.2%であり、全国平均を1.5ポイント下回っている。全国平均とのかい離は、平成24年度よりさらに0.2ポイント大きくなり課題がある。
- 「数と式」の領域では、正負の数の計算や二元一次方程式の解の意味の理解、「図形」の領域では、空間における2直線の位置関係や平行四辺形になるための条件の理解、「関数」の領域では、比例の表とグラフの関係の理解、「資料の活用」の領域では、簡単な場合について確率を求めることに、それぞれ課題が見られる。

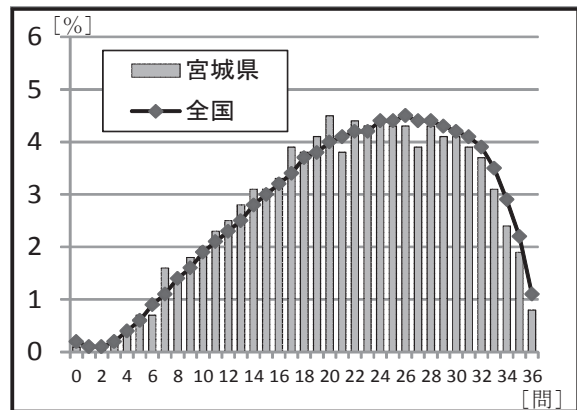
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布状況は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 平成25年度は、25問(70%程度)以上正答した生徒の割合が全国と比べ低い状況となっている。

【平成25年度正答数度数分布グラフ】



【平成24年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 全ての領域で全国平均を下回っている。特に「図形」と「関数」、「資料の活用」の領域では、全国平均とのかい離が大きくなり、課題が見られる。

[%]

領域	数と式						図形					関数		数量関係					合計						
	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19
県平均正答率(%)	71.7	66.1	74.7	66.0	65.4	72.4	63.2	66.2	63.8	64.8	61.6	73.7	57.0	45.1	50.3	54.6	55.7	57.3	64.4	62.2	60.8	64.4	62.1	61.4	70.3
全国平均正答率(%)	72.7	67.5	75.2	67.3	68.0	74.4	64.6	66.7	64.3	64.6	62.7	75.5	58.7	46.8	52.1	54.3	56.2	58.6	65.9	63.7	62.1	64.6	62.7	63.1	71.9
全国との比較	-1.0	-1.4	-0.5	-1.3	-2.6	-2.0	-1.4	-0.5	-0.5	0.2	-1.1	-1.8	-1.7	-1.7	-1.3	0.3	-0.5	-1.3	-1.5	-1.5	-1.3	-0.2	-0.6	-1.7	-1.6

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇ : かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【数と式】

- ◆ 正負の数について()を含む計算をする問題の正答率は85.5%であり、全国平均を2.0ポイント下回っている。[1(2)]
- ◆ 二元一次方程式の解の意味の理解についての問題の正答率は72.7%であり、全国平均を4.8ポイント下回っている。[3(2)]

【図形】

- ◆ 空間における2直線の位置関係の理解についての問題の正答率は51.1%であり、全国平均を5.6ポイント下回っている。[5(1)]
- ◆ 平行四辺形になるための条件の理解についての問題の正答率は41.7%であり、全国平均を6.0ポイント下回っている。[7(3)]

【関数】

- ◆ 比例の表とグラフの関係の理解についての問題の正答率は47.8%であり、全国平均を4.7ポイント下回っている。[10(3)]

【資料の活用】

- ◆ 簡単な場合の確率を求める問題の正答率は46.5%であり、全国平均を7.3ポイント下回っている。[15(2)]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			宮城県(公立)		全国(公立)		正答率の かい離	無解答率の かい離
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)		
1(1)	$5/8 \times 3/4$ を計算する	小6(1)イ					○		82.0	2.4	83.2	2.3	-1.2	0.1
1(2)	$5 \times (4-7)$ を計算する	1(1)ウ					○		85.5	1.1	87.5	1.2	-2.0	-0.1
1(3)	四則計算のうち、整数の範囲で閉じていない計算を選ぶ	1(1)ア					○		76.1	0.3	75.8	0.4	0.3	-0.1
1(4)	東京の時刻を基準にして、東京とカイロの時差を表す	1(1)ア,エ					○		67.3	4.6	64.8	5.3	2.5	-0.7
2(1)	$2(5x+8y)-5(2x+3y)$ を計算する	2(1)ア					○		80.6	2.2	81.7	2.3	-1.1	-0.1
2(2)	縦 a 、横 b の長方形において、 $2(a+b)$ が表す量を選ぶ	1(2)エ					○		65.1	0.2	66.9	0.4	-1.8	-0.2
2(3)	a mの重さが b gの針金の1mの重さを、 a 、 b を用いた式で表す	2(1)イ					○		32.2	18.9	32.3	18.4	-0.1	0.5
2(4)	等式 $2x+3y=8$ を y について解く際に用いられている等式の性質を選ぶ	2(1)ウ					○		73.6	0.5	74.0	0.8	-0.4	-0.3
3(1)	$3x+7=9$ を解く	1(3)ウ					○		72.0	7.0	73.7	6.4	-1.7	0.6
3(2)	$2x+y=6$ の解となる x 、 y の値の組を選ぶ	2(2)ア					○		72.7	1.3	77.5	1.2	-4.8	0.1
3(3)	数量の関係を連立二元一次方程式で表す	2(2)ウ					○		81.4	9.7	82.7	9.2	-1.3	0.5
4(1)	長方形の2倍の拡大図をかく		小6(1)ア				○		88.6	1.4	88.4	1.8	0.2	-0.4
4(2)	角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ	1(1)ア					○		48.5	0.8	48.9	1.0	-0.4	-0.2
4(3)	$\triangle ABC$ を、点 O を回転の中心として時計回りに回転移動して $\triangle DCI$ にぴったり重ねたとき、回転角の大きさを求める	1(1)イ					○		54.8	3.3	56.0	3.5	-1.2	-0.2
5(1)	立体の辺を含む直線について、正しい記述を選ぶ	1(2)ア					○		51.1	0.9	56.7	1.1	-5.6	-0.2
5(2)	与えられた見取図から、その立体の投影図を選ぶ	1(2)イ					○		85.2	0.4	85.0	0.6	0.2	-0.2
5(3)	球と円柱の体積を比較し、正しいものを選ぶ	1(2)ウ					○		48.1	0.6	47.1	0.9	1.0	-0.3
6(1)	平行線の間の三角形について、その内角 x 、 y の和の値を選ぶ	2(1)ア					○		77.2	1.0	78.8	1.0	-1.6	0.0
6(2)	五角形のある頂点における外角の大きさを求める	2(1)イ					○		53.3	6.3	55.4	6.0	-2.1	0.3
7(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を選ぶ	2(2)ア					○		78.4	0.6	78.2	0.7	-0.3	-0.1
7(2)	長方形の対角線の長さが等しいことを、記号を用いて表す	2(2)イ,ウ					○		68.1	14.1	68.5	14.1	-0.4	0.0
7(3)	与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ	2(2)ウ					○		41.7	1.0	47.7	1.1	-6.0	-0.1
8	証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについての正しい記述を選ぶ	2(2)イ,ウ					○		63.6	0.8	64.1	1.0	-0.5	-0.2
9	y が x の関数である事象を選ぶ			1(1)ア			○		14.1	1.3	13.8	1.6	0.3	-0.3
10(1)	座標平面上の点の座標を求める			1(1)ウ			○		76.2	4.2	78.9	4.4	-2.7	-0.2
10(2)	比例定数が3である比例の式を選ぶ			1(1)エ			○		62.9	1.2	64.7	1.3	-1.8	-0.1
10(3)	比例の表からグラフを選ぶ			1(1)エ			○		47.8	1.4	52.5	1.5	-4.7	-0.1
10(4)	反比例 $y=6/x$ のグラフを完成する			1(1)エ			○		67.7	7.9	71.0	6.8	-3.3	1.1
11(1)	一次関数 $y=2x-1$ について、 x の値が3のときの y の値を求める			2(1)イ			○		81.4	8.9	81.9	8.5	-0.5	0.4
11(2)	一次関数の表から変化の割合を求める			2(1)イ			○		39.8	27.1	42.4	23.7	-2.6	3.4
12	一次関数の事象を式で表す			2(1)ア			○		55.5	18.4	54.3	18.4	1.2	0.0
13	二元一次方程式 $y=3$ のグラフを選ぶ			2(1)ウ			○		67.9	1.5	69.0	1.6	-1.1	-0.1
14(1)	生徒35人がハンドボール投げを行い、記録の平均値が21mだったことについて、必ずいえる記述を選ぶ			1(1)ア			○		77.8	1.9	77.4	1.8	0.4	0.1
14(2)	6月の日ごとの最高気温の分布を表したヒストグラムから、ある階級の相対度数を求める			1(1)ア			○		20.5	28.0	22.8	25.1	-2.3	2.9
15(1)	1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ			2(1)ア			○		35.5	2.6	33.1	2.7	2.4	-0.1
15(2)	大小2つのさいころを同時に投げるとき、出る目が両方とも1になる確率を求める			2(1)ア			○		46.5	13.2	53.8	12.9	-7.3	0.3

8 中学校数学B問題

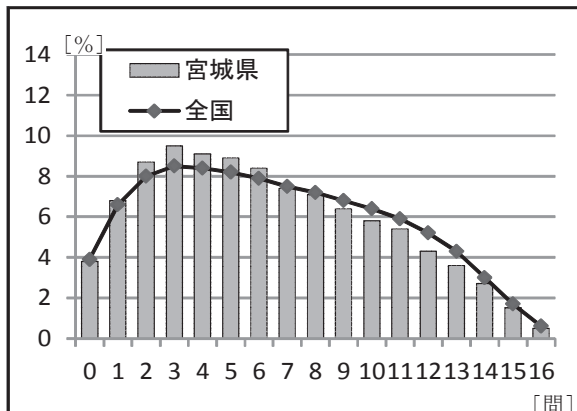
(1) 結果の概要

- 平均正答率は39.7%であり、全国平均を1.8ポイント下回っており、課題が見られる。
- 「数と式」と「関数」の領域で全国平均を下回っている。特に「数と式」の領域では、全国平均を5.6ポイント下回る結果となった。また、事象を多面的に見る問題において、全国平均とのかい離が大きくなり、課題が見られる。無解答率 20 %を超える設問は、全国同様全 16 問中 7 問あった。生徒質問紙より、問題B-4-(1)における無解答の理由では、約 70 %が「難しく解答できなかった」と回答しており、このうちの約 50 %は「問題文の意味が分からなかった」という理由であり、問題文を理解する力に課題が見られる。

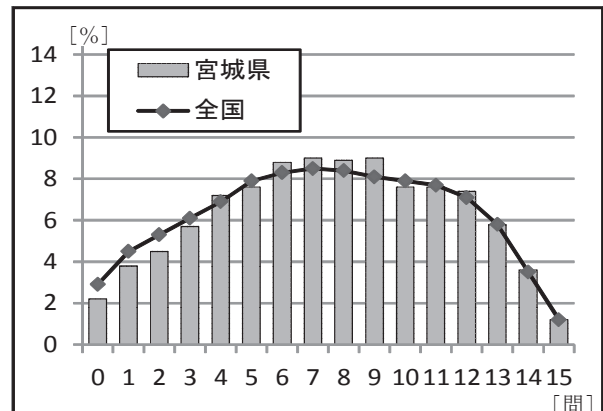
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布状況は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 平成25年度は、正答数が6問(40%)以下の生徒の割合が、全国平均よりやや高くなっている。

【平成25年度正答数度数分布グラフ】



【平成24年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「図形」と「資料の活用」の領域で全国平均を上回っている。「数と式」の領域では、平成24年度は全国平均を0.5ポイント上回っていたのに対し、平成25年度は全国平均を5.6ポイント下回り、課題が見られる。

領域	数と式						図形					関数	資料の活用	数量関係					合計						
	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20			H19	H25	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21
県平均正答率 (%)	36.1	41.4	43.5	61.6	53.8	45.5	45.8	61.8	41.1	58.8	59.2	54.0	39.2	42.7	39.9	46.2	54.7	44.2	67.0	39.7	50.5	44.0	57.7	49.1	59.4
全国平均正答率 (%)	41.7	40.9	43.2	61.4	54.2	48.2	44.8	59.7	40.2	57.5	57.6	53.1	40.0	42.2	39.8	45.5	54.1	44.7	67.9	41.5	49.3	43.3	56.9	49.2	60.6
全国との比数	-5.6	0.5	0.3	0.2	-0.4	-2.7	1.0	2.1	0.9	1.3	1.6	0.9	-0.8	0.5	0.1	0.7	0.6	-0.5	-0.9	-1.8	1.2	0.7	0.8	-0.1	-1.2

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇ : かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【数と式】

- ◆ 事柄が成り立つ理由を、示された方針に基づいて説明する問題の正答率は33.9%であり、全国平均を3.4ポイント下回っている。[2(1)]
- ◆ 問題場面における考察の対象を明確に捉える問題の正答率は43.8%であり、全国平均を8.7ポイント下回っている。[6(1)]
- ◆ 数学的な結果を事象に即して解釈する問題の正答率は48.6%であり、全国平均を8.0ポイント下回っている。[6(2)]
- ◆ 事象と式の対応を的確に捉え、事象が成り立つ理由を説明する問題の正答率は19.1%であり、全国平均を5.0ポイント下回っている。[6(3)]

【図形】

- ◇ 方針に基づき三角形の合同を利用して証明する問題の正答率は34.1%であり、全国平均を1.7ポイント上回っている。[4(1)]

【関数】

- ◆ 言葉で表された式の数学的な意味を考え、事象を式の意味に即して解釈する問題の正答率は29.7%であり、全国平均を2.0ポイント下回っている。[1(2)]

【資料の活用】

- ◇ 事象を数学的に解釈する問題の正答率は33.8%であり、全国平均を1.1ポイント上回っている。[5(3)]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			宮城県(公立)		全国(公立)		正答率の かい離	無解答率の かい離
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)		
1(1)	15歳の優子さんの安静時心拍数が80のときの目標心拍数を求める			2(1) イ,エ				○	51.7	6.8	53.7	7.2	-2.0	-0.6
1(2)	45歳の優子さんのお父さんとお母さんの安静時心拍数の差が10のときの、二人の目標心拍数の差を求める			2(1) イ,エ				○	29.7	23.4	31.7	22.2	-2.0	1.2
1(3)	安静時心拍数が年齢によらず一定であるとするときの目標心拍数の変わり方を選び、その理由を説明する			2(1) イ,エ				○	22.5	4.0	23.7	4.5	-1.2	-0.5
2(1)	2けたの自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れかえた数の差が9の倍数になる説明を完成する	2(1) イ,ウ						○	33.9	25.8	37.3	23.1	-3.4	2.7
2(2)	2けたの自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れかえた数との和について予想した事柄を表現する	2(1) イ,ウ						○	35.1	36.9	38.0	34.9	-2.9	2.0
3(1)	水を熱し始めてから10分間で上がった温度を求める			2(1) イ,エ				○	73.9	3.6	72.4	4.5	1.5	-0.9
3(2)	与えられた表やグラフを用いて、水温が80℃になるまでにかかる時間を求める方法を説明する			2(1) イ,エ				○	31.9	32.6	31.7	34.1	0.2	-1.5
3(3)	水を熱した時間と水温と同じように考えて求められる事象を選ぶ			2(1) イ,エ				○	25.4	1.3	26.9	1.9	-0.5	-0.6
4(1)	2つの辺の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する		2(2) ア,イ					○	34.1	22.3	32.4	23.3	1.7	-1.0
4(2)	2つの辺の長さが等しいことを証明する際に、根拠として用いる平行四辺形になるための条件を選ぶ		2(2) ア,イ					○	57.5	1.5	57.1	2.0	0.4	-0.5
5(1)	横の長さが与えられた長方形が含まれる階級を書く				1(1) イ			○	69.3	12.1	69.0	12.1	0.3	0.0
5(2)	まどめ直したヒストグラムの特徴を基に、学級の生徒が美しいと思う長方形について新たにわかることを説明する				1(1) イ			○	25.1	43.0	24.8	43.1	0.3	-0.1
5(3)	図2のヒストグラムで最も度数の大きい階級に含まれることになるものを選ぶ				1(1) イ			○	33.8	1.8	32.7	2.2	1.1	-0.4
6(1)	1辺に5個ずつ碁石を並べて正三角形の形をつくったときの、碁石全部の個数を求める	1(2) ア						○	43.8	6.7	52.5	7.0	-8.7	-0.3
6(2)	碁石全部の個数を求める式 $3(n-1)$ に対応する囲み方を選ぶ	1(2) ア						○	48.6	1.8	56.6	2.1	-8.0	-0.3
6(3)	碁石全部の個数を、 $3(n-2)+3$ という式で求めることができる理由を説明する	1(2) ア						○	19.1	47.9	24.1	43.2	-5.0	4.7

生徒質問紙

質 問 事 項	宮城県	全国	かい離	
数学B-4-(1)の問題の解答を書きましたか。	75.4	74.3	1.1	
数学B-4-(1)の問題について解答しなかった理由は何ですか。(解答しなかった生徒のみ)	1 難しくて解答できなかった。	70.5	66.3	4.2
	2 書く分量が多く解答しようと思わなかった。	19.9	25.2	-5.3
	3 時間が足りなくなった。	8.6	7.3	1.3
数学B-4-(1)の問題に解答しようとしたとき、あなたはどのように考えましたか。(難しくて解答できなかった生徒のみ)	1 問題文の意味が分からなかった。	50.4	50.6	-0.2
	2 どの条件を使えばよいか分からなかった。	27.1	25.9	1.2
	3 考えがまとまらなかった。	15.3	16.0	-0.7
	4 自信がなかった。	4.5	4.6	-0.1

Ⅲ 類似問題の経年比較（H22 小と H25 中の類似問題の比較）

（1）中学校国語

A ③ 二 文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書く

平成22年度小学校調査での正答率は57.7%であったが、今年度調査では50.9%であった。

平成22年度では、全国平均とのかい離が-2.6ポイントであったのに対して、平成25年度では+2.1ポイントとなり全国平均を上回り、改善傾向が見られた。しかし、正答率が5割程度という状況であり、さらなる改善が必要である。

報告する文章を書く際には、伝えたい内容を明確にし、それに必要な事柄を文章の展開に即して適切に盛り込むよう留意して書くことが大切である。

社会生活の中でも話合いの経過や結論を簡潔に分かりやすく報告することは多い。さらなる改善を図るために、行事や職場訪問などの体験について、目的や読み手を意識して報告する文章を書いたり、報告する内容とその伝え方を考えて書いたりする言語活動を設定して、指導事項を指導することが重要である。

<p style="text-align: center;">H22 小国 A ④</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>④ 児童会の代表委員の石橋さんたちは、運動会について伝えたいことを、昨年の反省をもとに「メモ」に取ったあと、児童会だよりに書きました。「児童会だよりの一部」の②</p> <p>【メモ】</p> <p>（運動会について伝えたいこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 運動会の前には体調をくずした人がいた。 ◆ 開会式の集合時にくにおくれた人がいた。 <p>健康に気をつける。</p> <p>早くに行動する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【児童会だよりの一部】</p> <p>児童会だより</p> <p>第2号 四月二十七日発行</p> <p>もうすぐ運動会！</p> <p>全校のみなさんが楽しみにしている運動会が近づいてきました。昨年の反省を生かして、次のことに注意しましょう。</p> <p>① 運動会の前には体調をくずさないように、健康に気をつけること。</p> <p>② 早くに行動すること。</p> <p>ア</p> </div>	<p style="text-align: center;">H25 中国 A ③ 二</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>③ 図書委員会では、読書を推進するためのキャラクターを募集し、選考を行いました。次は、「選考会で出された意見」と、それをもとに図書委員の中山さんが書いた図書だよりの「記事の下書き」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。</p> <p>【選考会で出された意見】</p> <p>キャラクター候補 「本だなん」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本棚をもとにしたキャラクターなので、本の印象が強くてよい。 ○ 楽しそうな雰囲気が出ていてよい。 ○ 楽しそうな雰囲気ですが、読書を勧めている感じがしない。 <p>キャラクター候補 「読むゾウくん」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ キャラクター名の言葉の響きが読書を勧めている感じがしてよい。 ○ 耳やしっぽのデザインが面白くてよい。 ○ デザインは面白いが、身近にいる動物の方がよい。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【記事の下書き】</p> <p>キャラクター「読むゾウくん」に決定</p> <p>読書を推進するためのキャラクターが、「読むゾウくん」に決まりました。</p> <p>選考会では「本だなん」との決戦になりました。</p> <p>「本だなん」については、本の印象が強いし、楽しそうな雰囲気が出ていてよいという意見が出ましたが、読書を勧めている感じがしないという指摘がありました。</p> <p>「読むゾウくん」については、デザインが面白いし、キャラクター名の言葉の響きが読書を勧めている感じがしてよいという意見が支持されました。</p> <p>これらの意見から、読書を推進していくには「読むゾウくん」がふさわしいことになりました。</p> </div>
<p>(全国) 60.3%</p> <p>(県) 57.7%</p>	<p>(全国) 48.8%</p> <p>(県) 50.9%</p>

A 4二 目的に応じて必要な情報を読み取る

平成22年度小学校調査での正答率は64.9%であったが、今年度調査では71.7%であった。

平成22年度では全国平均とのかい離が-0.6ポイントであったのに対して、平成25年度では+1.6ポイントとなり全国平均を上回り、改善傾向が見られた。

目的に応じて必要な情報を読み取るためには、見出しや項目の順序性などに着目して、どこを読めばよいか見当を付けること、複数の資料を比較しながら読むこと、情報を関連付けて読むことなど、資料の特性を生かした読み方をする必要がある。例えば、社会生活において、生徒が実際に目的をもって読むことの多い実用的な資料を教材として用いることが有効である。

目的に応じて必要な情報を読み取ることについては、正答率も71.7%に至っていることから、改善が進んでいると考えている。


H 2 2 小国 B 4

(問い) 中島さんは、どの目覚まし時計を選べばよいでしょうか。A・B・Cの中から一つを選んで、その記号を書き出しの文の□の中に書きましよう。そして、その目覚まし時計を選ぶ理由を、【資料】の情報と【決めたこと】の内容のどちらにもふれながら、書き出しの文に続けて、六十文字以上、八十文字以内にまとめて書きましよう。

【資料】

インターネットを使って集めた目覚まし時計の情報

A 価格：3150円




- 設定した時刻になると、「おはよう」という声を出す。
- 時刻を示す針が、暗いところで光る。

B 価格：5250円



- 5種類の音楽の中から目覚まし音を選べる。
- 時刻を示す数字の横に、「午前」、「午後」という表示がある。

C 価格：4200円



- 好きな音楽を目覚まし音にすることができる。
- ボタンをおすと、時刻の表示が日付の表示に切りかわる。

【決めたこと】

- ◇ 5000円より安いもの。
- ◇ 音楽で目覚めることができるもの。

4

中島さんは、目覚まし時計を買うために、インターネットを使って情報を集めました。そして、どんな目覚まし時計を選ぶかということについて、家族に相談して決めました。【資料】と【決めたこと】を読んで、あとの問いに答えましよう。

(全国) 65.5%

(県) 64.9%

A 4二 目的に応じて必要な情報を読み取る

H 2 5 中国 A 4二

4

次は、市民センターの「催し物案内」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【催し物案内】

催し物案内（6月）				
講座番号・講座名	日時	内容	対象	申し込み
① ペーパークラフト	6/8（土） 10時～12時	クジラやペンギンなど海の仲間を紙で作ります。子どもに人気の催し物です。親子でも楽しめます。	小学生・中学生 ※ 保護者の参加も可	5/20（月）まで
② 夏の星座を知ろう	6/9（日） 第1回 10時～11時 第2回 14時～15時	プラネタリウムで夏の星座について学びます。七夕の伝説についても詳しく説明します。	どなたでも	不要
③ 料理教室	6/15（土） 13時～16時	冷たいスイーツ作りに挑戦します。材料代200円が必要です。エプロンをご用意ください。	小学生以上 ※ 4年生以下は保護者同伴	6/3（月）まで
④ 和太鼓教室	6/22（土） 10時～12時	地域に伝わる和太鼓の歴史と演奏の仕方を学びます。保存会の方に指導していただきます。	小学5年生～高校生	当日受付
⑤ ジャズダンス	6/29（土） 10時～12時	ジャズダンスの基礎的なステップを学びます。運動ができる服装で参加してください。	高校生以上	当日受付

【申し込み先】
市民センター
☎ 000-123-****

- 一 「内容」の欄に共通する表現の仕方の説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 どのようなことをするのかを簡潔な表現で紹介している。
 - 2 簡条書きを用いて申し込みの方法や期日を提示している。
 - 3 読者に問いかけるような形で参加を呼びかけている。
 - 4 参加者の感想を交えながら講座の魅力を伝えている。
- 二 前日までに申し込みをしなくても中学生が参加できる講座を、講座番号①から⑤までの中から全て選びなさい。

(全国) 70. 1%
(県) 71. 7%

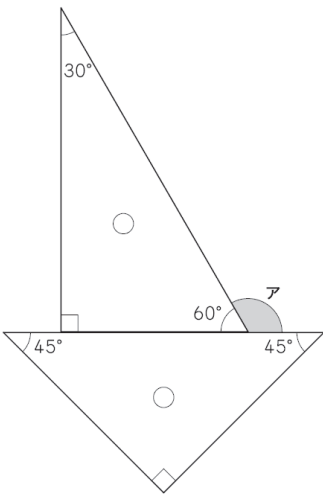
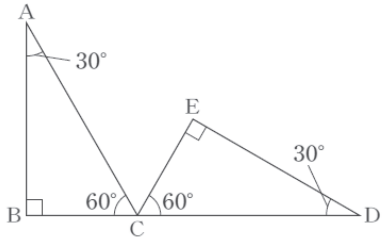
(2) 中学校数学

A **2** (3) a mの重さが b g の針金の 1 mの重さを, a , b を用いた式で表す。

<p>H 2 2 小学校 算数 A 2 (1)</p> <p>8 mの重さが 4 kg の棒があります。この棒の 1 mの重さは何 kg ですか。求める式と答えを書きましょう。</p>	<p>H 2 5 中学校 数学 A 2 (3)</p> <p>a mの重さが b g の針金があります。この針金の 1 mの重さは何 g ですか。 a, b を用いた式で表しなさい。</p>
<p>(全国) 5 3. 8 % (県) 5 1. 7 %</p>	<p>(全国) 3 2. 3 % (県) 3 2. 2 %</p>

平成 2 2 年度小学校調査で課題が見られた「長さと言重さの分かっている棒 1 mの重さを求める問題」を, 平成 2 5 年度中学校調査では, 「長さと言重さの分かっている針金 1 mの重さを求める問題 (文字を使った式)」として出題している。無回答率 18.9%, 解答として $a b$ を選択した生徒が 14.3%であった。除法の意味理解や, 針金の重さが長さに比例する関係と捉え正しく比例式を作ることに課題が見られる。

A **4** (3) $\triangle ABC$ を, 点 C を回転の中心として時計回りに回転移動して $\triangle DEC$ にぴったり重ねたとき, 回転角の大きさを求める

<p>H 2 2 小学校 算数 A 5 (1)</p> <p>(1) 1 組の三角定規を下の図のように置くと, 角 Aの大きさは何度ですか。答えを書きましょう</p> 	<p>H 2 5 中学校 数学 A 4 (3)</p> <p>(3) 下の図のように, 3つの内角が 30°, 90°, 60°の $\triangle ABC$とそれに合同な $\triangle DEC$があり, 点 B, C, Dは一直線上にあります。</p>  <p>$\triangle ABC$を, 点 Cを中心として時計回りに回転移動して, $\triangle DEC$にぴったり重ねるには, 何度回転移動すればよいですか。その角度を求めなさい。</p>
<p>(全国) 8 2. 6 % (県) 8 2. 7 %</p>	<p>(全国) 5 6. 0 % (県) 5 4. 8 %</p>

平成 2 2 年度小学校調査では, 三角定規が示された場面で, 60° の補角の大きさを求める問題の正答率は 82.7%であった。

平成 2 5 年度中学校調査では, 回転の角が 180° を選択した解答が 12.3%, 90° を選択した解答が 8.8%であった。回転移動では, 対応する点は回転の中心から等しい距離にあり, 対応する点と回転の中心を結んでできる角の大きさが等しいことの意味理解に課題を残している。

A 7 (3) 与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ。

H 2 2 小学校 算数 A 7

下の方眼紙に平行四辺形をかいています。
 もう一つの頂点はどこになりますか。
 1 から 6 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

(全国) 76.1%
 (県) 76.8%

H 2 5 中学校 数学 A 7 (3)

(3) 下の図のように、点A, B, Cがあり、点Aと点B, 点Bと点Cを結びます。

下の①, ②, ③の手順で点Dをとり、平行四辺形ABCDをかきます。

① 点Aを中心として、BCを半径とする円をかく。

② 点Cを中心として、ABを半径とする円をかく。

③ 交点をDとし、点Aと点D, 点Cと点Dを結ぶ。

前ページの①, ②, ③の手順では、どのようなことがらを根拠にして平行四辺形ABCDをかいていますか。下のAからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア 2組の向かい合う辺がそれぞれ平行な四角形は、平行四辺形である。

イ 2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。

ウ 2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。

エ 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しい四角形は、平行四辺形である。

オ 対角線がそれぞれの中点で交わる四角形は、平行四辺形である。

(全国) 47.7%
 (県) 41.7%

平成22年度小学校調査では、方眼紙上で、3点が与えられた平行四辺形の残りの点の位置を選ぶ問題の正答率は76.8%であった。

平成25年度中学校調査では、3点が与えられた平行四辺形の残りの点の位置をコンパスを用いて求めたとき、作図の根拠として正しいものを選ぶ問題の正答率は41.7%であった。これは、コンパスが等しい長さを移すことや、平行四辺形になるための条件についての理解に課題があると考えられる。

IV 児童生徒質問紙調査結果

※表の下段は全国との比較

1 結果の概要

- 小・中学生ともに、はやね・はやおき・あさごはんや規則正しく生活することなど、基本的生活習慣に関する質問に対して、全国と比べて肯定的な回答をしている項目が多い。
- 長時間テレビやビデオ・DVDを見る割合は、小・中学生ともに昨年度より減少したが、小学生は全国値よりも高い。また、長時間テレビゲームをする割合は、小・中学生ともに昨年度より増加し、小学生においては全国値よりも高い。
- 家で授業の予習、復習をしている割合は、小・中学生ともに昨年度より増加し、全国値を上回っているが、平日に2時間以上勉強している中学生の割合は、全国値を下回っている。
- 小学生において、国語、算数の授業の内容がよく分かると答えた割合は、昨年度より減少し、全国値を下回っている。中学生においては、国語が微減、数学が増加し、全国値と同等または上回る結果であった。

2 質問事項別の状況

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

- 小学生において、国語、算数の授業の内容がよく分かると答えた割合は、昨年度より減少し、全国値を下回っている。また、中学生においては、国語は昨年度をわずかに下回ったが、調査開始時より徐々に増加している。数学は特に、昨年度に比べて明らかに増加した。
- 国語の授業で、自分の考えをその理由が分かるように気を付けて書いたり、文章のまとめごとにより内容を理解しながら読んだりする児童生徒の割合は、中学生で全国値を上回っている。
- 小・中学生ともに、言葉や式でわけや求め方を書く問題に対して、最後まで書く努力をした児童生徒の割合は、全国値を下回っている。

	質問事項	小学校 (%)						中学校 (%)					
		H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	国語の授業の内容はよく分かりますか	78.4	83.7	82.3	80.1	77.6	78.7	74.3	74.7	71.5	70.1	69.6	67.5
		-1.5	+0.6	+0.0	+0.1	-0.4	+0.7	+2.4	+3.5	+1.6	+1.3	+2.8	+2.1
2	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	78.6	79.5	78.0	80.2	79.2	77.9	70.5	64.1	64.8	62.4	64.5	61.5
		-1.6	+0.4	+0.8	+1.0	+0.8	+0.8	+0.0	-0.8	-0.9	-2.5	-1.0	-2.1
4	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。	68.9	72.0	72.8	66.7	67.2		66.5	63.3	62.1	58.6	61.4	
		+0.0	+0.7	+3.6	+0.5	+0.1		+6.1	+3.9	+4.4	+3.5	+5.9	
5	国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとにより内容を理解しながら読んでいますか	72.4	74.9	74.9	70.6	71.7		67.7	68.5	66.7	63.3	65.6	
		-0.9	-0.2	+1.5	-0.2	-0.2		+3.2	+2.9	+3.0	+2.6	+4.1	
6	算数・数学の問題の解き方が分からないときはあきらめずにいろいろな方法を考えますか。	75.4	78.1	77.4	77.6	76.2	75.0	68.2	65.7	68.7	64.9	64.7	63.6
		-2.0	-1.0	+0.1	+0.8	+0.2	+0.3	+0.9	-0.3	+1.6	+0.1	+1.1	+0.6
7	言葉や式を使ってわけや求め方を書く問題についてどのように解答しましたか（最後まで書く努力をした）	72.9	70.8	60.5	66.4	65.9		42.9	45.8	45.6	48.4	42.2	
		-1.5	-1.6	-1.5	-1.6	-1.1		-2.0	-0.1	+0.1	+0.4	-0.5	

(2) 基本的な生活習慣、家庭でのコミュニケーション

- 小・中学生ともに、はやね・はやおき・あさごはんの習慣は、おおむね全国値を上回る水準である。また、午前6時30分より前に起きる児童生徒の割合が増加してきている。
- 地域の行事に参加している小学生の割合は、全国値を大きく上回っている。中学生は全国値をわずかに下回っている。

	質問事項	小学校 (%)						中学校 (%)					
		H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	普段(月～金曜日)、何時ごろに寝ますか (小：午後10時前 中：午後11時前)	53.1	53.5	49.6	51.1	48.4	49.4	37.4	37.3	35.5	34.3	32.4	33.8
		+6.0	+7.5	+5.8	+7.8	+7.0	+7.3	+3.5	+3.4	+3.1	+2.5	+3.0	+4.0
2	普段(月～金曜日)、何時ごろに起きますか (午前6時30分より前)	46.2	43.3	39.8	39.8	38.0	37.9	38.0	35.2	30.6	29.9	29.2	29.2
		+4.7	+4.4	+3.0	+3.5	+2.5	+3.5	-1.7	-2.3	-3.7	-3.4	-3.5	-2.5
3	朝食を毎日食べていますか	96.7	96.6	97.4	96.6	96.3	96.2	94.7	94.4	94.5	94.0	93.6	93.3
		+0.4	+0.5	+1.0	+0.6	+0.9	+1.0	+0.9	+0.8	+1.2	+1.6	+1.7	+1.7
4	家の人と学校での出来事について話をしていますか	77.8	77.6	77.0	71.0	70.9	70.0	67.6	66.7	65.1	61.1	60.0	60.0
		+1.3	+1.7	+2.8	+0.1	+1.7	+1.6	+1.0	+1.0	+1.4	+1.3	+2.1	+2.2
5	家の手伝いをしていますか	83.3	84.0	83.8	82.0	81.0	81.1	69.3	71.1	69.7	68.3	65.9	67.9
		+2.8	+3.3	+3.6	+3.5	+3.5	+2.7	+4.8	+5.1	+4.9	+5.3	+5.3	+4.6
6	今住んでいる地域の行事に参加していますか	73.1	73.2	74.4	73.0	71.6	72.6	41.3	37.9	39.5	40.9	39.8	39.7
		+9.2	+10.0	+12.8	+10.6	+11.7	+10.6	-0.3	+0.2	+5.2	+3.1	+2.8	+2.2

(3) 学習時間等

- 家で授業の予習、復習をしている割合は、小・中学生ともに昨年度よりも増加し、全国値を上回っている。平日に家で1時間以上勉強する小学生の割合、2時間以上勉強する中学生の割合は、年々増加傾向にある。小学生は全国値を上回っているが、中学生は下回っている。
- 3時間以上テレビを見る児童生徒の割合が減ってきた一方、3時間以上インターネットを使ったり、よくメールをしたりする児童生徒が増加してきた。

	質問事項	小学校 (%)					中学校 (%)							
		H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19	
1	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	61.3 +2.4	61.1 +3.1	64.7 +6.4	55.5 +0.8	51.5 -0.5		48.5 +4.0	45.6 +2.7	44.3 +2.5	40.1 +2.2	35.8 +1.6		
2	家で学校の授業の予習をしていますか	47.6 +6.3	45.6 +5.1	48.6 +8.2	42.6 +5.1	39.1 +3.7	36.6 +3.7	48.3 +14.8	39.3 +10.0	43.9 +13.0	42.1 +12.6	41.0 +12.6	39.3 +9.8	
3	家で学校の授業の復習をしていますか	61.9 +10.5	59.9 +9.7	61.2 +11.6	54.9 +8.9	50.8 +7.4	45.8 +5.7	60.8 +12.2	56.8 +11.3	54.4 +10.9	49.7 +9.2	48.4 +8.8	45.8 +6.6	
4	普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか	30分以上	90.1 +2.4	89.1 +3.5	88.7 +3.9	86.1 +2.5	83.5 +1.1	83.5 -0.4	85.4 +0.2	84.7 +1.4	83.1 +0.0	81.7 -0.2	81.4 -0.7	78.6 -2.6
		1時間以上	64.8 +1.6	61.2 +1.7	61.5 +3.3	56.9 -0.3	52.9 -3.2	53.8 -4.1	66.4 -2.2	65.8 -0.6	63.7 -2.5	62.2 -3.1	63.1 -2.3	59.9 -5.1
		2時間以上	22.0 -5.1	21.3 -4.3	20.8 -4.9	19.7 -6.0	18.8 -6.7	18.3 -7.2	30.7 -5.8	30.0 -5.3	28.5 -7.2	29.1 -6.6	29.8 -5.9	27.4 -8.0
		3時間以上	7.0 -4.5	7.0 -4.1	6.8 -4.6	17.9 -4.9	16.3 -6.4	15.4 -7.6	7.1 -3.4	6.6 -3.3	6.3 -3.9	13.5 -1.9	13.6 -1.5	11.8 -3.1
5	普段1日にどれくらいの時間テレビやビデオ・DVDを見ますか(3時間以上)	41.9 +3.3	47.8 +5.1	47.2 +3.9	51.1 +5.4	51.7 +5.6	38.0 +3.7	29.7 +0.0	33.3 +0.8	38.1 +1.6	40.4 +2.4	43.0 +3.4	35.9 +2.8	
6	普段1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか(3時間以上)	16.1 +1.2	13.7 +1.1	12.6 +1.3	13.0 +1.4	14.0 +2.1	9.8 +0.9	14.3 0.0	10.5 -0.9	10.2 -0.6	10.5 +0.1	10.4 -0.1	10.5 -0.2	
7	普段1日にどれくらいの時間インターネットをしますか(3時間以上)	5.9 +0.1	4.7 -0.7	3.8 +0.3	3.4 +0.0	3.3 +0.0	9.8 +0.9	16.6 -0.7	12.3 -0.6	8.9 -0.1	8.1 -0.5	7.6 -0.3	10.5 -0.2	
8	携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしていますか(毎日、時々)	29.4 -3.4	26.8 -1.4	20.7 -2.4	20.5 -3.2	21.0 -4.3	17.5 -4.8	61.4 -0.1	56.8 +0.5	49.7 -3.1	50.9 -3.7	55.4 -1.7	53.1 -1.9	

(4) 自尊意識・規範意識

- 小・中学生ともに「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」と答えた割合は全国値を下回っており、昨年度よりも低くなっている。
- 「きまりを守っているか」「いじめは絶対にいけないと思うか」という規範意識に関する質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学生ともに全国値をわずかに下回っている。

	質問事項	小学校 (%)					中学校 (%)						
		H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	自分には、よいところがあると思う	72.2 -3.5	76.4 -0.4	73.6 -0.8	72.9 -1.7	71.4 -2.0	68.6 -2.9	65.6 -0.8	67.7 -0.5	63.8 +0.7	61.6 +0.4	61.8 +1.0	59.8 -0.7
2	ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがありますか	93.4 -0.9	94.8 +0.3	94.5 +0.4	93.8 +0.0	93.2 -0.3	93.2 +0.1	93.7 +0.0	93.4 +0.2	93.6 +0.9	92.9 +1.0	92.9 +1.0	92.4 +0.4
3	将来の夢や目標を持っていますか	86.4 -1.3	86.5 -0.2	86.5 -0.3	85.6 -0.7	84.0 -0.7	83.6 -0.1	73.7 +0.2	73.8 +0.6	72.6 +0.9	71.3 +0.3	72.0 +1.3	72.2 +1.5
4	学校のきまり(規則)を守っていますか	89.6 -1.0	91.2 -0.1	89.4 +0.2	87.6 -0.9	85.7 -0.6	85.2 -1.0	92.2 -0.3	91.2 -1.1	90.5 +0.4	89.3 +0.7	88.0 +0.6	86.0 +0.3
5	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	95.0 -0.9	95.3 -0.1	94.3 -0.7	95.1 +0.2	95.0 +0.3	94.7 +0.0	92.8 -0.7	92.9 -0.1	90.8 -0.3	90.7 +0.4	89.8 +0.3	87.8 -0.1
6	人の役に立つ人間になりたいと思う	91.7 -1.9	94.7 +0.0	92.5 -0.9	91.8 -0.7	92.0 -0.4	91.4 -0.5	92.6 -0.7	93.7 -0.2	91.5 -0.6	90.4 +0.0	90.6 +0.1	89.4 -0.2

V 学校質問紙調査結果

※ 表の下段は全国との比較

1 結果の概要

- 問題冊子等や独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導や学校全体での教育活動の改善のために活用している学校の割合は、小・中学校ともに全国値より高い。
- 国語の指導として、書く習慣を付ける指導に取り組んでいる学校の割合は、小学校では昨年度より減少しており、全国値と比較しても低い。中学校では昨年度より増加しており、全国値と比較しても高い。
- 国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける指導に取り組んでいる学校の割合は、小学校・中学校ともに昨年度より減少しており、中学校では全国値より低い。
- 算数・数学の指導において、補充的な指導に取り組んでいる学校の割合は、小学校では昨年度より減少しており、中学校では増加しているが、小・中学校ともに全国値より高い。
- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている学校の割合は、小・中学校ともに全国値より高い。
- テーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている学校の割合は、小・中学校ともに全国値より低い。

2 質問事項別の状況

(1) 学力・学習状況調査の活用

- 問題冊子等や独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導や学校全体での教育活動の改善のために活用している学校の割合は、小・中学校ともに全国値より高い。

	質問事項	小学校 (%)					中学校 (%)						
		H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	問題冊子等や独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導の改善を行ったか。	96.1	87.2	100.0	93.0	89.0		92.4	76.6	94.2	93.2	94.1	
		+4.0	+1.7	+0.1	+1.3	-5.8		+3.7	-3.2	+3.1	+3.2	+8.1	
2	問題冊子等や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用したか。	92.8	82.0	100.0	97.3	94.8		90.9	73.0	89.1	89.1	89.1	
		+4.1	+0.8	+0.1	+4.4	+4.0		+6.0	-1.1	+7.6	+10.4	+17.7	

(2) 指導方法・学習規律

- 国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行った学校の割合は、小学校で減少し、全国値より低く、中学校で増加し全国値より高い。
- 国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った学校の割合は、小学校で全国値より高く、中学校で減少し全国値より低い。
- 算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った学校の割合は、小学校で全国値より高く、中学校で低い。
- 児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行っている小・中学校の割合は全国値より高い。
- 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている学校の割合は、小学校で減少し全国値より低く、中学校で減少はしているが全国値より高い。
- 児童生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行っている学校の割合は、小・中学校ともに全国値より高い。

	質問事項	小学校 (%)					中学校 (%)						
		H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行ったか。	89.1	94.0	91.6	88.3	90.1	82.2	96.0	94.9	94.2	95.0	89.5	85.8
		-0.8	+4.2	+2.2	-0.8	+2.7	-1.2	+3.8	+3.3	+3.1	+4.1	-0.3	-1.9
2	国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったか。	86.0	89.5	85.4	85.5	87.4	82.6	78.3	84.6	84.9	85.9	81.4	84.4
		+2.3	+6.6	+2.4	+2.2	+4.5	+2.3	-5.9	+0.7	+0.2	+3.2	-1.7	+2.3
3	算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行ったか。	65.0	61.8	61.7	66.0	63.5	62.4	55.1	54.1	50.1	52.3	53.7	46.2
		+2.0	-1.3	-0.9	+4.1	+2.7	+2.3	-2.1	-1.4	-1.5	+2.4	+3.9	-2.3
4	児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたか。	96.0	94.8	95.8	94.6	97.5		94.4	95.4	95.9	92.3	91.3	
		+1.0	-0.1	+1.4	-0.2	+3.3		+2.6	+4.3	+5.7	+2.7	+2.5	
5	児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めたか。	96.6	98.6	99.3	96.4	97.1		95.0	96.3	100.0	95.9	95.5	
		-0.7	+1.6	+2.1	-1.0	+0.2		+1.7	+2.5	+7.7	+3.4	+4.9	
6	児童生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか。	78.6	77.6	72.3	68.1	62.1		99.0	97.3	94.1	96.8	95.9	
		+7.1	+6.3	+1.3	-1.4	-4.1		+4.5	+2.0	-2.1	+0.9	+0.0	

(3) 個に応じた指導

- 算数・数学の指導において、前年度までに、補充的な指導を行っている小・中学校の割合は、小学校で減少しているが全国値より高く、中学校で増加し全国値より高い。
- 算数・数学の指導において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行っている小・中学校の割合は、全国値より低い。
- 算数・数学の指導において、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行っている小・中学校の割合は、全国値より低い。

	質問事項	小学校 (%)					中学校 (%)						
		H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	算数・数学の指導において、前年度までに、補充的な指導をしたか。	87.4	91.9	89.6	88.5	93.1		88.9	87.3	89.0	88.2	91.8	
		+0.1	+3.6	+1.8	+1.8	+3.1		+2.9	+0.3	+2.4	+2.1	+3.0	
2	算数・数学の指導において、習熟の遅いグループに対して第1学年のときに少人数による指導をしたか。	36.2	33.7	36.0	37.4	33.6		23.7	28.1	42.4	37.3	42.7	
		-4.9	-7.4	-3.4	-2.3	-6.9		-1.0	-1.9	+8.7	+3.4	+6.0	
3	算数・数学の指導において、習熟の早いグループに対して第1学年のときに発展的な内容について少人数による指導をしたか。	30.8	29.0	29.0	26.9	27.5		19.7	24.6	38.0	32.7	39.6	
		-2.6	-4.2	-2.5	-5.3	-6.2		-1.8	-0.8	+8.7	+3.1	+7.1	

(4) 学習環境づくりに向けた取組

- 放課後を利用した補足的な学習サポートを実施している学校の割合は、小・中学校ともに増加し、全国値より高い。
- 長期休業期間を利用した補足的な学習サポートを実施している学校の割合は、小・中学校ともに全国値より低い。
- 「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けている学校の割合は、小学校で減少し全国値より低く、中学校で増加し全国値より高い。
- 学校図書館を活用した授業を計画的に行っている学校の割合は、小学校で全国値より高く、中学校で全国値より低い。

	質問事項	小学校 (%)						中学校 (%)					
		H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	放課後を利用した補足的な学習サポートを実施したか。	74.0 +12.3	70.2 +8.4	78.5 +16.5	76.8 +15.9	58.6 +16.7	61.0 +20.1	88.9 +2.9	85.2 -1.5	84.0 -1.5	86.1 +3.0	63.6 +6.4	61.8 +6.4
2	長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施したか。	61.8 -3.2	53.3 -10.1	53.5 -5.1	46.6 -10.4	43.0 -7.0	41.2 -6.6	74.7 -9.4	74.5 -9.6	73.7 -6.7	68.6 -11.6	70.0 -7.0	68.9 -6.1
3	「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けたか。	97.6 -0.6	98.7 +0.6	99.3 +1.3	98.7 +0.8	95.0 +1.8	93.2 +1.2	94.9 +2.2	94.1 +1.2	94.1 +2.1	93.2 +1.8	89.5 +3.1	88.9 +4.3
4	学校図書館を活用した授業を計画的に行ったか。	79.1 +0.5	75.4 -1.8	77.8 -1.0	72.6 -5.2	63.5 -3.8	56.4 -3.5	30.8 -10.8	30.7 -13.2	41.6 -4.8	41.3 -6.3	28.6 -11.1	36.0 -2.3

(5) 家庭学習・家庭との連携

- 国語、算数・数学の指導として、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っている学校の割合は、小学校で全国値より高く、中学校では国語が全国値より低く、数学は全国値より高い。
- 国語、算数・数学の指導として、家庭学習（宿題）の課題を与えている割合は、小・中学校ともに全国値よりも低い。
- 国語、算数・数学の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行っている学校の割合は、小学校で全国値より高く、中学校では国語が全国値より低く、数学は全国値より高い。

	質問事項	小学校 (%)						中学校 (%)					
		H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	国語の指導として、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行ったか。	98.3 +2.7	97.0 +2.1	96.6 +2.4	97.3 +4.3	97.3 +6.7		69.2 -2.8	70.7 -0.3	78.0 +7.4	75.9 +6.1	67.3 +0.7	
2	算数・数学の指導として、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行ったか。	97.7 +2.1	96.2 +1.6	95.9 +2.2	97.1 +4.7	96.8 +6.4		73.7 +1.0	70.1 +0.3	78.9 +7.5	73.6 +3.5	71.4 +4.5	
3	国語の指導として、家庭学習（宿題）の課題を与えたか。	99.3 -0.1	99.2 -0.1	99.3 +0.1	99.3 +0.3	99.6 +0.9	98.4 +1.3	81.3 -8.3	84.1 -4.7	96.5 +7.7	89.1 +2.1	85.5 -1.0	78.6 -5.4
4	算数・数学の指導として、家庭学習（宿題）の課題を与えたか。	99.3 -0.3	100.0 +0.6	99.3 +0.1	99.1 +0.1	99.6 +0.8	98.7 +1.2	89.9 -2.8	92.8 +0.6	94.9 +3.0	92.3 +1.8	94.1 +3.7	87.6 -1.0
5	国語の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行ったか。	97.8 +1.0	95.5 -1.5	100.0 +3.8	96.4 +0.8	98.0 +0.7		93.5 -2.4	95.6 -0.3	90.7 -4.1	94.5 +0.9	94.5 +0.2	
6	算数・数学の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行ったか。	97.3 +0.3	97.0 +0.2	99.3 +3.3	96.4 +1.2	98.4 +1.0		95.9 +0.7	93.9 -1.5	93.2 -0.9	93.6 +0.7	95.9 +1.7	

(6) 教員研修

- 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている学校の割合は、小学校では減少しているが全国値より高く、中学校では増加し、全国値より高い。
- 講師を招聘するなどの校内研修を行っている学校の割合は、小・中学校ともに全国値より15ポイント以上低く、かい離が大きい。
- 授業研究を伴う校内研修を行っている学校の割合は、小学校で全国値より高く、中学校で全国値より低い。

	質問事項	小学校 (%)						中学校 (%)					
		H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っているか。	95.4 +0.6	97.0 +2.4	92.3 -2.1	91.2 -2.5	90.7 -2.0	88.5 -2.8	88.4 +2.0	81.5 -3.8	91.4 +8.2	88.7 +6.2	88.2 +7.0	84.5 +6.0
2	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っているか。	77.6 -15.1	78.1 -13.9	78.4 -13.8	73.7 -18.2	75.0 -17.1	70.1 -20.9	65.2 -19.2	66.6 -17.3	71.1 -11.3	66.4 -16.2	59.0 -23.9	63.6 -19.5
3	授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施したか（9回以上）。	48.3 +1.2	50.5 +4.2	56.1 +9.2	50.0 +6.4	50.5 +4.5	44.5 +0.0	30.8 -0.5	28.9 -1.4	33.0 +4.8	30.5 +4.4	24.0 -3.0	22.7 -2.9

(7) 地域の人材・施設の活用

- 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行っている学校の割合は、小学校では減少しているが全国値より高く、中学校では減少し、全国値より低い。
- 博物館や科学館、図書館を利用した授業を行っている学校の割合は、小学校は全国値より低く、中学校は減少しているが全国値より高い。
- 職場見学や職場体験活動を行っている学校の割合は、小学校で全国値より15ポイント以上低く、かい離が大きい。

	質問事項	小学校 (%)						中学校 (%)					
		H25	H24	H22	H21	H20	H19	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	地域の人材を外部講師として招聘した授業を行ったか。	80.0 +0.7	80.5 -1.6	82.0 +3.4	70.0 -4.2	75.7 +0.9	79.3 +0.9	54.5 -3.1	63.4 +3.1	44.2 -6.8	56.8 +0.2	54.5 -3.4	58.2 -1.4
2	博物館や科学館、図書館を利用した授業を行ったか。	34.2 -3.3	38.9 -1.8	34.6 -1.6	27.3 -6.8	33.1 -3.4	31.9 -6.5	21.7 +7.1	28.0 +12.0	20.2 +6.2	23.7 +7.0	25.9 +7.7	30.7 +10.0
3	職場見学や職場体験活動を行っているか。	25.9 -16.0	32.5 -10.0	22.9 -14.8	22.5 -13.7	25.9 -8.5	22.5 -10.1	99.0 +0.6	98.3 +0.0	100.0 +2.2	99.1 +2.0	97.3 -0.5	99.1 +3.1

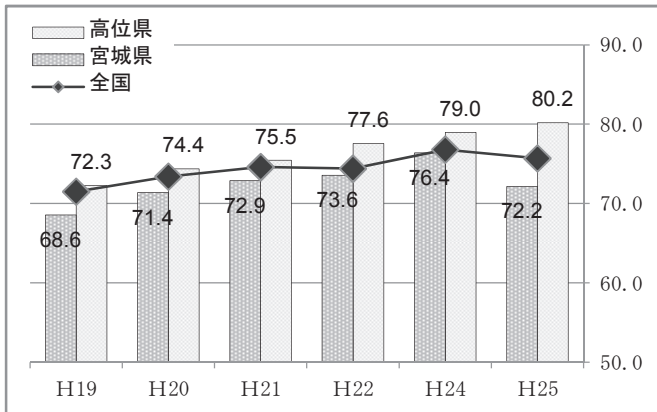
VI 平均正答率の高い県との比較

宮城県全体の課題をより明確に把握したいと考え、児童生徒質問紙調査において、自尊意識、将来の夢や目標、基本的な生活習慣、学習習慣、教科への取組や関心・意欲・態度に関する特徴の見られた10項目について、平均正答率の高い県（以下、高位県）と比較した。また、学校質問紙調査において、地域人材・施設の活用に関する1項目について、平均正答率の高い県（以下、高位県）と比較した。

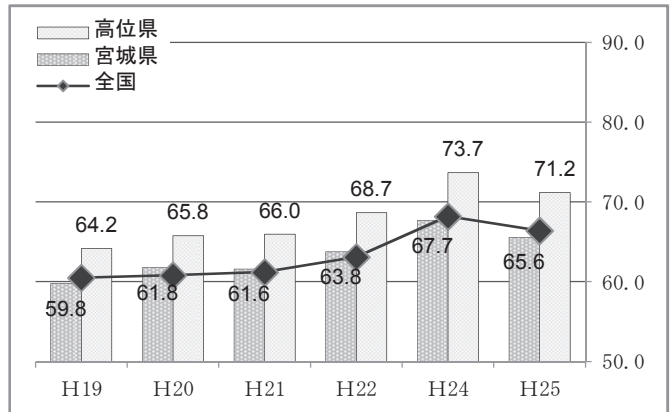
（1）自尊意識、将来の夢や目標に関する質問事項の比較結果

①自分にはよいところがあると思いますか。

【小学校】

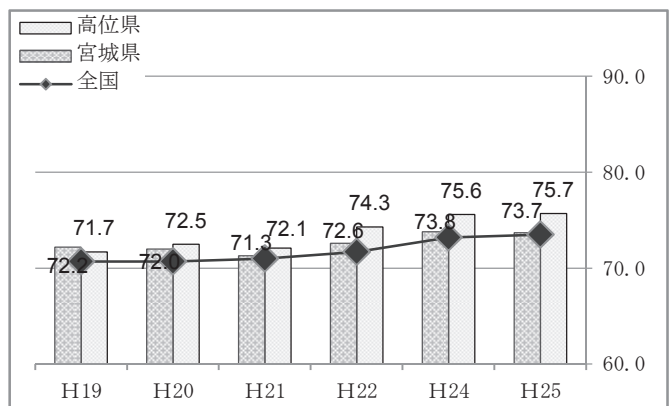
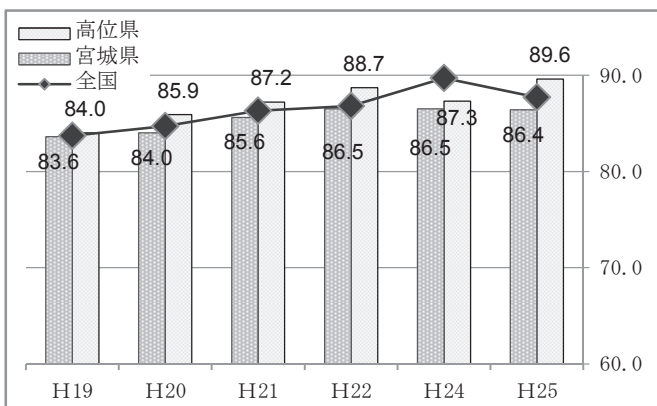


【中学校】



- ・小学生は全国値及び高位県より低い。
- ・中学生は全国値に近いが、高位県より低い。

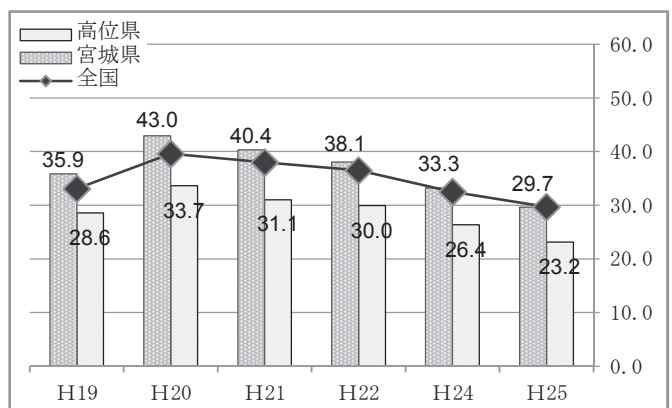
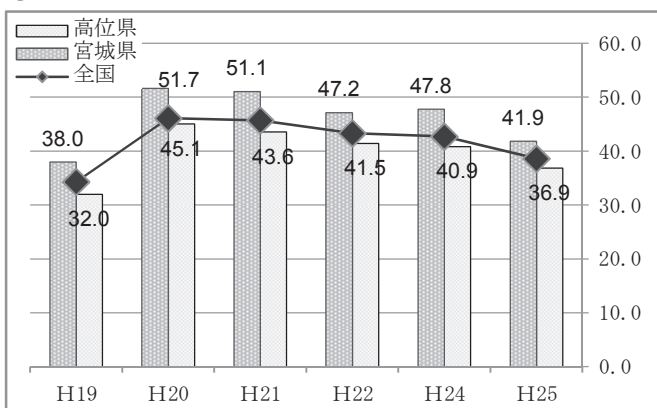
②将来の夢や目標を持っていますか。



- ・小学生は全国値及び高位県より低い。
- ・中学生は全国値とほぼ同じだが、高位県より低い。

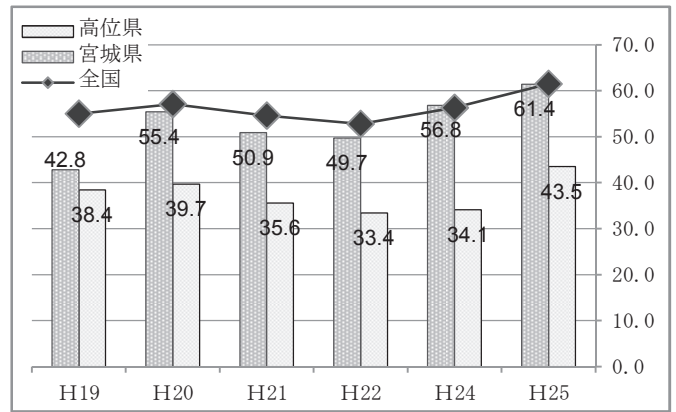
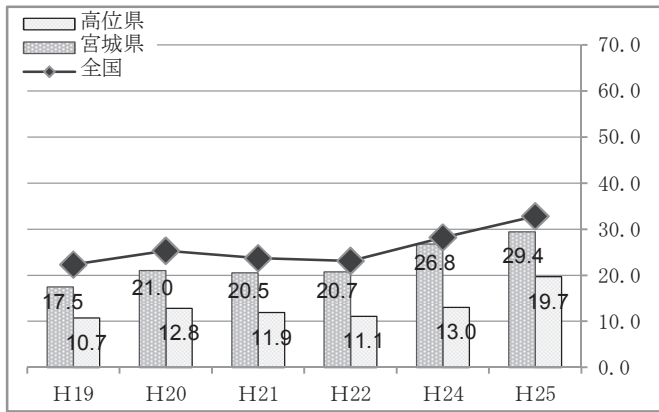
（2）基本的な生活習慣に関する質問事項の比較結果

①1日何時間、テレビ等を見ますか。（3時間以上と回答した割合）



- ・小学生は全国値及び高位県より高い。
- ・中学生は全国値に近いが、高位県より高い。

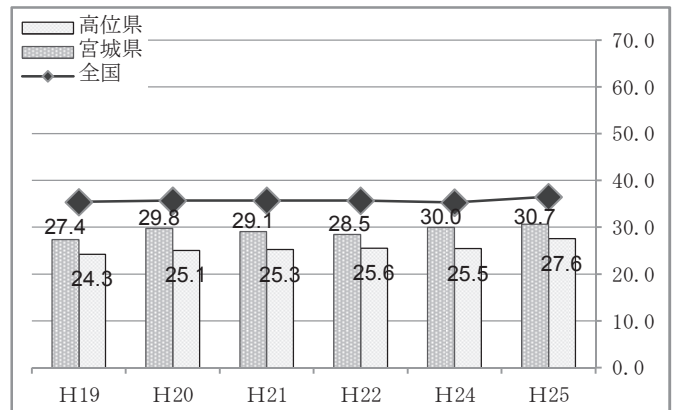
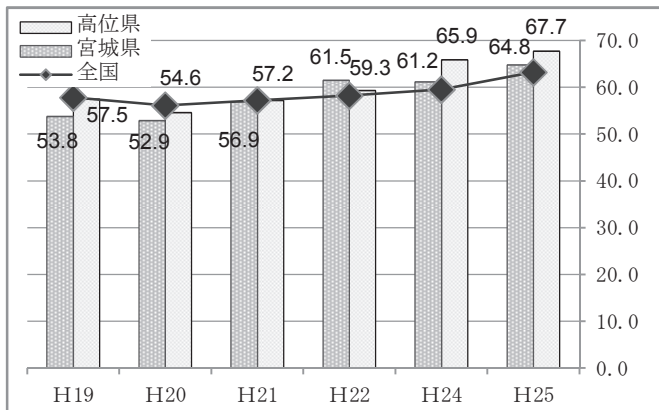
②携帯電話で通話やメールをしていますか。(毎日あるいは時々と回答した割合)



- ・小学生は全国値より低いが、高位県より高い。
- ・中学生は全国値に近いが、高位県より高い。

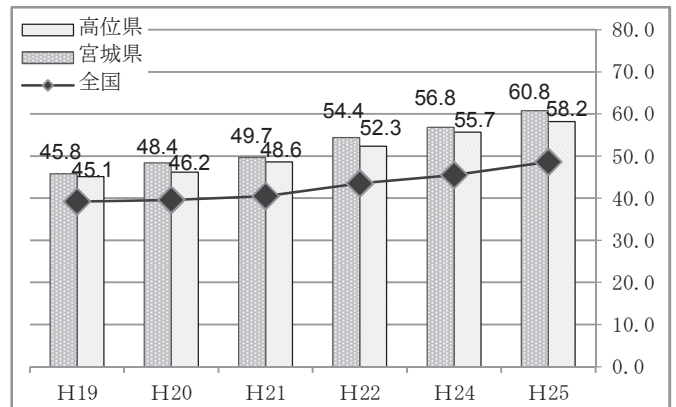
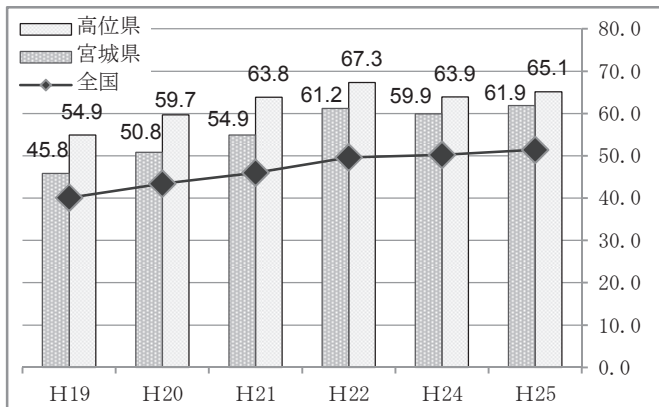
(3) 学習習慣に関する質問事項の比較結果

①普段何時間くらい勉強しますか。(小学校：1時間以上，中学校：2時間以上)



- ・小学生は全国値より高いが、高位県より低い。
- ・中学生は高位県より高いが、全国値より低い傾向が続いている。

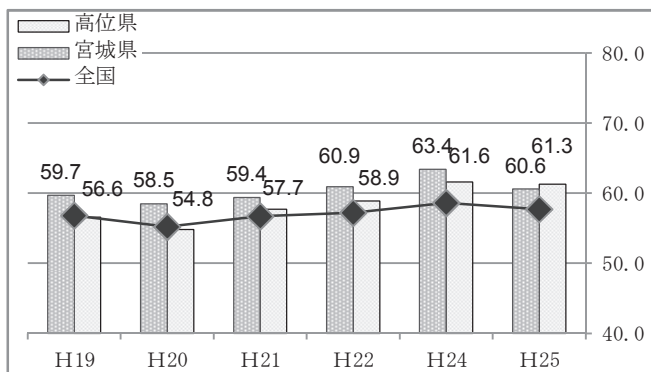
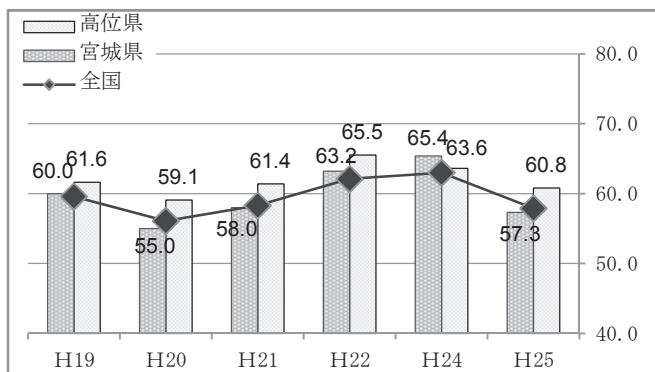
②家で学校の授業の復習をしていますか。



- ・小学生は全国値より高いが、高位県より低い。
- ・中学生は全国値及び高位県より高い。

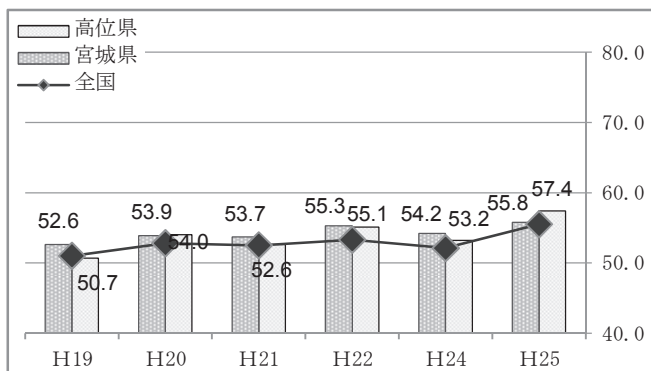
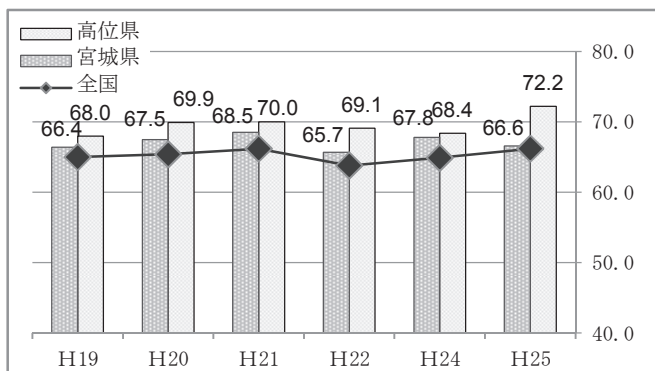
(4) 教科への取組や関心・意欲・態度に関する質問事項の比較結果

①国語の勉強は好きですか。



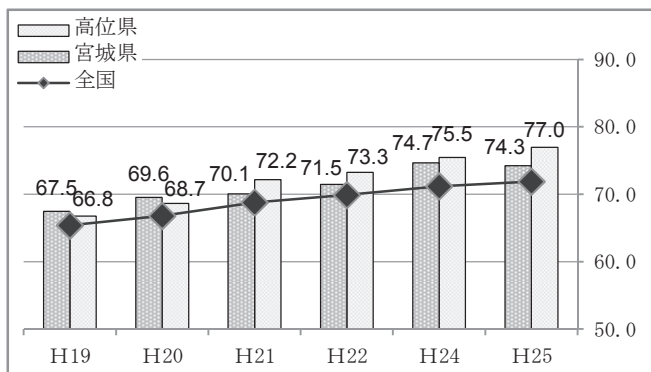
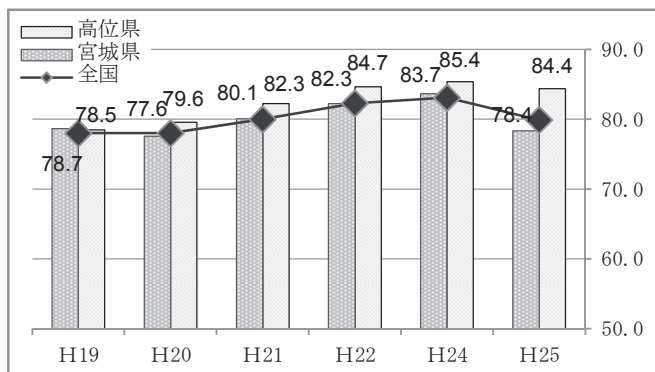
・小・中学生ともに減少し、高位県より低い。小学生は全国値より低い。

②算数・数学の勉強は好きですか。



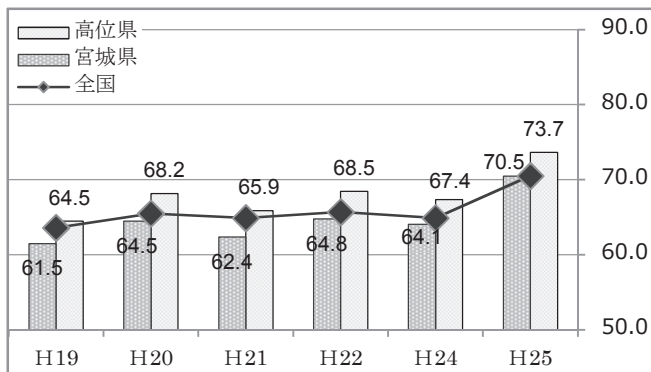
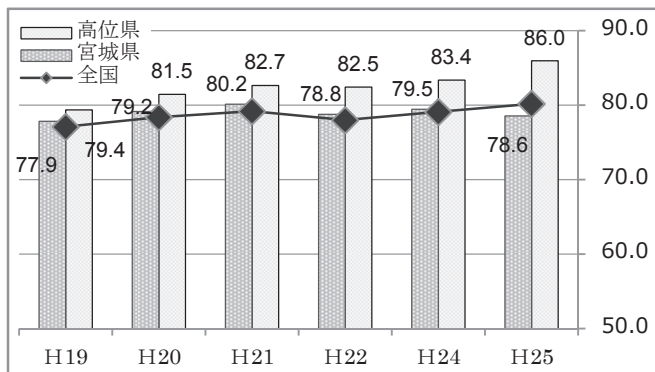
・小・中学生ともに全国値とほぼ同じだが、高位県より低い。

③国語の授業の内容はよく分かりますか。



・小学生は全国値及び高位県より低い。
・中学生は全国値より高いが、高位県より低い。

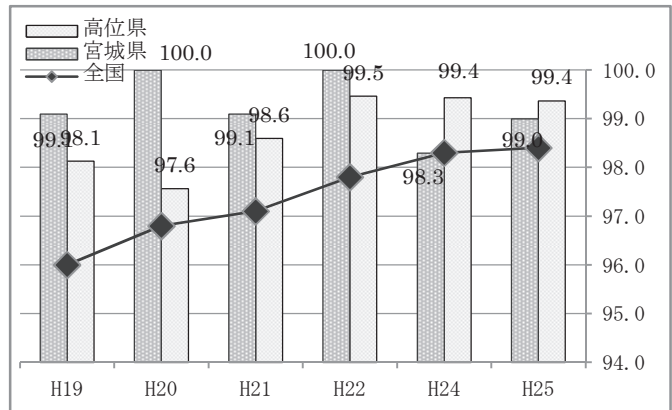
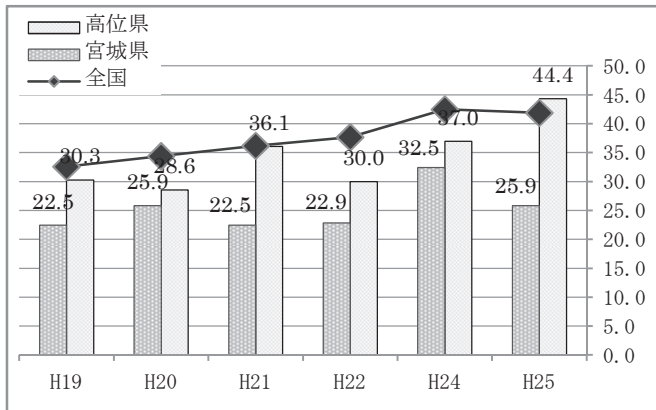
④算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。



・小学生は全国値及び高位県より低い。
・中学生は全国値とほぼ同じだが、高位県より低い。

(5) 地域人材・施設の活用に関する質問事項の比較結果（学校質問紙調査）

①職場見学や職場体験活動を行っていますか。



- ・小学生は全国値及び高位県より低い。
- ・中学生は全国値より高いが、高位県より低い。

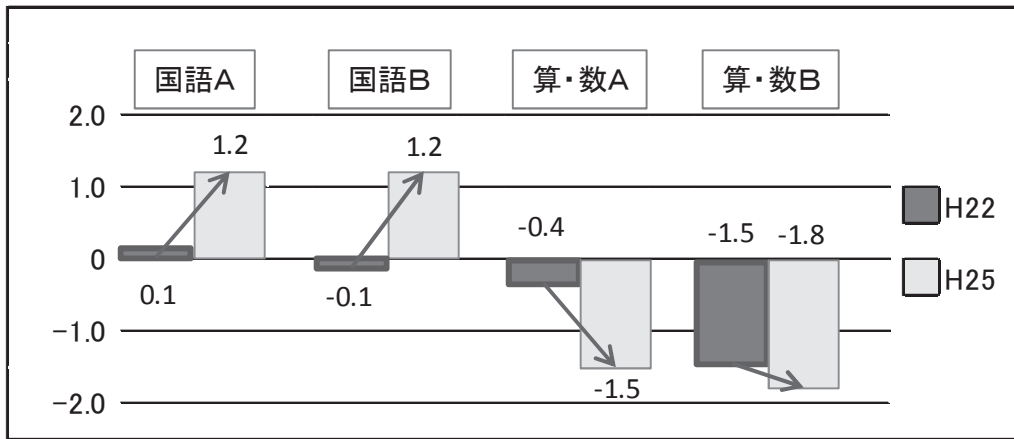
(6) 高位県との比較から見てきた宮城県全体の状況

- 本県児童生徒の自尊意識は、高位県と比較して小・中学生ともに低い。中学生の自尊意識は、本県、高位県、全国ともに昨年度より低下した。小学生については、高位県が上昇したのに対して、本県では低下した。
- 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は、高位県と比較すると小・中学生ともに低い。また、小学生においては全国より低い。
- 長時間テレビやビデオ・DVDを見る児童生徒の割合は、高位県、全国、本県ともに減少傾向にあるものの、本県小・中学生の割合は明らかに高い。また、メールを使用する割合も、本県児童生徒は高位県に比べて高い。
- 平日に家で1時間以上勉強する本県小学生の割合は、高位県よりも低い。2時間以上勉強する本県中学生の割合は、高位県よりも高いが、全国よりは低い。
- 家で授業の復習をする児童生徒の割合は、本県小・中学生ともに全国を上回るが、小学生は高位県より低い。中学生は、高位県よりも高い。
- 国語、算数・数学が好き、授業の内容が分かると答えた本県小・中学生の割合は、ともに高位県を下回っている。しかしながら、本県中学生については、国語・数学ともに授業の内容が分かると答えた割合は、調査開始時に比べて増加の傾向が見られる。

Ⅶ 平成22年度の調査結果との比較

今年度の調査に参加した中学校3年生は、平成22年度調査で小学校6年生として本調査を受けていることから、今年度調査対象となった中学校3年生と平成22年度の小学校6年生の調査結果について、全国平均正答率とのかい離の比較を行った。

○教科に関する調査結果（全国平均正答率とのかい離の比較）



- 国語A, 国語Bにおいては、小学校6年生の時には全国平均と同程度であったが、中学校3年生の時には全国平均を上回る結果となっている。
- 算数A・数学Aにおいては、小学校6年生の時には全国平均をやや下回る程度であったが、中学校3年生の時には全国平均を下回る結果となっている。
- 算数B・数学Bにおいては、小学校6年生の時には全国平均を下回っており、中学校3年生に時にも全国平均を下回る結果となっている。

宮城県検証改善委員会について

宮城県検証改善委員会では、全国学力・学習状況調査の結果等を活用・分析し、教育委員会や学校における効果的な取組や課題を明らかにし、改善につなげるため協議を重ねてきました。その結果、学校改善に活用できる資料として作成したものが本報告書です。

特に今年度は、「みやぎ授業づくりスタンダード」として、授業づくりのための基本的なポイントをまとめ、それを基に小学校国語・算数、中学校国語・数学の授業アイデア例を作成しました。

特に学校においては、本報告書内容を学校や地域の実態に合ったものにアレンジしていただきながら、子供たちの学力向上のために積極的に活用されることを願っています。

学校における活用例～こんな活用はどうでしょうか～

※必要なページをコピーして活用できます。

(宮城県総合教育センターHPからもダウンロードができます。)

【主に、校長先生、教頭先生へ】

○職員会議や打合せ等での活用

- ・自身の豊富な教育経験を例に挙げ、本報告書の内容について教職員へ具体的なアドバイスをするなど

○学校だより等への引用，P T A研修会等での活用

- ・本報告書の内容を引用しながら、学校の特色ある取組を保護者や地域へ発信するなど

【主に、教務主任の先生、研修を担当する先生へ】

○各種会議等での参考資料として活用

- ・研修会、授業研究会、指導計画作成会議等において、本報告書の内容を参考に協議の観点を設定するなど

○研修だより等への活用

- ・本報告書の内容にかかわって校内外の優れた実践例などを掲載し、校内の教職員で共有するなど

【学級担任の先生、教科担任の先生、指導にかかわる全ての方へ】

○授業づくり、学級づくりなどへの活用

- ・学級経営案や教科指導方針の作成や、授業づくりのポイントをつかむ参考資料として活用するなど
- ・子供の実態を踏まえて、学習習慣の形成に向けて共通理解したい事項を確かめるなど

《平成25年度宮城県検証改善委員会》

回	月 日	主 な 活 動 内 容
1	7月 3日	・本委員会の方針，計画等の決定
2	9月 5日	・平成25年度全国学力学習状況調査結果の分析，課題等の整理
3	10月 3日	・課題を踏まえた指導改善のポイントの吟味，提言内容の協議 ・報告書の構成内容の決定
4	10月25日	・報告書内容の吟味，表現の仕方等の検討
5	11月22日	・報告書内容，表現の吟味，校正

《平成25年度宮城県検証改善委員》

吉村 敏之	(宮城教育大学教職大学院 教授)
山谷 幸司	(仙台大学 教授)
大村 進	(白石市立越河小学校 校長)
太田 文子	(富谷町立東向陽台小学校 教頭)
阿部 朋樹	(石巻市立住吉中学校 教諭)
鎌田 鉄朗	(義務教育課 課長補佐)
高橋紳一郎	(大河原教育事務所 主任主査)
一條 美奈	(北部教育事務所 主幹)
山尾 健一	(南三陸教育事務所 主幹)
佐々木清光	(総合教育センター 副所長)
白鳥 智之	(総合教育センター 副参事)
高橋 琢哉	(総合教育センター 次長)
萱場 恒行	(総合教育センター 主幹)
小松 昭	(総合教育センター 主幹)
稲辺 正浩	(総合教育センター 主幹)

『学力向上に関する緊急会議』からの提言

宮城県教育委員会

本県の学力の状況については、これまで改善傾向にあったものの、今回の学力調査では一転してほとんどの教科で全国値を下回る結果となりました。

そのため、県教育委員会では、学力向上を図るための緊急会議を平成25年10月2日に開催しました。

この緊急会議においては、本県児童生徒の状況や学力等について、精神科医、大学教授、地教委教育長、PTA代表、小中学校教員等で話し合い、今の子供たちに対しては、心のケアを行いつつ、分かる授業を行うことが重要であることを確認しました。

子供たちが安心して学校生活を送り、学習意欲や自信を持たせるためには、教師と子供、子供同士の好ましい人間関係を築くとともに、分かる・できる授業づくりを積み上げていくことが必要です。人間関係づくりや授業改善は一朝一夕にはできませんが、その足がかりとして、すぐに着手できることはあります。

各学校のすべての先生方に、明日からすぐに取り組んでいただきたい事項を「学力向上に向けた5つの提言」としてまとめましたので、実践化に努めるようお願いいたします。

学力向上に向けた5つの提言

1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。

どの子供にも一日一回は声を掛け、子供の話をじっくり聞くことが、心のケアや人間関係づくりにつながります。

2 子供をほめること、認めること。

子供は、ほめられると集中力が高まります。授業中にほめたり認めたりすることは、学習評価のひとつです。

3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

本時のねらいをより具体的に設定し、1単位時間で育てる力を明確にします。授業の終末には、子供の学びを的確に把握し後の指導に生かすようにしましょう。

4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。

黒板を書き写すだけでなく、自分の考えをノートに書くように指導します。書くことは、思考力、表現力を育てます。ワークシートではなく、ノートづくりを徹底しましょう。

5 家庭学習の時間を確保すること。

学校で学んだことを家庭で復習することは、知識や技能の定着につながります。予習は、授業での理解を早めます。何よりも保護者から、子供に声を掛けたり子供の努力を認めたりすることが、家庭学習への意欲づけになります。そのことを保護者に伝えましょう。また、各学校で作成している「家庭学習の手引き」の中に、家庭学習のメニューを具体的に記載するとともに、適度な量の宿題を課しながら家庭学習を習慣づけましょう。

宮城県検証改善委員会報告書
教師も子供も「本気で取り組む」
みやぎ授業づくりスタンダード

発行年月 平成26年1月

編集発行 宮城県総合教育センター

住 所 名取市美田園2丁目1番4号

電 話 022-784-3541